クボタゼロ旋回モーア

取扱説明書

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

シンボル	意味
	注意マーク
	ディーゼル軽油
	燃料計
	ブレーキ
	駐車ブレーキ
	エンジン停止
	エンジン予熱
	エンジン運転
	エンジン始動
	PTO“切”
	PTO“入”
	モーア上げ 集草バッグ上げ
	モーア下げ 集草バッグ下げ
	刈高さ
	高速
	低速
	エンジン回転調整位置
	バッテリ
	エンジンオイル圧力
	水温計
	集草バッグ回動（排草）
	集草バッグ回動（戻し）

は　じ　め　に

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

安　全　第　一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお， 表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

表示	内容
	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

専門用語の説明

● rpm　..............　１分間の回転数（レボリューションパーミニッツ）
● PTO　..............　動力取出し（パワーテイクオフ）
● HST　..............　油圧変速装置（ハイドロスタティックトランスミッション）

目　次

目　次

調整

格納

不調と処置

付表

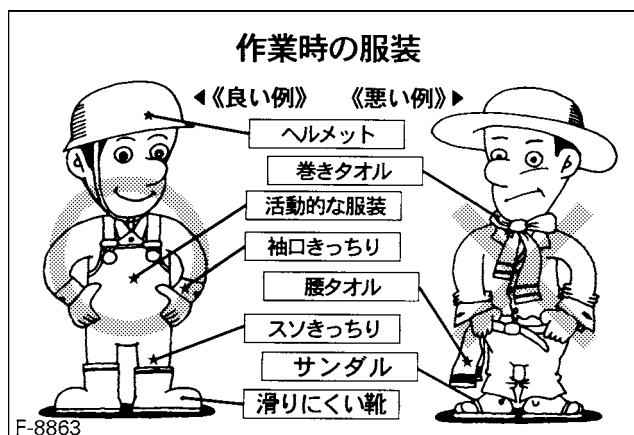
⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で ⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足 としてそのつど取上げています。

運転前に

F-8822

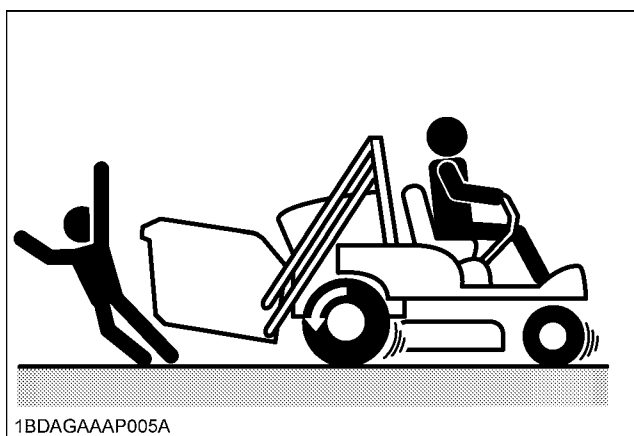
1. 本機を動かす前に，本機及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
   特に，通常のハンドルタイプと異なる操作方法です。また，ブレーキペダルはありますが，停止及び減速操作は，速度調整レバーで行ってください。
2. 本機の停止及び，モーアやエンジンをすばやく停止する方法を知っておいてください。
   どのような緊急事態にも対応できるようにしてください。
3. 本機，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
4. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
5. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，本機を運転しないでください。

6. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，滑りにくい靴を着用し，必要に応じて安全靴，保護めがねや手袋などを使ってください。
7. 本機を改造しないでください。改造すると，本機の機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
8. 安全カバー類を外した状態で本機，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，速度調整レバーや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**“本機の簡単な手入れと処置”**の章参照）
9. 本機は常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。
   又，燃料パイプ及び電気配線を定期的に点検整備してください。火災などの原因になります。
10. モーアの上に立たないでください。
11. 集草バッグの上に立ったり，物を載せたりしないでください。
12. 集草バッグの昇降機構を集草バッグの昇降以外の目的で使用しないでください。
13. クボタ推奨作業機以外は装着使用しないでください。
14. 作業機装着時はその取扱説明書，警告ラベルにある注意事項に従ってください。

始動時に

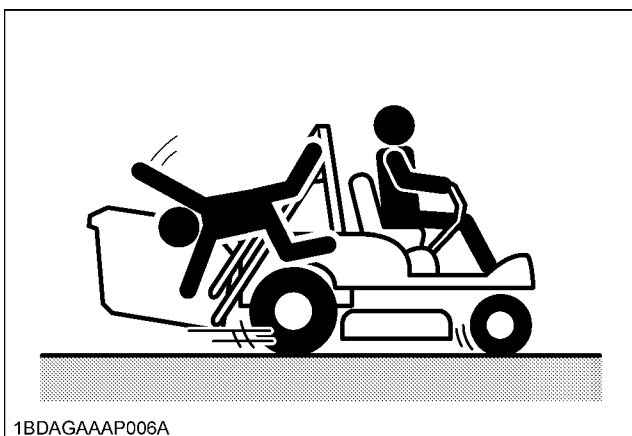
1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーが **“中立”**，速度調整レバーが **“中立固定”** かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているか，そして PTO が確実に **“切”** の位置になっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
本機が突然動き出すおそれがあります。

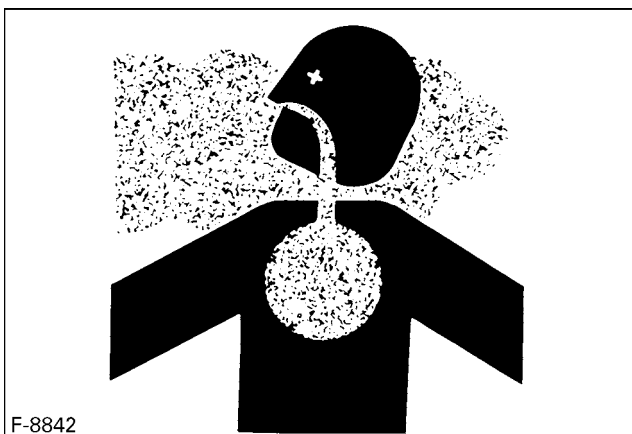
1BDAGAAAP004A

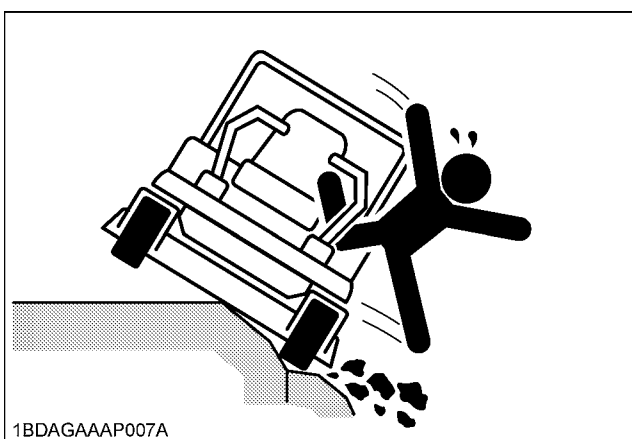
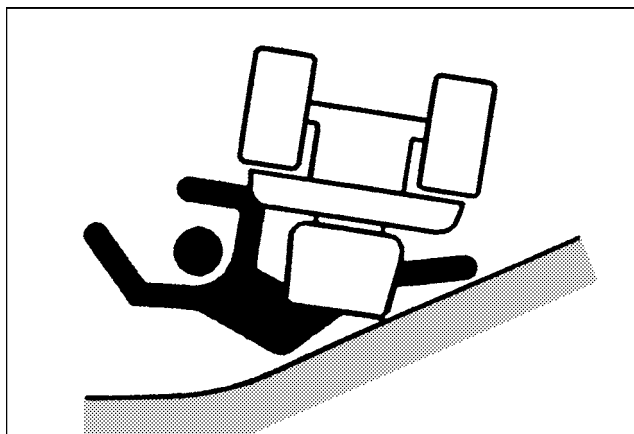
3. 本機を始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
停車時は駐車ブレーキをかけてください。

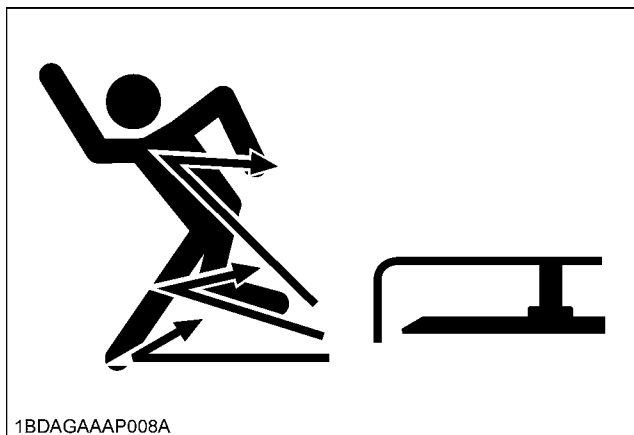
1BDAGAAAP005A

運転時に

1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せて本機を運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。

1BDAGAAAP006A

2. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

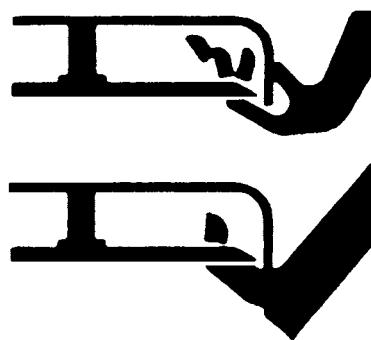
F-8842

3. 溝や穴の近く，路肩など本機の重みでくずれやすい所では運転しないでください。

1BDAGAAAP007A

4. 傾斜地や凹凸地、ぬかるんだ場所，湿った草ではスリップし転倒しやすいので，特に運転操作に注意してください。
5. 転倒やスリップのおそれがある場所で使わないでください。
6. 高速・急発進・急停止・急旋回など，急激な運転操作をしないでください。
7. 斜面では上下方向に刈り，等高線刈りはしないでください。
8. 登坂不能時は刈刃を止め，ゆっくり真直ぐに降りてください。駆動を切り惰性で斜面を降りないでください。

9. 作業場所を点検して，針金，石など飛散のおそれがある物は除去してください。
10. 機械の周囲や，草の吐出し方向に人がいないことを確認しながら作業してください。

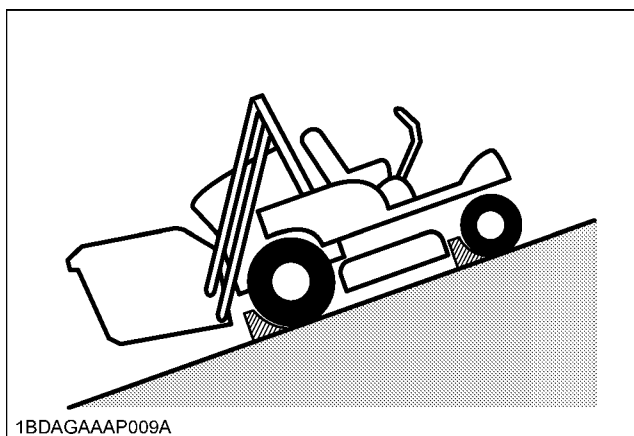
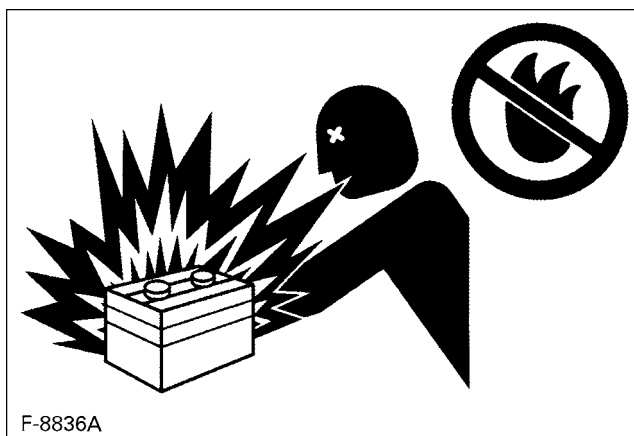
1BDAGAAAP008A

11. 後進時は後方の安全を充分確認しかつ，必要な場合以外は刈刃を停止して後進してください。
手足を刈刃に近づけるときはエンジンを停止しキーを抜いてください。
12. 火災のおそれがあるので排気を草や木の葉の堆積物などの可燃物には近づけないでください。
13. 公道は走行しないでください。公道での移動はトラックに積載して行なってください。
14. 斜面では，集草機は **“下げ，閉”** の位置で使用してください。昇降，開閉操作及び，**“下げ，閉”** 位置以外での使用はしないでください。
15. 草刈りは昼間，又は良好な照明を使用して行なってください。
16. 移動状態（モーア吊上げ状態）で作業をしないでください。
17. 集草機やモーアの脱着や芝草の詰まり掃除などを行なうときは，
   - 平たん地で行なってください。
   - すべてのレバー及びペダルを中立位置にしてください。
   - エンジンを停止してください。
   - キーを抜いてください。
   - 駐車ブレーキを掛けてください。
   - 刈刃が停止していることを，確認してください。
18. 障害物に当たったときは，停止し，本機，モーア及び集草機の破損を点検してください。作業を再開する前に，破損部を修理してください。
19. 起伏地や高い草を刈るときは，異物や，かくれている障害物に当たる危険性を少なくするため，刈高さを高くセットしてください。

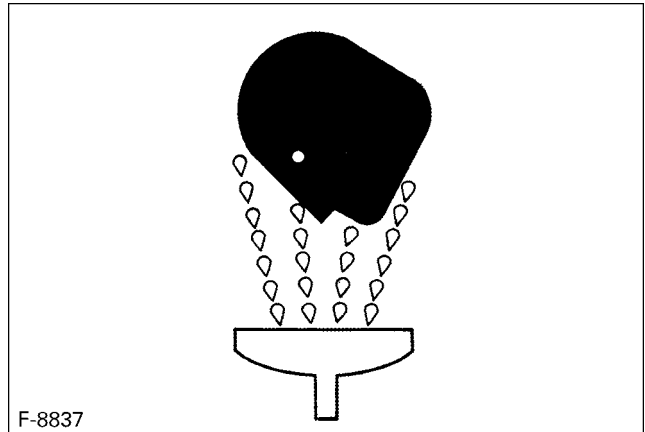
F-8972

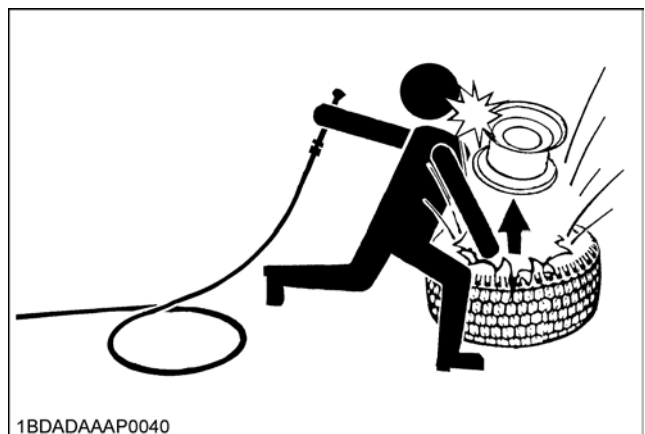
駐車、格納時に

1BDAGAAAP009A

1. 駐車するときは，平たんで本機が安定する場所を選び，各レバーを **“中立”**，速度調整レバーを **“中立固定”**，駐車ブレーキを **“掛け”**，エンジンを **“停止”** してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
3. 格納などで本機にシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
4. 作業後は，集草バッグの中の草や枯れ葉はきれいに捨ててください。草や枯れ葉の湿気はバッグを痛めます。また乾いた草や枯れ葉は火災の原因ともなります。

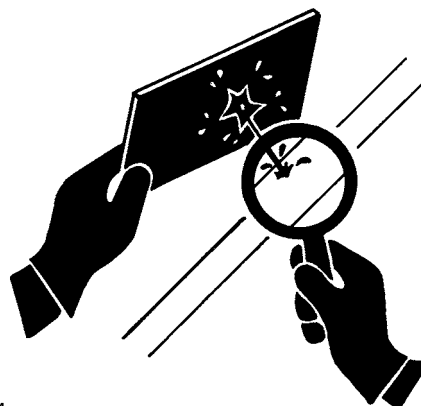
点検・給油・整備時に

F-8836A

1. 平たんな場所に駐車し，作業機を **“下げ”**，駐車ブレーキを **“掛け”**，各レバーを **“中立”**，速度調整レバーを **“中立固定”**，PTO を **“切”** にし，そしてエンジンを停止してください。
2. 本機及びモーアが動いているときは，いかなる調整や修理をしてはいけません。
3. エンジン・マフラなどが十分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。
4. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

5. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(エンジンの始動と停止の章 **"バッテリあがりの処置"** を参照)
6. バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
   ＊ バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐにUPPER LEVEL とLOWER LEVEL の間まで補水してください。
7. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
8. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

F-8837

9. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
10. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
11. タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

1BDADAAAP0040

12. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

F-8847A

13. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

G-4764

14. 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
   ＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
   ＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
   ＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

1BJABAAAP018A

表示ラベルと貼付位置

1BDABANAP002A

(1) 品番　K2018-6581-1

1BDAGAAAP021A

(2) 品番　76598-4931-1

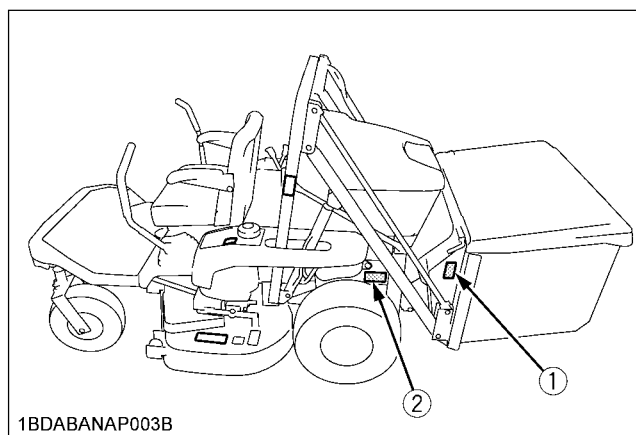
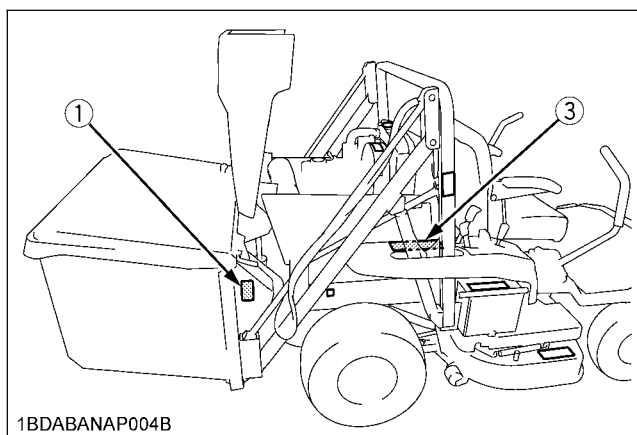
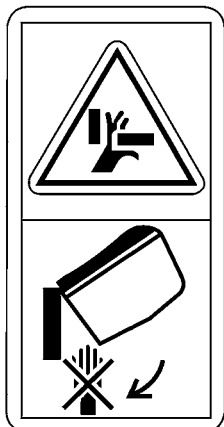
1BDABCFAP0140

● はさまれ，まきこまれの恐れがあるので手足を近づけないこと

1BDABANAP004B

1BDABANAP003B

(1) 品番　K6082-6582-1

1BDABANAP082A

- はさまれる恐れがあるので
  手を近づけないこと

(2) 品番　T0180-4965-2

警　告

トラクタが突然動きだす恐れがあるため：
- 地上に立って、エンジンを始動しないこと
- 安全スイッチ回路を直結しないこと
- スタータを直結してエンジンを始動しないこと

1BDAGAAAP010A

(3) 品番　K6082-6592-1

注　　意

使用時は以下の事項を守って下さい。

1. 湿った草や長い草を刈る場合は減速すること。
2. やわらかい地面、傾斜地、凹凸地では、集草バッグを上げないこと。
3. 集草バッグを上げた状態で、急なターン及び走行をしないこと。
4. 集草バッグを上げる前に必ずPTOを切ること。
5. 草のつまり等を取り除く際はエンジンを切ること。
6. 集草作業時には必ずフロントウエイトを取り付けること。
7. 確実に集草機を閉じてから下げること。
8. 集草機の全部品を所定の位置に取り付けて作業すること。

1BDAGAAAP022A

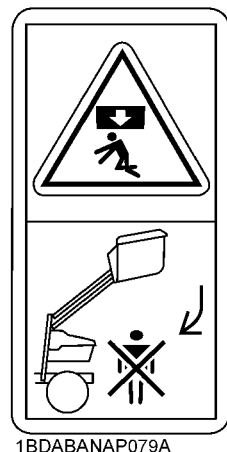
1BDABANAP004A

1BDABANAP003A

(1) 品番　6C090-4958-2

1BDABARAP113A

指を切傷するので
ファンベルトに
触れないこと

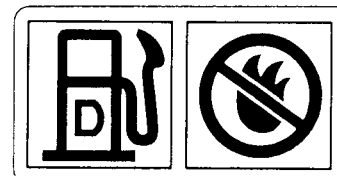
(2) 品番　K6082-6583-1

1BDABANAP079A

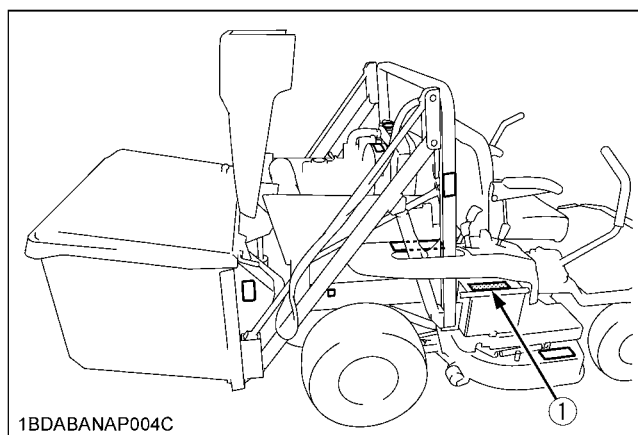
集草バッグが落下する
恐れがあるので下に
入らないこと

(3) 品番　K3512-4719-1

1BDABANAP080A

ヤケドをするので
マフラや排気口に
手や身体を近づけ
ないこと

(4) 品番　K2011-6516-1

1BDABANAP081A

- ディーゼル軽油を使用のこと
- 火気厳禁

1BDABANAP004C

(1) 品番　K2013-6112-1

● 火気厳禁

● メガネ着用

● こども禁止

● 硫酸注意

● 説明書熟読

● 爆発注意

1BDABANAP085A
1BDABANAP123C

表示ラベルの手入れ

- ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

■ ご相談窓口

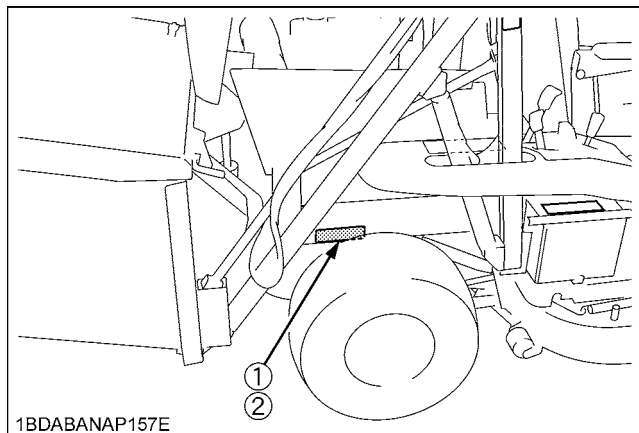
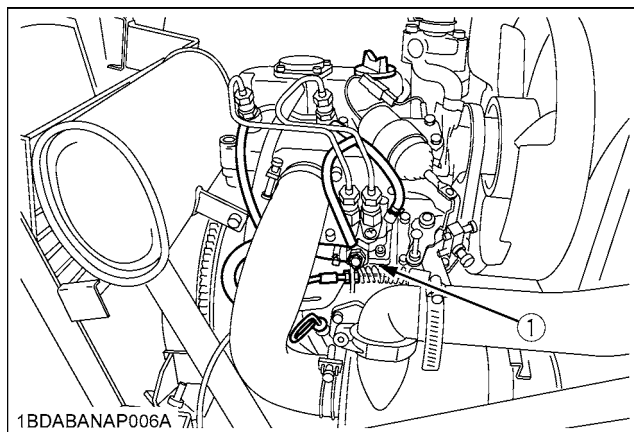
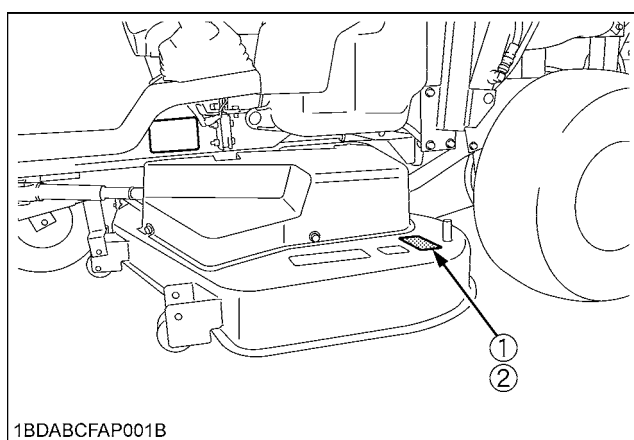
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ **“ご相談窓口”** を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘版に記載している

1. 型式名と車台番号
2. エンジン名称とエンジン番号
3. モーア名称とモーア番号

を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

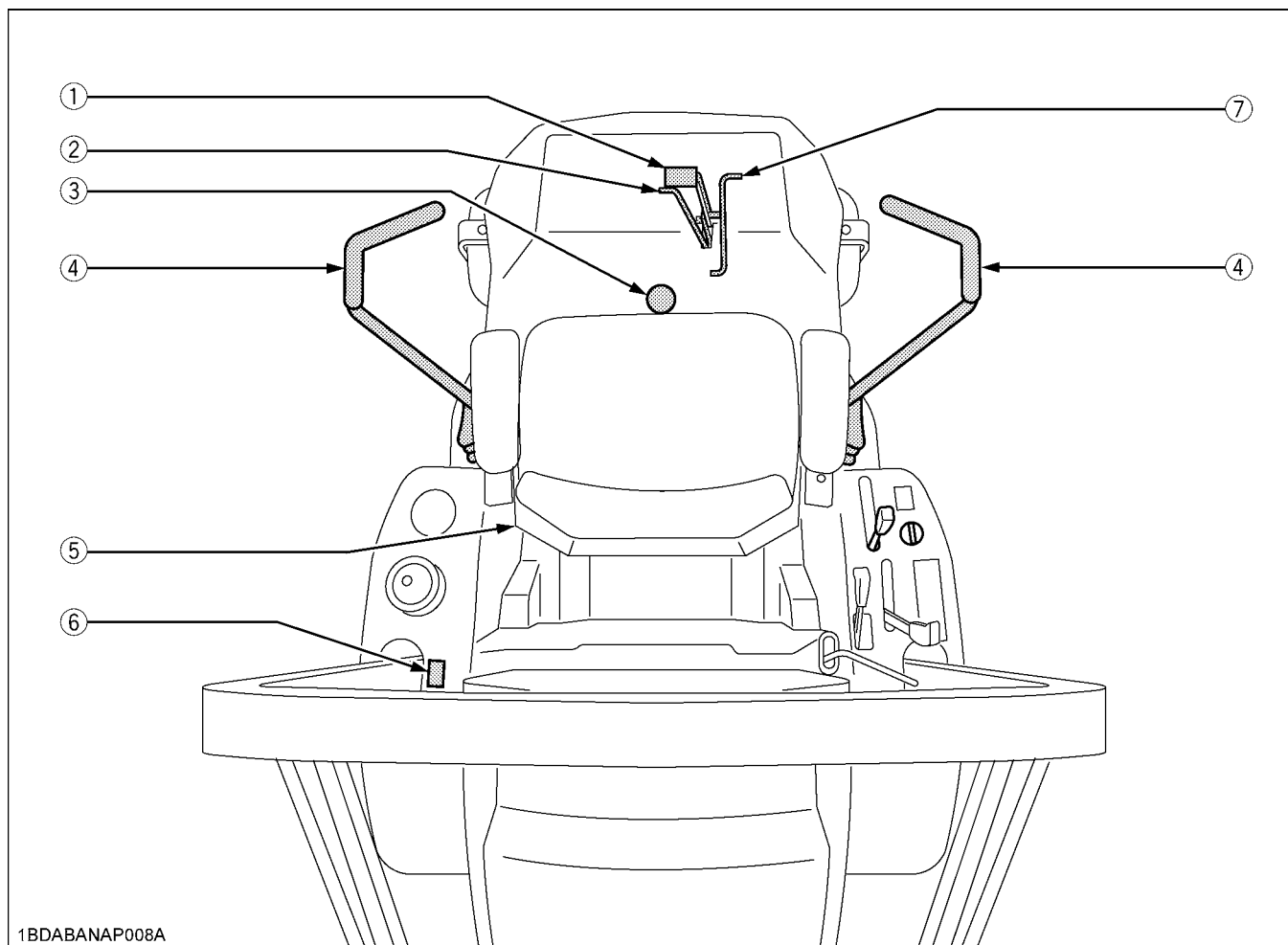
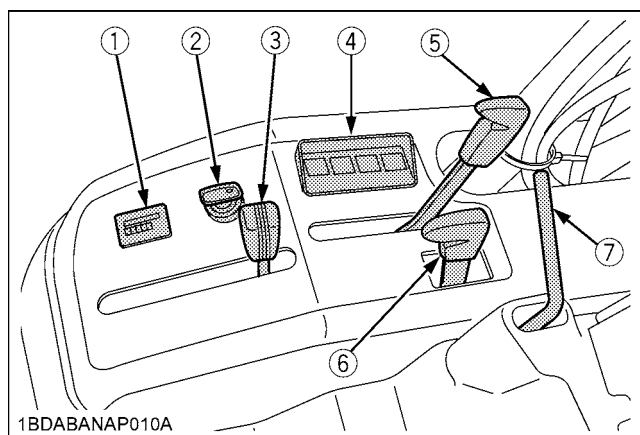
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

(1) 型式ラベル
(2) 型式名，車台番号

(1) エンジン名称，エンジン番号

(1) モーア型式ラベル
(2) 型式名，モーア番号

運転に必要な各部の名称

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦

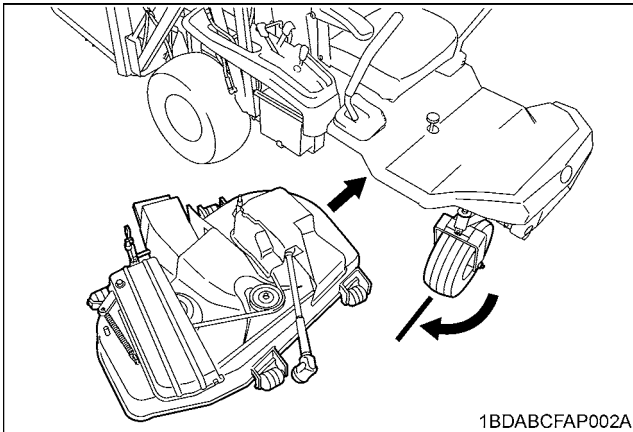
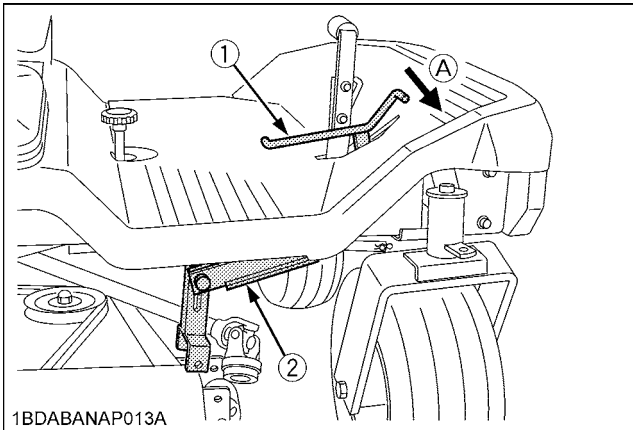
1BDABANAP008A

(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキロックペダル
(3) 刈高さ調整ダイヤル
(4) 速度調整レバー
(5) シート
(6) 燃料計
(7) モーア昇降ペダル

(1) 積算時間計（アワメータ）
(2) キースイッチ
(3) PTO レバー
(4) イージーチェッカ
(5) アクセルレバー
(6) 集草バッグコントロールレバー
(7) クイッククリーンレバー

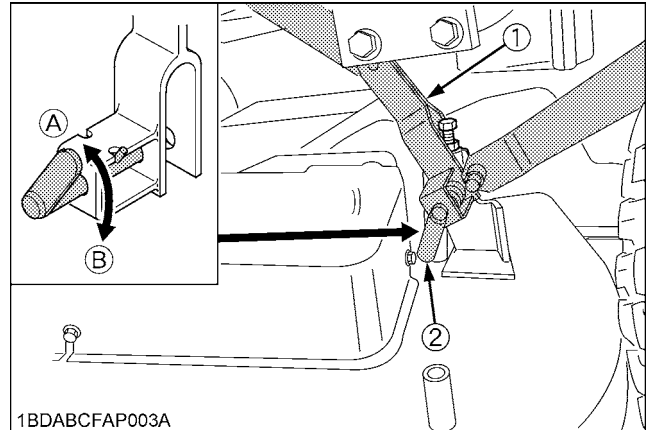
モーアの着脱

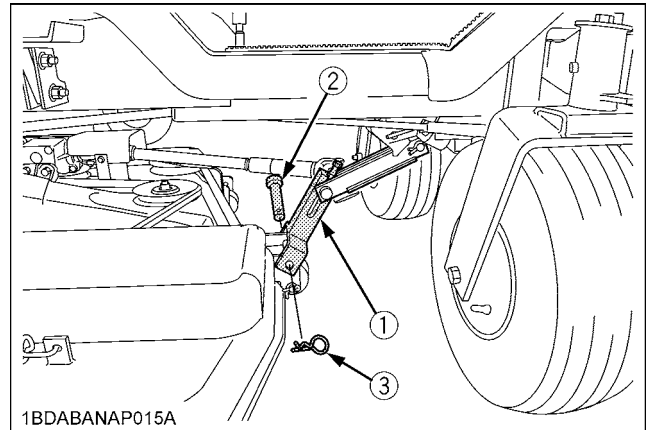
注 意

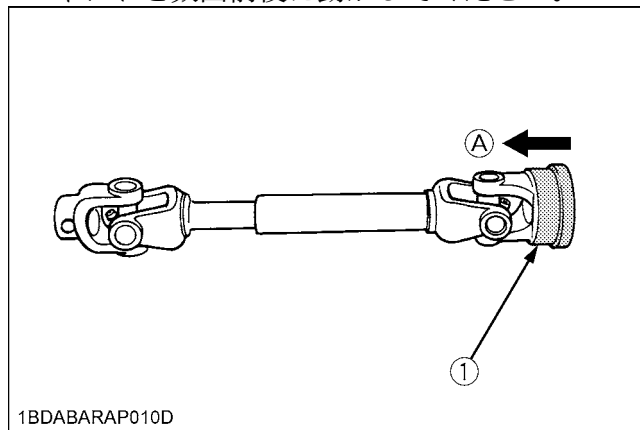
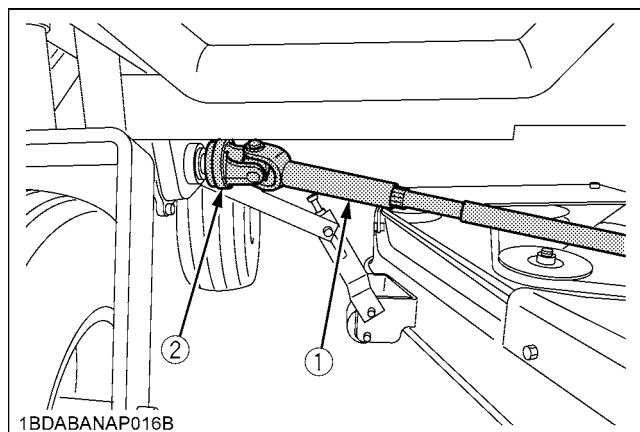
＊ モーアデッキを着脱する前，必ずエンジンを停止して PTO レバーは“切”の位置にしてください。
＊ モーアデッキの着脱は，固い平たんな場所で行ない、駐車ブレーキを確実にかけてください。

■モーアの装着

1. 本機の右側にモーアデッキを置き，前輪を右に向けてください。
この時，刈高さ調整ダイヤルを **“0”** ポイントにしておいてください。
2. モーアデッキを本機の下に滑り入れてください。

3. モーア昇降ペダルを **“下げ”** 側にしたままで，フロントアームを引き下げてください。

(1) モーア昇降ペダル　(A) “下げ”
(2) フロントアーム

4. モーアデッキをリヤアームのＬ型支点ピンでロックしてください。

(1) リヤアーム　(A) “ロック解除”
(2) L 型支点ピン　(B) “ロック”

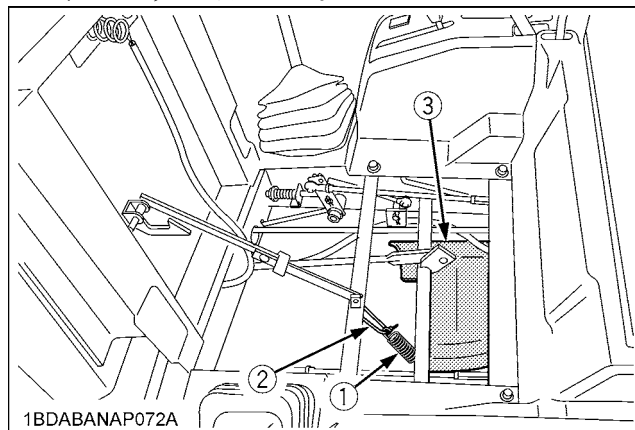
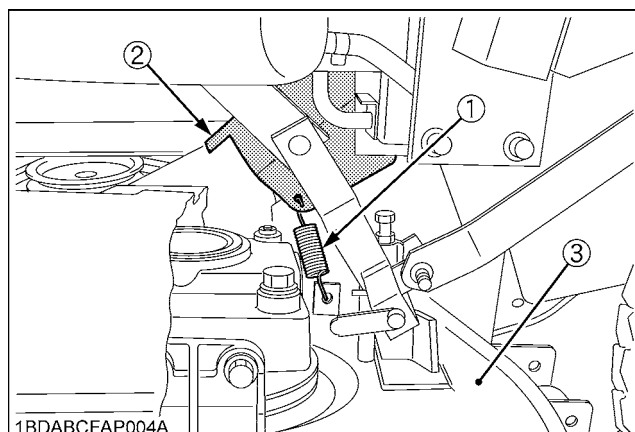
5. フロントリンクをモーアデッキに頭付きピンとスナップピンで取付けてください。

(1) フロントリンク
(2) 頭付きピン
(3) スナップピン

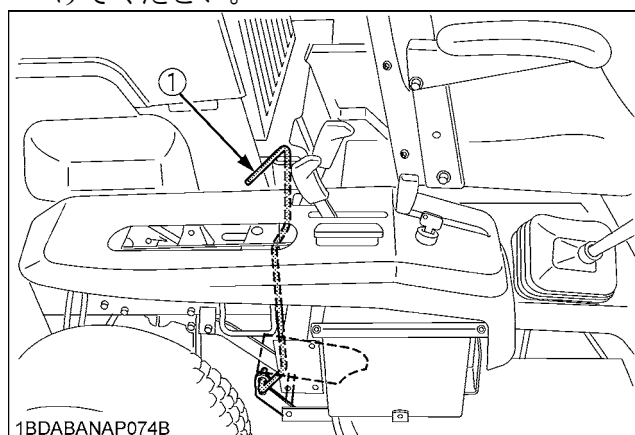
6. ユニバーサルジョイントを以下の要領で装着します。
ユニバーサルジョイントのカプラを引いてください。
カプラが元の位置に戻りロックするまでユニバーサルジョイントを PTO 軸に押入れてください。
ユニバーサルジョイントが完全にロックされているかを確認するためにユニバーサルジョイントを数回前後に動かしてください。

(1) カプラ　　(A) “引く”

(1) ユニバーサルジョイント
(2) カプラ

重　要

＊ しっかりと固定されているかどうかをチェックするために最後にユニバーサルジョイントを引いてみてください。

7. シートを起こしてください。(**“本機の簡単な手入れと処置”**の項の**“シートの開閉”**参照)

8. ダクトカバーをモーアデッキにつけるためビニルバンドからスプリングを外しモーアデッキにかけてください。

(1) スプリング
(2) ビニルバンド
(3) ダクトカバー

(1) スプリング
(2) ダクトカバー
(3) モーアデッキ

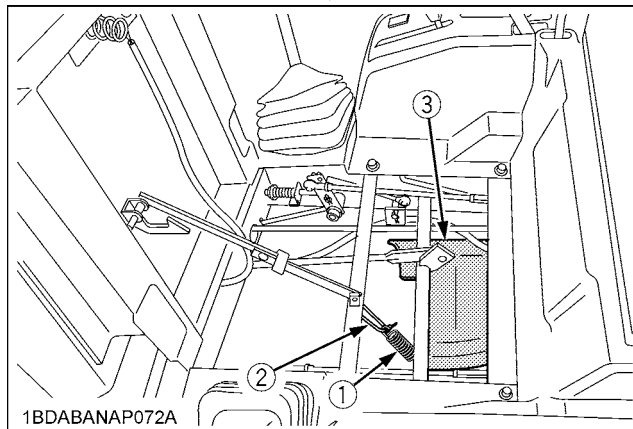
9. シートを戻してください(**“定期点検”**の項の**“シートを起こす”**参照)
10. クイッククリーンレバーをモーアデッキに付けてください。

(1) クイッククリーンレバー

11. モーアを装着したらモーアの高さを確認してください。必要な場合にはモーア高さを調節してください。(**"刈高さ調整"** の項参照)

■モーアの取外し

モーアデッキを外すには上記の手順の逆を行なってください。

補　足

＊ 最初にモーアデッキからスプリングを外しビニールバンドにかけてください。

(1) スプリング
(2) ビニルバンド
(3) ダクトカバー

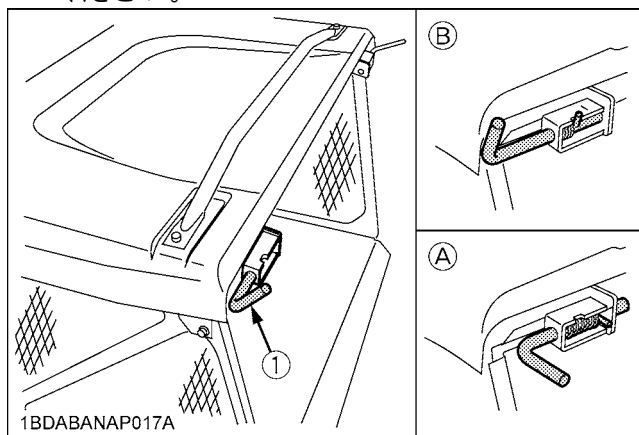
集草バッグの着脱

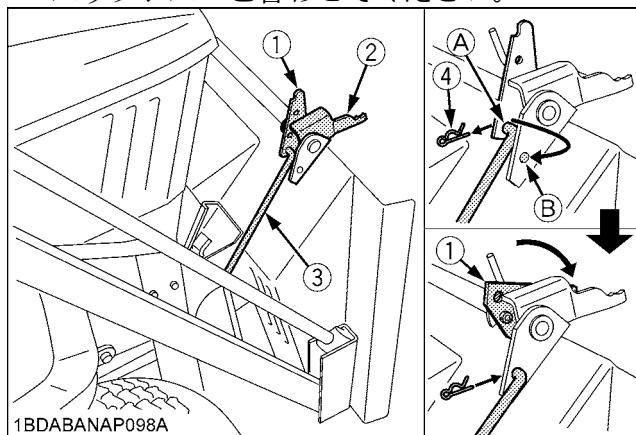
集草バッグの装着

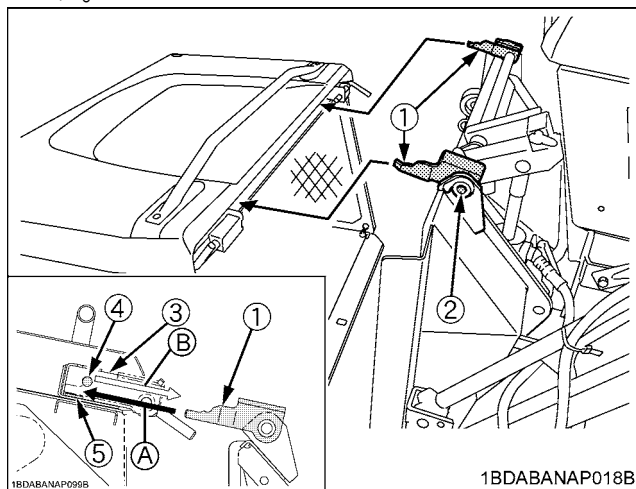
重　要

＊ シリンダ内部に圧力が残り，集草バッグの着脱がしづらい場合があります。
次の手順に従って，着脱をおこなってください。

＊ 集草バッグの着脱の前に作業機を降ろし，本機を固い平たんな場所に駐車し，エンジンを止め，キーを抜いてください。

1. 本機を平たんで広い場所に駐車し，駐車ブレーキをかけてください。
2. エンジンをかけ,集草バッグ操作レバーを**"回動（排草）"**位置にして，すこし回動させてください。
3. エンジンを停止し，キーを抜いてください。
4. L 型支点ピンを引張って回し，**"ロック解除"**の状態にしてください。反対側も同様にしてください。

(1) L 型支点ピン　(A) "ロック"　(B) "ロック解除"

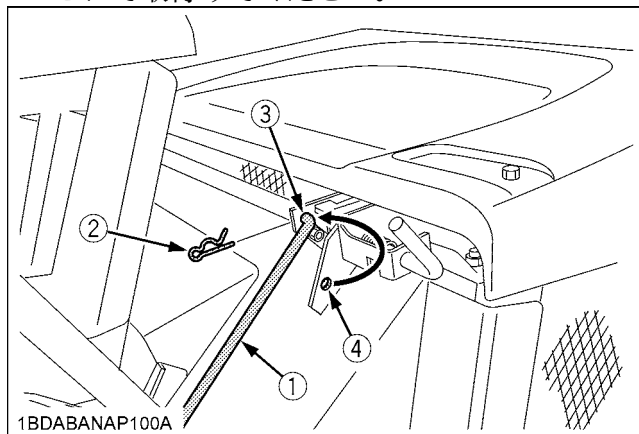
5. スナップピンを外し，ロッドの位置を一時的に穴 (A) から穴 (B) へ付替えてください。スナップピンを取付け，スイッチプレートをバッグレバーと合わせてください。

(1) プレートスイッチ（集草バッグ検出スイッチプレート）
(2) バッグレバー
(3) ロッド
(4) スナップピン

6. 集草バッグを持ち上げバッグレバーに引掛けてください。L 型支点ピンと固定穴の位置を合わせ，L 型支点ピンを回して**"ロック"**の状態にし，ピンの先を固定穴に入れてください。

(1) バッグレバー　(A) "取付け"
(2) 固定穴　(B) "取外し"
(3) 集草バッグ
(4) ピン
(5) プレート

7. ロッドを穴 (B) から穴 (A) へ戻し，スナップピンで取付けてください。

(1) ロッド
(2) スナップピン
(3) 穴 (A)
(4) 穴 (B)

注 意

＊ 安全装置はロッドをプレートスイッチに取付けないと，正しく作動しません。
正しく組付けられていないと PTO レバーを“入”にしたとき安全スイッチが作動してエンジンが停止します。

集草バッグの取外し

1. 本機を平たんで広い場所に駐車し，駐車ブレーキをかけて，キーを抜いてください。
2. 集草バッグ操作レバーを**“回動 （排草）”**位置と**“回動（戻し）”**位置とに数回動かし，油圧を抜いてください。
3. L 型支点ピンを引張って回し，**“ロック解除”**の状態にしてください。反対側も同様にしてください。
4. 集草バッグを外してください。

エンジンの始動と停止

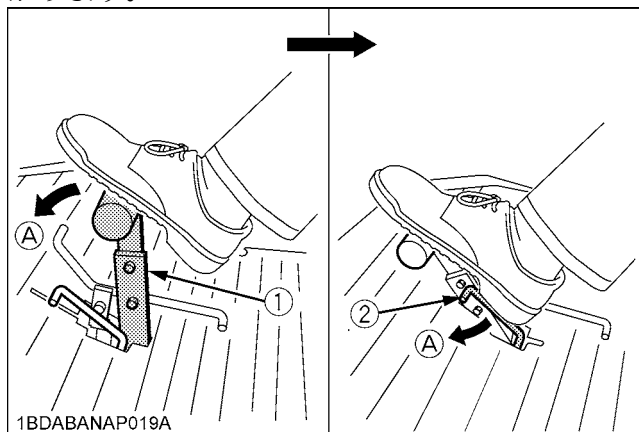
警告

- **＊ この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。**
- **＊ 本機に貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **＊ エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーが“中立”，速度調整レバーが“中立固定”かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。そして PTO が確実に“切”の位置になっているかを確認してください。**
- **＊ 本機が突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。**
- **＊ 室内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。**

始動のしかた

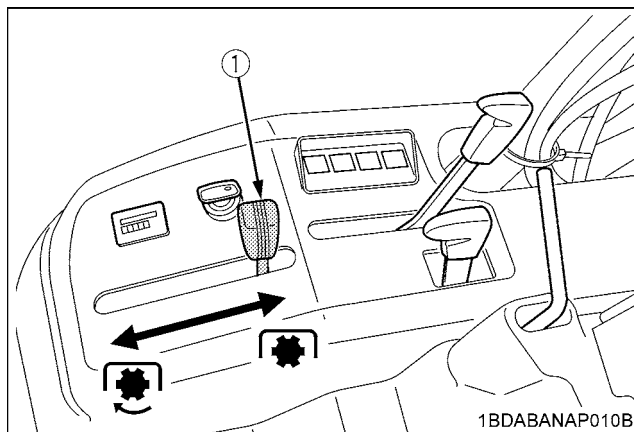
1. シートに座ってください。

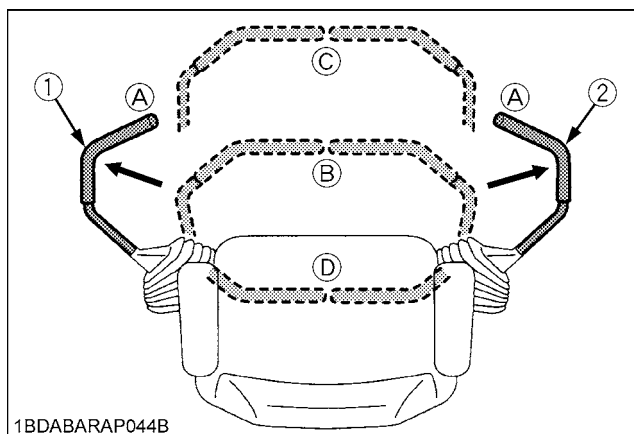
2. 駐車ブレーキをかけます。

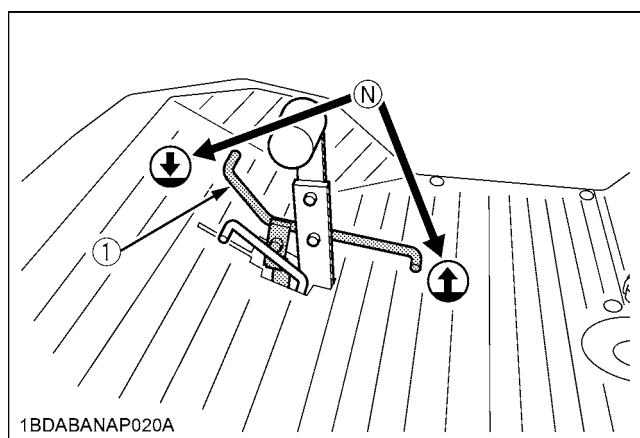
ブレーキペダルを踏み込んだ状態で，駐車ブレーキロックペダルを **“踏込む”** と駐車ブレーキがかかります。

(1) ブレーキペダル　　(A) “踏込む”
(2) 駐車ブレーキロックペダル

補足

＊ 駐車ブレーキを解除するにはブレーキペダルを踏込み，ゆっくりと離します。

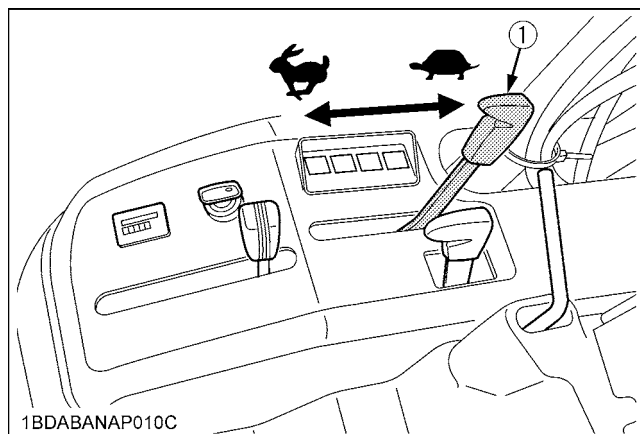
3. PTO レバーを“切”の位置にします。

(1) PTO レバー　　“入”
“切”

4. 速度調整レバーを“中立固定”の位置にします。

(1) 速度調整レバー（左）　(A) “中立固定”位置
(2) 速度調整レバー（右）　(B) “中立”位置
(C) “前進”
(D) “後進”

5.　モーア昇降ペダルを“中立”の位置にします。

(1) モーア昇降ペダル　　“下げ”
“上げ”
“中立”

補　足

＊ モーア昇降ペダルから足を離すとペダルは**“中立”**位置に戻ります。

6.　アクセルレバーを“中速”位置にセットしてください。

(1) アクセルレバー　　“高速”
“低速”

7.　キーをキースイッチに挿入し，キースイッチを“入”位置にして，イージーチェッカが点灯するか確認してください。

■**キースイッチ**

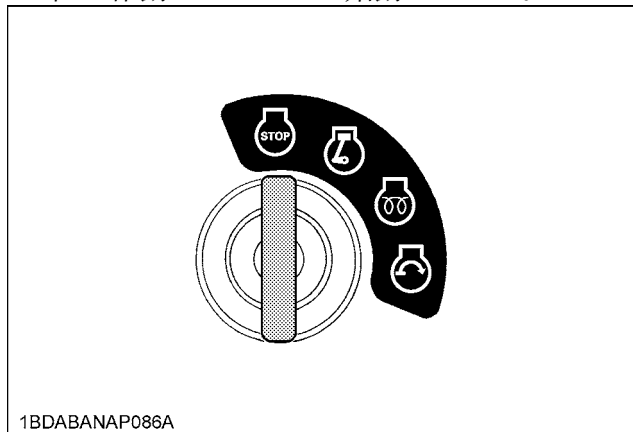
切………　キーの抜き挿しができます。（キーをこの位置まで回すとエンジンが停止します）

入………　エンジンが始動しています。

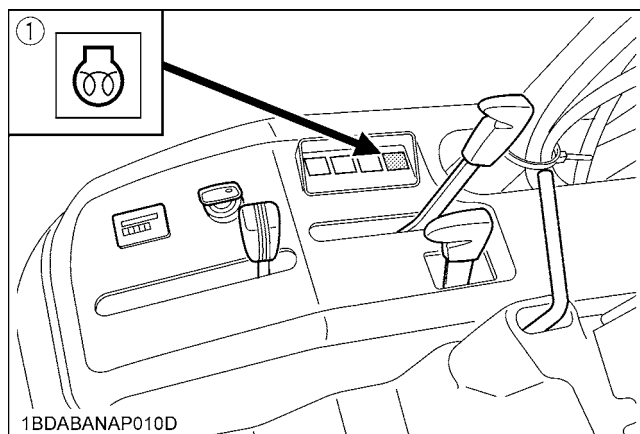
予熱……　グロープラグで予熱されています。

始動……　駐車ブレーキをかけてこの位置までキーを回すとエンジンが始動します。

重　要

＊ PTO が**“切”**，駐車ブレーキが掛かっている，速度調整レバーが**“中立固定”**位置，作業者がシートに着座の条件がそろわないと安全装置が作動しエンジンは始動しません。

“切”　　“予熱”
“入”　　“始動”

8.　キースイッチを“予熱”の位置まで時計方向に回して，５秒ほど保持してください。
適切な予熱時間に関しては下の表を参考にしてください。

温度	予熱時間
０℃以上	５秒
０℃以下	10 秒

(1) グローランプ

9. キースイッチを“始動”の位置まで回し，エンジンが始動したら手を離してキーを“入”の位置にしてください。

重 要

＊ エンジンが運転中にキースイッチを“始動”の位置に回さないでください。
＊ 気温が０℃以下のときはエンジンとトランスミッションの潤滑油が暖まるまでに少なくとも10分間エンジン回転を中くらいの速度に保ってください。
＊ バッテリとスタータの保護のため，スタータを10秒以上回し続けないでください。
＊ 十分に暖機されるまで全負荷で本機を操作しないでください。
＊ 気温が －15℃以下のときはバッテリを本機から外し，次に運転するときまで暖かいところで保管してください。

10. イージーチェッカのランプが消えていることを確認してください。ランプが点灯している場合には直ちにエンジンを停止し，問題の箇所を指示に従い確認してください。
(“運転中の作動確認”を参照してください)

11. “中速”でエンジンを温めてください。

低温時の始動

外気温が－５℃以下のとき又はエンジンが非常に冷えているときには以下のようにして始動してください。
10 秒でエンジンが始動しない場合はキースイッチを**“切”**の位置にして30秒待ちます。
次に**“始動のしかた”**の８から10を繰り返してください。
バッテリとスタータの保護のため，絶対にスタータを10秒以上は回し続けないでください。

寒冷時の暖機運転

＊ 換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部に十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

■低温度領域での暖機運転とトランスミッションオイル

トランスミッションオイルはHSTや油圧シリンダのオイルとしても使われます。寒冷地では温度が低く，オイルの粘度が大きくなります。そのためエンジン始動後，しばらくの間オイルの循環速度が遅くなり，油圧が異常に低くなる可能性があります。これにより油圧システムのトラブルにつながる可能性があります。
上記のことを避けるため次のことに注意してください。
下の表により，中速でエンジンを温めてください。

周囲温度	暖機運転時間
0 ℃以上	約5分
0 ℃～－ 10℃	5分～ 10 分
－ 10℃～－ 20℃	10 分～ 15 分
－ 20℃以下	15 分以上

重　要

＊ 十分に暖機運転するまで大きな負荷をかけないでください。
＊ 異常音が聞かれたときは油圧システムが正しく調整されていないか，部品が損傷している可能性があります。購入先にご相談ください。

停止のしかた

1. アクセルレバーを **“低速”** 位置にしてアイドリング状態にします。キースイッチを **“切”** 位置にするとエンジンは停止します。
2. 駐車ブレーキをかけ，キーを抜きます。

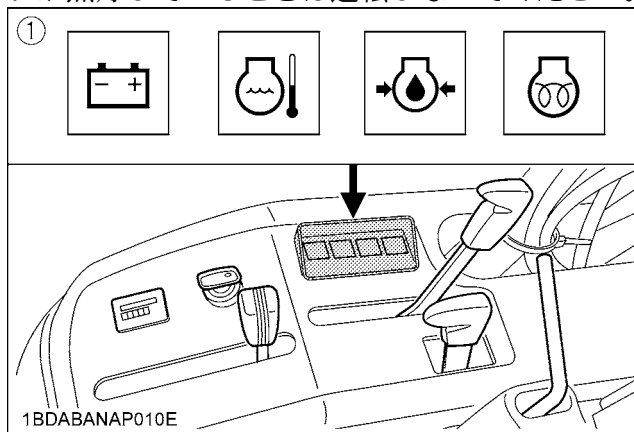
運転中の作動確認

本機の運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

■次の場合には、直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてる。
3. 排気色が急に黒くなる。

■イージーチェッカ

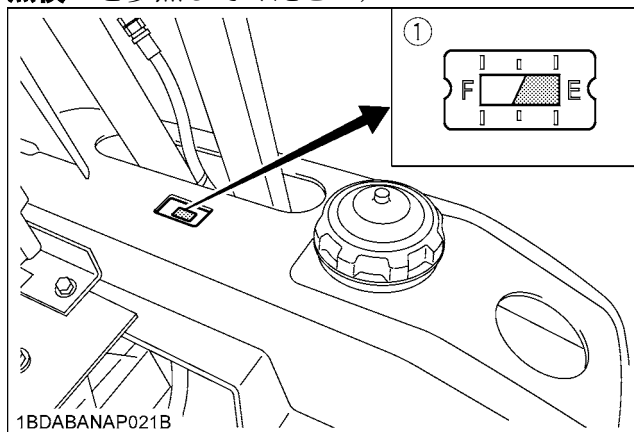
運転中にイージーチェッカの警告灯が点灯した場合には，直ちにエンジンを停止し，以下に従い原因を調べてください。イージーチェッカのランプが点灯しているときは運転しないでください。

(1) イージーチェッカ

エンジンオイル圧力
この警告灯が運転中に点灯した場合には，エンジンオイルの量をチェックしてください

バッテリ
この警告灯が運転中に点灯した場合には，充電系統をチェックするか，購入先にご相談ください。

水温計
この警告灯が運転中に点灯した場合には **“エンジンのオーバヒート対策”** に従い適切な処置をしてください。

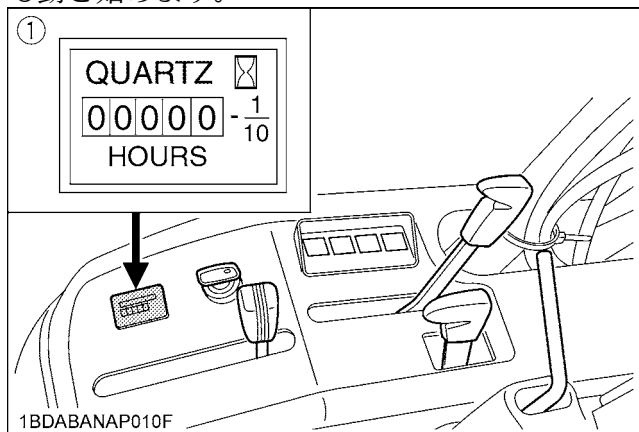
■燃料計

燃料タンクが空にならないように注意してください。空になると燃料中に空気が混入し空気抜きが必要となります。（定期点検の **“必要に応じた点検”** を参照してください）

(1) 燃料計
(E) “空”
(F) “満タン”

重 要

＊ 燃料を **“F”** 以上に入れないでください。給油口下までを目安にしてください。

■積算時間計（アワメータ）

これにより本機の作動時間を知ることができます。ただしこの積算時間計（アワメータ）は電気によって作動するため，キースイッチを **“入”** 又は **“予熱”** にするとエンジンが始動していなくても動き始めます。

(1) 積算時間計（アワメータ）

バッテリあがりの処置

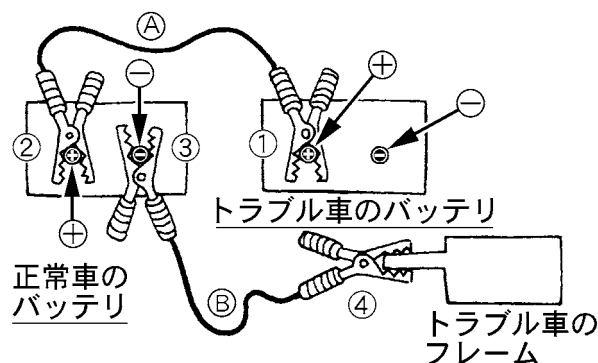
ブースタケーブル（別売）があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動させることができます。

注 意

＊ バッテリのガスは爆発することがあります。バッテリからたばこ，火花，その他の火気を遠ざけておいてください。
＊ バッテリが凍っている場合にはこの処置はしないでください。
＊ ブースタケーブルの⊖端子を本機のバッテリの⊖端子に接続しないでください。

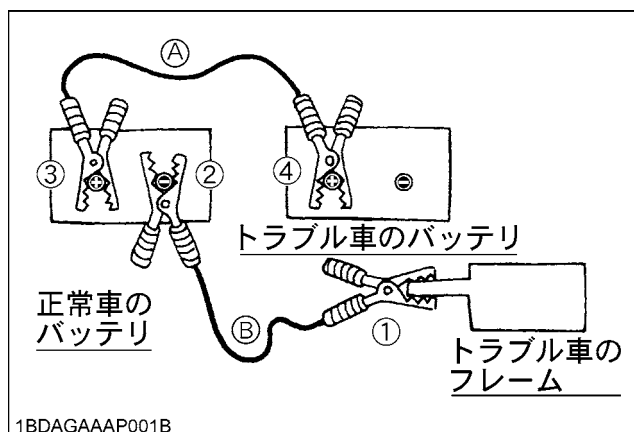
◆ 接続する前に

1. ブースタケーブル，グリップの容量は，バッテリ容量に合ったものを使います。
2. ケーブル，グリップ及びバッテリの⊕，⊖端子に断線や腐食がありませんか。
3. キースイッチは，**“切”** の位置になっていますか。
4. 正常車のバッテリは，トラブル車のバッテリと同容量のものを使います。

◆ ブースタケーブルの接続

1. ブースタケーブル（A）のクリップを，トラブル車の⊕端子に接続し，片方のクリップは正常車の⊕端子に接続します。
2. ブースタケーブル（B）のクリップを正常車の⊖端子に接続し，片方のクリップをトラブル車のフレームに確実に接続します。
   ＊ フレームへの接続は，バッテリから離れている方がよい。
3. 各端子に接続後，エンジン始動前に確実に接続されているか確認してください。

◆ トラブル車のエンジン始動

1. 正常車を始動させ，数分エンジンを作動させてください。
2. バッテリあがりの車を始動させてください。
3. 始動に失敗したときは，しばらく（２～３分）おいてから再始動してください。

◆ ブースタケーブルの取外し

1. ブースタケーブル（B）のクリップをトラブル車のフレームから取外し，次に正常車の⊖端子との接続を外します。
2. ブースタケーブル（A）のクリップを正常車の⊕端子から取外した後，トラブル車の⊕端子の接続を外します。

重　要

＊ 救援車は必ず12 Vバッテリ車を使用してください。
＊ ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

ゼロ旋回モーアの運転

警 告

＊ エンジンが停止した状態では本機をコントロールすることができないため，傾斜地でエンジンが停止した場合は本機が動かないよう直ちにブレーキをかけてください。
＊ 子供はもちろん，運転者以外の人を乗せて本機を運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊ 溝や穴の近く，路肩など本機の重みでくずれやすい所では運転しないでください。
＊ 高速で旋回すると，横転するおそれがあります。必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊ 急な坂道の登坂は前進で行ない，急な発進，停止をしないでください。また，本機は固い水平な面に駐車してください。
＊ 運転中はたえず周囲に注意し，障害物等を避けてください。
＊ 本機で公道を走行しないでください。道路を横断したり，道路の近くで作業する場合は十分に注意してください。
＊ バックするときは後方に人や障害物がないことを確認してください。集草バッグを装着している場合は特に注意してください。
＊ 高速走行時，旋回時に急ブレーキをかけると，コントロールを失うため，本機の減速，停止は，速度調節レバーで行ってください。

ならし運転（最初の約 50 時間）

本機はこの期間中の扱い方でその後の寿命が決まります。工場から出荷された直後の本機はテストされていますが各部品が充分になじんでいませんので約 50 時間のならし運転が必要です。
本機の性能を充分に発揮し，お客様に長く使っていただけるよう，ならし運転の期間中は特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分温まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50 時間使用後に，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

■新車時のオイル交換

新車時にとってオイル交換は非常に重要です。各部品がなじんでいないため微少な金属粉が生じ，これが部品の損傷につながります。このため通常より早くオイル交換などを行なってください。（詳しい交換時間は**“定期点検箇所一覧表”**参照）

■エンジンのならし運転

50 時間使用後にエンジンオイルとエンジンオイルフィルタカートリッジを交換してください（**“100 時間ごとの点検”**，**“200 時間ごとの点検”**参照）

■トラクタのならし運転

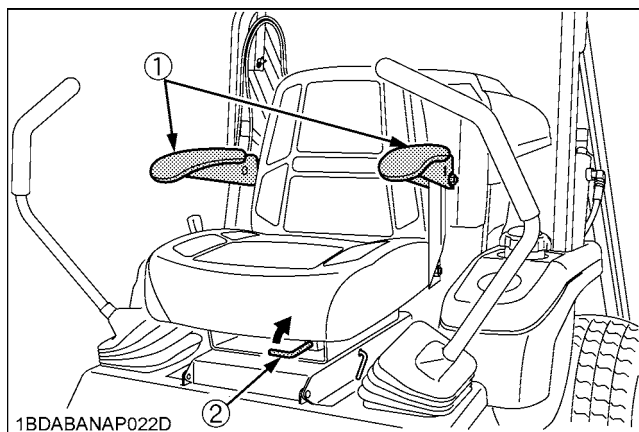
200時間使用後にトランスミッションオイルを交換してください。
最初の 50 時間使用後にオイルフィルタカートリッジを交換してください。（**“200 時間ごとの点検”**参照）

発進・走行

本機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1.　シートに座り，シートの位置を調節してください。

■シートの調節

＊ 調整後，シートがロックされていることを確認してください。

(1) ひじ掛け
(2) シートスライドレバー

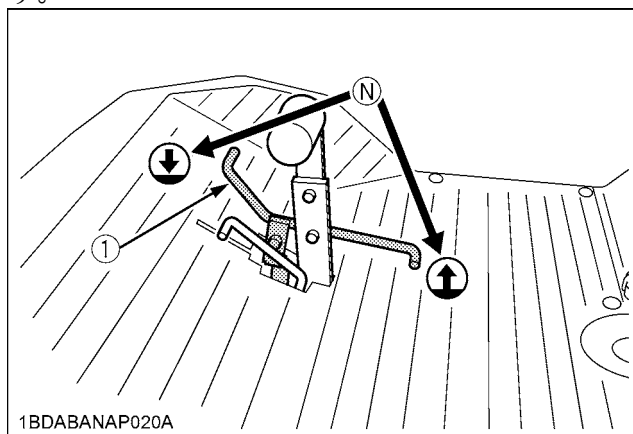
◆ シートの調節のしかた

● 前後の調整

シートスライドレバーを上方へ引きシートを前又は後にスライドさせてください。

2.　モーアを上げる。

■モーア昇降ペダル

モーア昇降ペダルはモーアを上げ下げするのに使用します。モーアを下げるときはペダルを前方に踏込み，上げるときはペダルを後方に踏込みます。

(1) モーア昇降ペダル　　"下げ"　"中立"　"上げ"

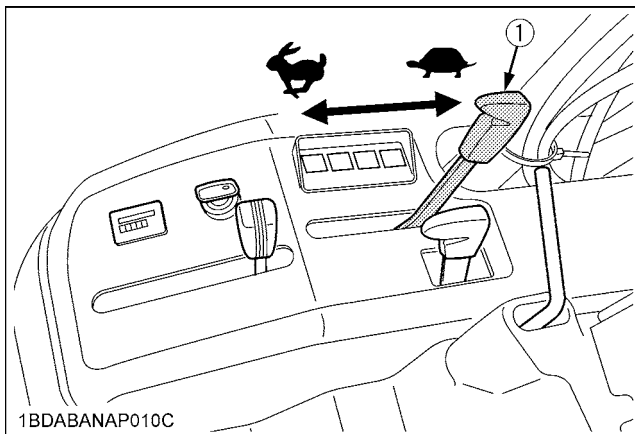
重　要

＊ 油圧システムを損傷するおそれがあるので，エンジンが十分温まってから作業を開始してください。
＊ 作業するときはアクセルレバーを**"中速"**以上にセットし，低回転では作業しないでください。
＊ モーア昇降ペダルを踏んで異常音が発生した場合は購入先にご相談ください。

3.　エンジンを加速します。

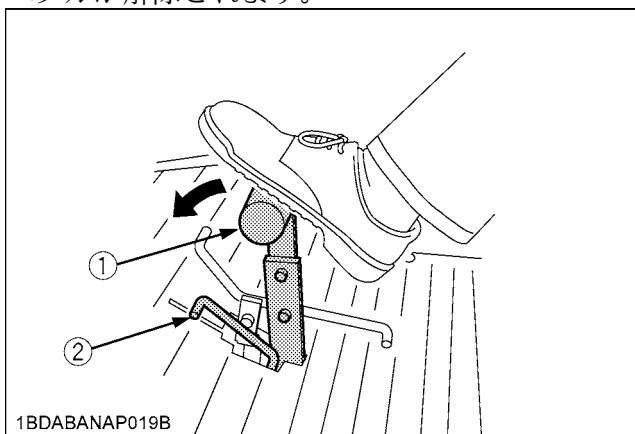
■アクセルレバー

（高速）……　レバーを前側に倒すと，エンジン回転が上がる。

（低速）……　レバーを後側に引くと，エンジン回転が下がる。

(1)　アクセルレバー　　（高速）“高速”　（低速）“低速”

4.　駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキロックペダル

ブレーキペダルを踏込むと駐車ブレーキロックペダルが解除されます。

(1)　ブレーキペダル
(2)　駐車ブレーキロックペダル

5.　ゆっくりと発進します。

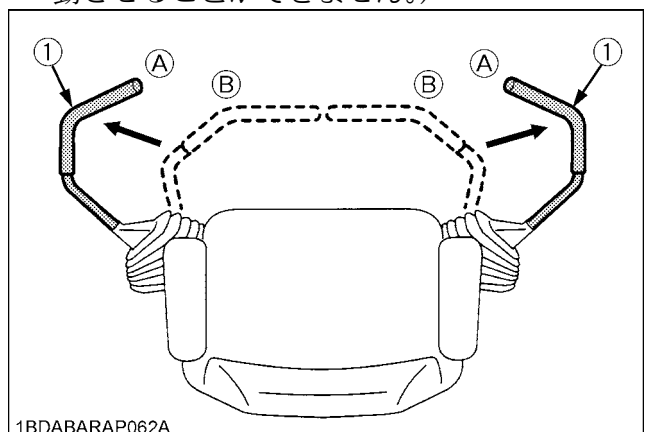
■速度調整レバー

注　意

- ＊ **速度調整レバーの使い方を理解するため，低速で，モーアを作動させずに，広い場所で練習してください。**
- ＊ **速度調整レバーは急に前進から後進，後進から前進方向に切換えないでください。急速な切換えは本機のコントロールを失い危険です。また本機各部に損傷を与えるおそれがあります。**
- ＊ **高速での急旋回は本機のコントロールを失い危険です。**
- ＊ **乗り降りするときや，点検・調整をおこなうときには安全のため速度調整レバーを“中立固定”の位置に戻してください。**

停止

◆ **中立固定**

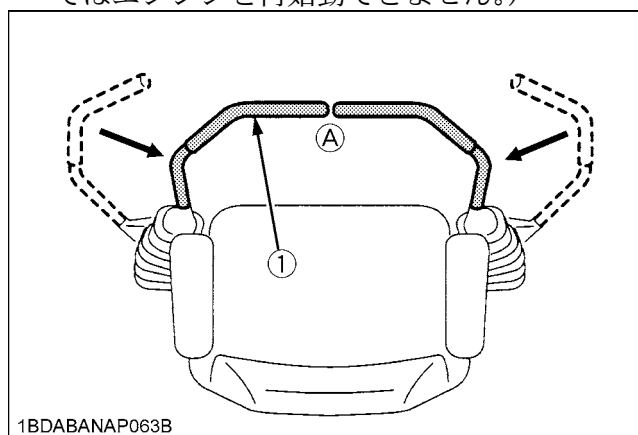
● 速度調整レバーが **“中立固定”** の位置にあるときは前進，後進方向にレバーを動かすことができません。(エンジンはこの位置でしか始動させることができません。)

(1)　速度調整レバー　　(A)　“中立固定”
　　　　　　　　　　　(B)　“中立”

運転

- エンジンを始動し，駐車ブレーキを解除してください。本機の速度や進行方向は速度調整レバーによってコントロールします。

＊ **エンジンが停止した場合には速度調整レバーにより本機をコントロールできません。**

◆ 中立

- 両方の速度調整レバーを **“中立固定”** から内側に動かすと **“中立”** になります。（この位置ではエンジンを再始動できません。）

(1) 速度調整レバー　(A) “中立”

◆ 前進・後進

1. アクセルレバーを **“高速”** にしてください。
2. 駐車ブレーキを解除してください。
3. 両方の速度調整レバーを **“中立固定”** から内側に動かし **“中立”** にしてください。
4. 速度調整レバーをゆっくりと前に押すと本機は前進します。
   後進するには…
   　両方の速度調整レバーを同時にゆっくりと引くと本機は後進します。
   停止するには…
   　両方の速度調整レバーを **“中立”** にもどすと本機は停止します

＊ **速度調整レバーの調節がされていないと本機が正しく動作せず危険です。**

補　足

＊ 速度調整レバーの連結部は調節することができます。
＊ 調節が必要な場合は **“調整”** の項を参照するか，購入先にご相談ください。

◆ 傾斜地での再発進

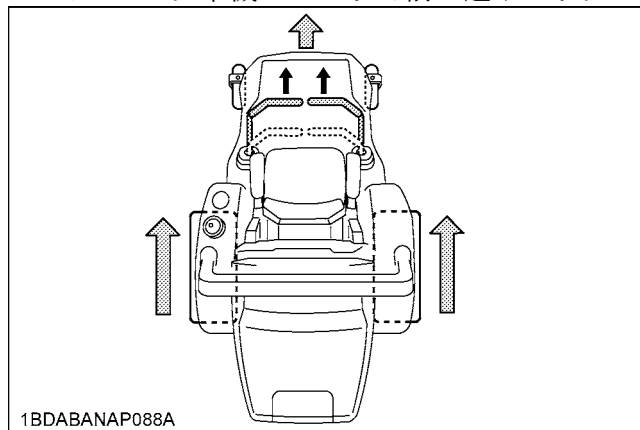
＊ **傾斜地で停止したり方向転換すると本機のコントロールを失い危険です。**
傾斜地での再発進は通常の平たんな場所での発進とは異なりますので，再発進の方法を良く理解し，特に注意して行なってください。

傾斜地で停止し，再発進する必要があるときは以下に従ってください。
傾斜地での再発進のしかた…

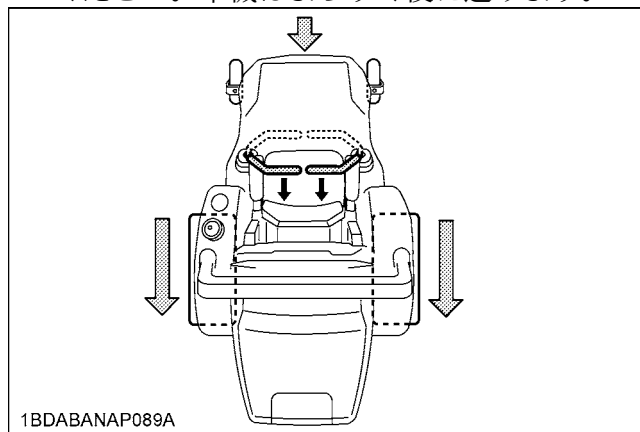
1. 本機が動かないように駐車ブレーキを掛けてください。
2. エンジンを始動してください。
3. アクセルレバーを **“中速”** にしてください。
4. 速度調整レバーを徐々に内側に動かし **“中立”** にしてください。
5. 駐車ブレーキを解除してください。
6. 本機をゆっくりと注意しながら動かしてください。

前進

- 両方の速度調整レバーを同時に前方に押してください。本機はまっすぐ前に進みます。

1BDABANAP088A

後進

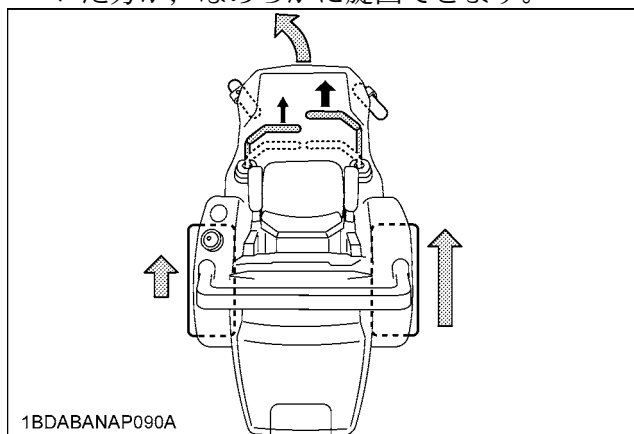
- 両方の速度調整レバーを同時に後方に引いてください。本機はまっすぐ後に進みます。

1BDABANAP089A

左旋回

- 右手の速度調整レバーを左手の速度調整レバーより前に出してください。本機は左に曲がります。

補　足

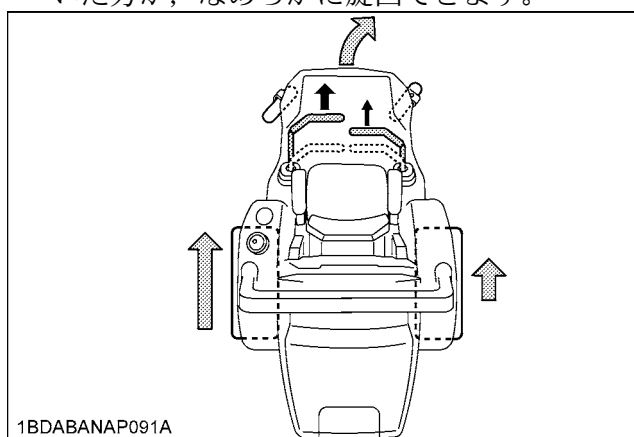
＊ 前進から左旋回に移る場合は，右手の速度調節レバーをそのままにして，左手側を後に引いた方が，なめらかに旋回できます。

1BDABANAP090A

右旋回

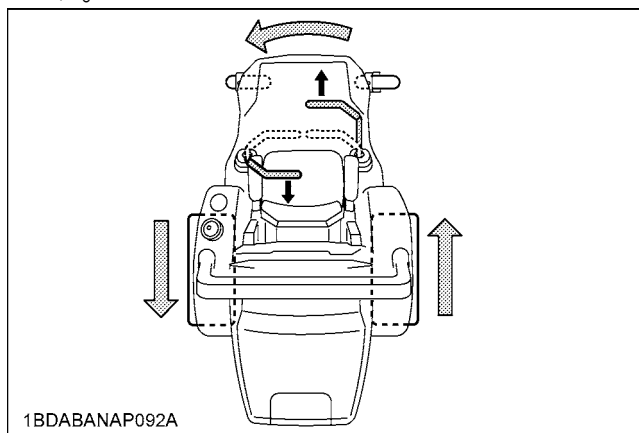
- 左手の速度調整レバーを右手の速度調整レバーより前に出してください。本機は右に曲がります。

補　足

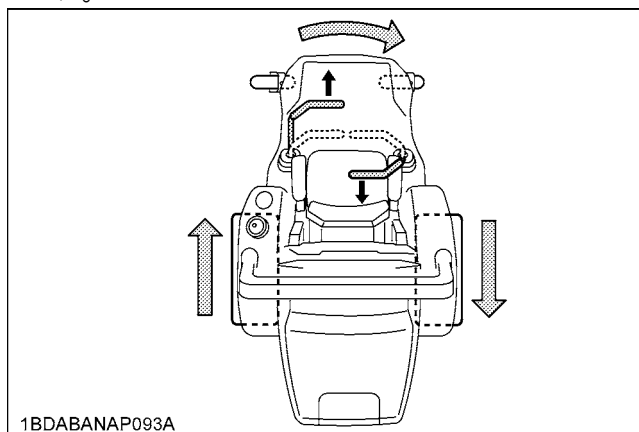
＊ 前進から右旋回に移る場合は，左手の速度調節レバーをそのままにして，右手側を後に引いた方が，なめらかに旋回できます。

1BDABANAP091A

左急旋回（ゼロターン）

● 右手の速度調整レバーを前方に押し，同時に左手の速度調整レバーを後方に引いてください。

1BDABANAP092A

右急旋回（ゼロターン）

● 左手の速度調整レバーを前方に押し，同時に右手の速度調整レバーを後方に引いてください。

1BDABANAP093A

重　要

＊ 急旋回の前には，必ず一旦本機を止めてから行なってください。

停車・駐車

注　意

＊ 駐車するときは，平たんで本機が安定する場所を選び，PTO レバーを"切"，駐車ブレーキを"掛け"，すべての作業機を最下点の位置まで下げ，エンジンを"停止"してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

＊ 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。

＊ 格納などで本機にシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。

＊ 停車時，空吹かしをしたり，高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより，枯草などに着火するおそれがあります。

＊ 本機から降りるときは，モーアなどの PTO 作業機が完全に止まるまで待ってください。

1. 両方の速度調整レバーを **"中立"** にし，ブレーキペダルを踏み込み本機を停止します。
2. 駐車ブレーキを確実に掛けてください。
3. 両方の速度調整レバーを **"中立固定"** の位置にします。
4. アクセルレバーを手前に引いて，エンジン回転を下げて，PTO レバーを **"切"** にします。
5. モーアを最下点の位置まで下げます。
6. キースイッチを **"切"** にして，エンジンを停止し，キーを抜いてください。

トラックへの積み・降ろし

＊ 転落のおそれがあるので，本機への積み・降ろし中，速度調整レバーはゆっくり動かしてください。
＊ 短いアユミ板は傾斜角度が急になり危険ですので使用しないでください。

重　要

1. 本機での運搬
   * 本機をトラックにしっかりと固定してください。
   * 移動するとき風でボンネットが開かないように本機を後ろ向きで積むか，ボンネットを固定してください。
2. トランスミッションが損傷しますので本機をけん引しないでください。

■前輪ブラケットの固定

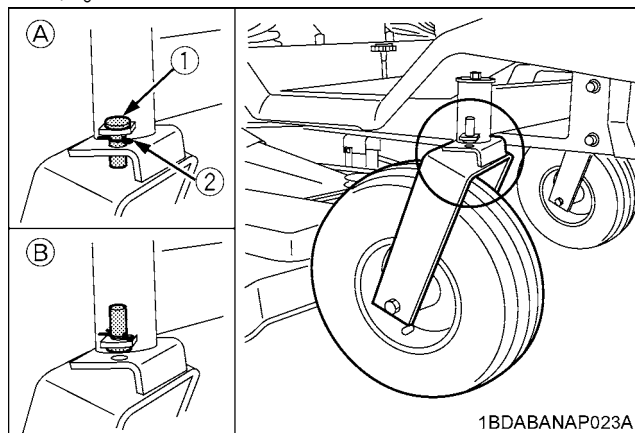
＊ 前輪ブラケットの固定は積み降ろしのときのみ使用してください。本機を運転するときは危険ですので使用しないでください。

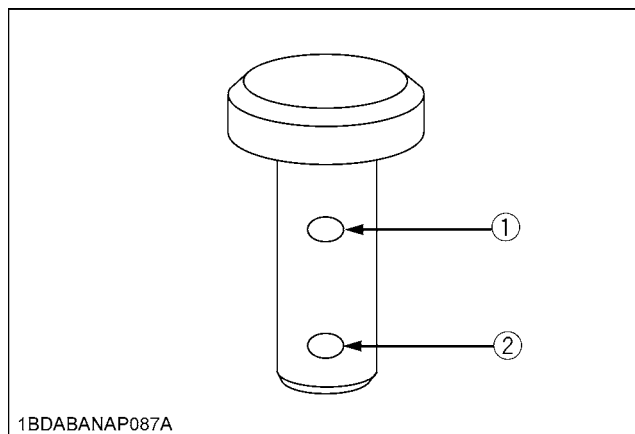
積み降ろしのときはできるだけ本機の車幅より広いアユミ板を使用してください。やむなく通常のアユミ板を用いる場合は以下に従い前輪ブラケットを固定するようにしてください。

◆ 前輪ブラケットの固定のしかた

1. 本機の向きを調整しアユミ板の前に駐車してください。
2. 前輪ブラケットを回して，前車軸からスナップピンと頭付きピンを抜いてください。
3. 前輪ブラケットを回して元に戻し２つの穴の位置を合わせてください。
4. 頭付きピンを上方から２つの穴をとおるように差込んでください。
5. 穴 (A) にスナップピンを差込んでください。

◆ 前輪ブラケットの固定解除のしかた

1. 前車軸からスナップピンと頭付きピンを抜いてください。
2. 前輪ブラケットを回してください。
3. 前車軸の下方から頭付きピンを差込みスナップピンを穴 (A) に差込んでください。
4. 前輪ブラケットを回して元に戻してください。

(1) 頭付きピン　　(A) “固定”
(2) スナップピン　(B) “固定解除”

(1) 穴 (A)
(2) 使用しません

モーアの上手な使い方

モーアの性能を十分発揮させるために

1. 初めてモーアを使用するときは，平たん地を選びゆっくりと少し重複するようにまっすぐに刈ってください。
2. 適切な草刈方法は，圃場の大きさや形で決まります。木やフェンス，建物のような障害物を考慮してください。
3. 刈取は草が 50 ～ 80 mm の高さを保つようにおこなってください。あまり短く刈らずに，たびたび刈る方が良い仕上がりになります。緑の芝を保つために草丈の 1/3 以上もしくは一回で 25 mm 以上の草刈はしないでください。極度に草丈の高い場合，最大刈高さで作業し，次に希望の刈高さにセットし，刈ってください。
4. 刈り跡が美しく見えるようにするには，湿気の少ない午後，夕方に作業するのがよいでしょう。

刈高さ調整

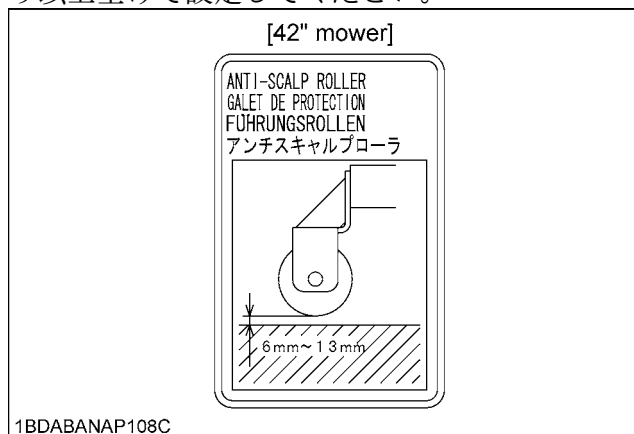
＊ 移動状態（モーアを吊上げた状態）で作業しないようにしてください。

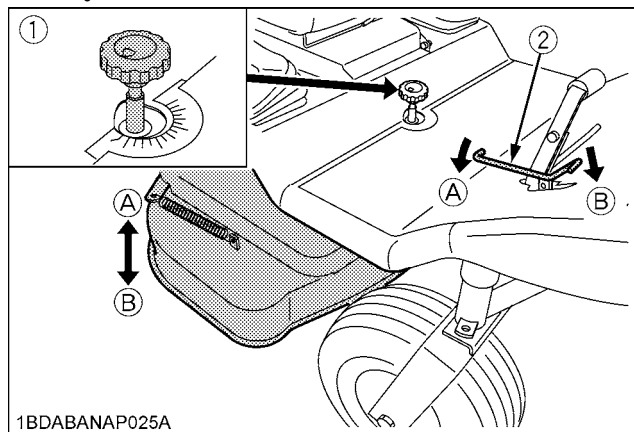
1. 刈高さを調整する前にすべてのタイヤの空気圧が規定圧力であることを確認してください。
2. モーア昇降ペダルを後方に踏込みモーアデッキを一番上まで持上げてください。希望の刈高さに刈高さ調整ダイヤルを回してください。モーア昇降ペダルを前方に踏込みモーアデッキを下げると，モーアデッキは希望の刈高さにセットされます。

補　足

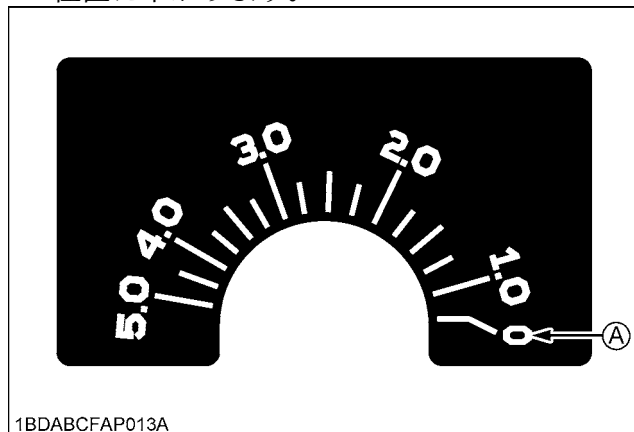
＊ **“0”**ポイントはモーア着脱のためのものです。本機の破損を防ぐため、**“0”**ポイント位置での操作はしないでください。

前輪の高さは図のように，前輪と地面の間を６ミリ以上空けて設定してください。

1BDABANAP108C

3. 荒地や草丈の高いところで草刈するときは刈高さを高めに調整してください。低い刈高さは整った芝などを刈る場合に用いてください。

1BDABANAP025A

(1) 刈高さ調整ダイヤル　(A) モーア上昇
(2) モーア昇降ペダル　(B) モーア下降

4. モーア昇降ペダルを下降側に踏込んでください。モーアデッキが**“移動”**位置から**“作業”**位置に下がります。

1BDABCFAP013A

(A)　“０”ポイント：脱着時のみ

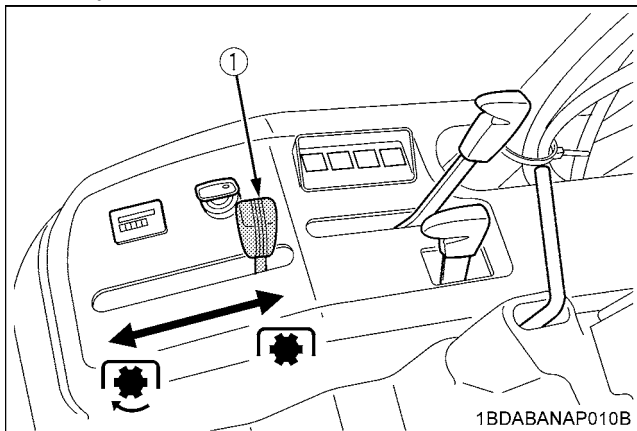
草刈り作業要領

* **集草バッグまたは放出カバー（オプション）なしでモーア作業をしないでください。**

注　意

* **作業場所を点検して，針金，石など飛散のおそれがある物は除去してください。**
* **機械の周囲や，草の吐出し方向に人やペットなどがいないことを確認しながら作業してください。**
* **エンジンを始動する前にPTOが“切”になっているか確認してください。**

■ PTOレバー

PTOを始動するにはPTOレバーを前方に押してください。

(1) PTOレバー　　“入”　“切”

1. PTO の作動中に席を立つと安全装置によりエンジンが停止します。
2. エンジンを始動する前に PTO レバーを **“切”** にしてください。**“入”** の位置にあるときはエンジンは始動しません。

補　足

* 安全を確保するための機能ですのでご理解ください。

■草刈り作業を始める

1. シートに座ってください。
2. エンジンを始動してください。
3. PTOレバーを **“入”** にしてください。
4. 駐車ブレーキを解除してください。
5. アクセルレバーを前方に押してエンジン回転を上げてください。
6. 速度調整レバーを動かして本機を運転してください。

重　要

* ブレーキを掛けたままで本機を動かそうとしないでください。
* エンジンがオーバヒートしないようにラジエータとラジエータネットをきれいに掃除してください。

補　足

* 最も良い刈性能を発揮するためには常にアクセルレバーを **“高速”** の位置で刈ってください。
* 負荷が大きい場合，本機を低速で操縦するか，その場所を２度刈してください。
  最初は最も高い刈り高さで，それから要求される高さで刈ってください。
* 車速が速すぎたり，刈刃の速度が過負荷により落ちた場合にはきれいに刈れません。
* 草刈作業をしない場合には，PTOレバーを **“切”** にし，モーアを最上位に持上げてください。

集草バッグの使い方

危 険

＊ 集草バッグまたは放出カバー（オプション）なしでモーア作業をしないでください。

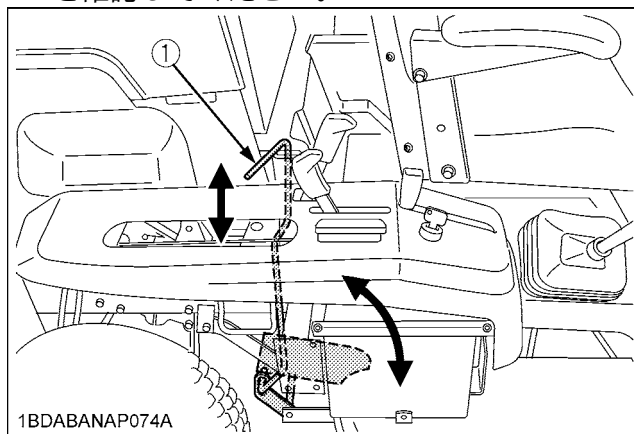
性能を発揮するには

1. モーアを回転することにより，モーアデッキの周囲から空気を吸い込み，ダクトを通って，集草バッグに向かう空気の流れがおこります。集草は，この空気の流れにより行なわれます。
2. 草丈が非常に高い場合は，要求する刈高さよりも高い刈高さでまず集草してください。
高い草に対して低い刈高さで草を刈ろうとすると吸入空気が不足し刈残しが発生しやすくなります。
高めに刈った後にモーアを要求する刈高さにセットし直して，もう一度刈ってください。
3. 常にエンジン回転を高速にして草を刈ってください。エンジンが刈取り中に止まりそうになった場合には本機の速度を落としてください。
4. 刈取り作業中，モーアの回りから草がとび散ったり，エンジン回転が低下し続けたり，刈草の塊が刈り跡に落ち始めたら，排出ダクト内が詰まっていることを示しています。このような場合には集草バッグを空にして草を完全に排出するためにクイッククリーンレバーを数回操作してください。
5. 草を刈った後にはモーアデッキ，排出ダクト内面と集草バッグのネットを十分に掃除してください。取除かないでおくと，刈り性能，集草性能に悪影響をおよぼすと同時にベルト等の故障の原因にもなります。

■クイッククリーンレバー

クイッククリーンレバーはモーアダクトの草を容易に除去するためのレバーです。
モーアの出口の回動式底板と連動します。

◆ 操作方法

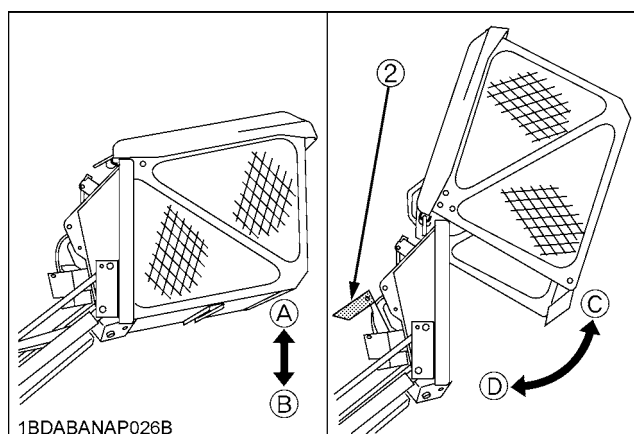
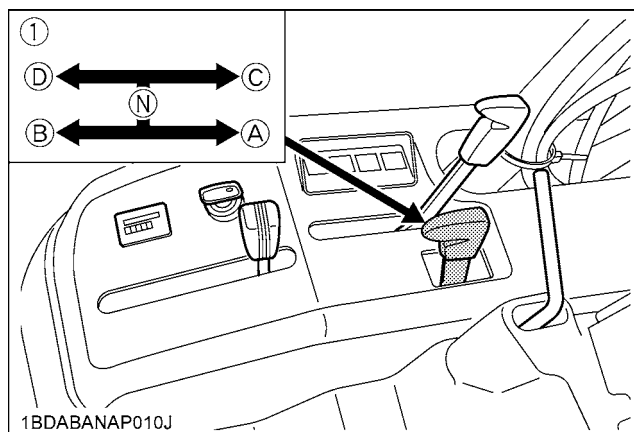
1. 本機を平たん地に停車し，駐車ブレーキをかけてください。
2. PTO レバーを **“切”** まで引いてください。モーアが停止していることを確認してください。
3. モーアデッキを一番上の位置まで上げてください。
4. レバーを下方に数回操作してください。
5. 操作後はレバーが元の位置に戻っていることを確認してください。

(1) クイッククリーンレバー

補 足

＊ クイッククリーンレバーはモーアが上がった状態で完全に動かすことができます。
＊ 数回操作することで効果的に草を排出することができます。

刈取った草を排出するには

警　告

- **＊ 必ずシートに座っている状態で，刈取った草を持上げ捨ててください。**
- **＊ モーアを止め，硬く水平な場所で本機を停車した状態でのみ草の排出を行なってください。軟らかい所や傾いた場所で集草バッグを持上げると，本機は前輪が上がり転倒するおそれがあり，重大障害や装備の多大な損害を引起こすおそれがあります。**
- **＊ 集草バッグから草を捨てる前に，捨てる場所の周囲に人やペットなどいないことを確認してください。**
- **＊ 集草バッグを上げているときは本機をゆっくりと移動させ，傾斜地には入らないでください。また，急なターンをしないでください。**
- **＊ 草の排出以外では集草バッグを持上げないでください。**
- **＊ 操舵性が悪くなりますので，集草作業時には標準装備のフロントウェイトを必ず取付けてください。**
- **＊ 湿った重い草を刈る場合は，フロントウェイトの重量を増やしてください。**
- **＊ 集草バッグは確実に閉まっていることを確認してから降ろすようにしてください。さもないと，機械に損傷を与えるおそれがあります。**

(1) 集草バッグ操作レバー
(2) クリーンプレート

(A) “上げ”
(B) “下げ”
(C) “回動”（排草）
(D) “回動”（戻し）
(N) “中立”

草を排出するには

1. PTO レバーを**“切”**にしてください。
2. 集草バッグ操作レバーを(A)に入れ,集草バッグを持上げてください。
3. 排草する任意の高さで止めてください。
4. レバーを (C) に入れ，バッグを回動し，草を排出してください。
5. 草を排出したら，レバーを (D) に入れ，バッグを完全に閉めてください。その後，レバーを (B) に入れ，集草バッグを下ろしてください。集草バッグやクリーンプレートに当たらないよう気を付けてください。

重　要

＊ 確実に集草バッグを閉めてから，バッグを下ろしてください。バッグや他の部品を損傷するおそれがあります。

補　足

＊ 作業中，排出場所の近くに来たらこまめに排出すると能率があがります。

清掃

モーアデッキ内の清掃方法

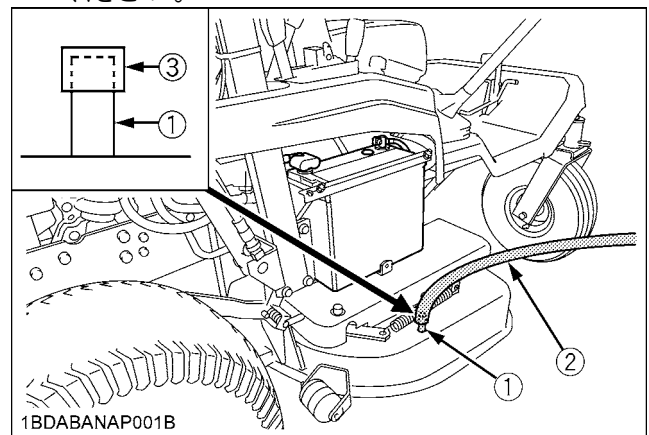
＊ **集草バッグまたは放出カバー（オプション）なしでこの作業をしないでください。**

警告

＊ **エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーが“中立”，速度調整レバーが“中立固定”の位置になっているかかどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。そしてPTOが確実に“切”の位置になっているかを確認してください。**

＊ **作業場所を点検して，針金，石など飛散のおそれがある物は除去してください。**
＊ **機械の周囲や，草の吐出し方向に人やペットなどがいないことを確認しながら作業してください。**
＊ **清掃中は必ずシートに座り，駐車ブレーキを掛けて作業してください。**
＊ **ホースがモーア内にまき込まれないように注意してください。**

◆ **清掃方法**

1. モーア上にあるパイプに水道ホースを差込み，水を出してください。
2. エンジンを始動させてください。
3. アクセルレバーを**“高速”**の位置にセットしてください。
4. PTO レバーを**“入”**の位置にして，数分間刈刃を回してください。
5. PTO レバーを**“切”**にし，エンジンを停止してください。
6. 水を止め，水道ホースを外してください。
7. モーア上にある反対側のパイプに水道ホースを差込み，２から６の作業を再度おこなってください。

(1) パイプ
(2) 水道ホース
(3) キャップ

集草バッグの清掃

集草バッグは空気の抜けをよくするために使用ごとに水をかけて清掃してください。

タイヤ及び車輪

タイヤ

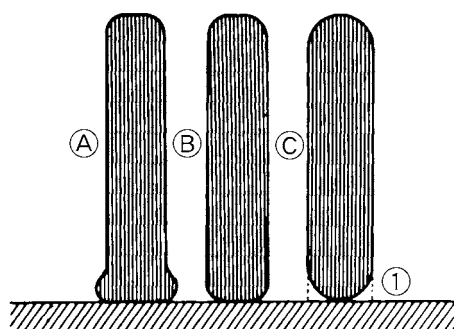
＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
規定圧力以上に空気を入れると，タイヤが破裂し死傷事故のおそれがあります。
特に前輪タイヤは圧縮空気を入れると急激に圧力が上昇するおそれがあります。
＊ パンク修理などでタイヤ，チューブを脱着する作業には特別な技能と器具が必要です。
自分で行なおうとしないで，必ず購入先にご相談ください。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換・修理は必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人がおこなうように，法で定められています）

重　要

＊ 指定されたタイヤ以外は使用しないでください。

■タイヤの空気圧

空気圧は規定圧力に工場でセットしておりますが，時間とともに自然とゆっくり落ちてきます。点検して，必要に応じて空気を入れてください。外観から判断する目安は以下のとおりです。

(1) 地面

(A) 不足
(B) 正常
(C) 多い

◆ 標準空気圧

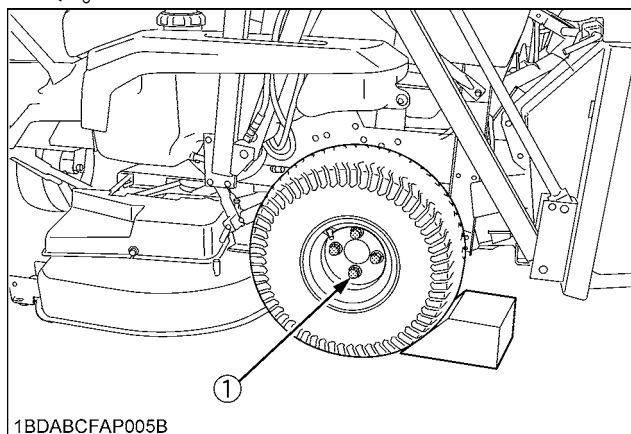
	タイヤ	空気圧
前輪	15 × 6.0 − 6	207 kPa (2.1 kgf/cm²)
後輪	20 × 10.00 − 8	140 kPa (1.4 kgf/cm²)

注　意

＊ リム，車輪，車軸のボルトがゆるんでいる状態でこの作業をおこなわないでください。
これ以外の箇所でもゆるんでいるボルトがあれば規定トルクで締付けてください。
＊ 各ボルトはこまめに確認し，締付けてください。

車輪

重　要

＊ 車輪を付け替えたときは下記のトルクでナットを締付けてください。その後 200 m ほど蛇行運転をして再度トルクを確認してください。

(1) 78 ～ 90 N・m(8.0 ～ 9.2 kgf・m)

■後輪のバランス

操舵性・安定性を増す必要があるときは後輪にウェイトを追加してください。

◆ 後輪ウェイト（オプション）

オプションの後輪ウェイトを取付けることができます。購入先にご相談ください。

■前輪の着脱

◆ 取外し

1. 本機を平たん地に停車してください。
2. エンジンを停止し，駐車ブレーキを掛けてください。
3. 本機の前部を安全な方法で吊上げてください。
4. 回り止めナット (A) を外したあと，前輪ボルト (B) を引抜いてください。
5. 前輪をブラケット(C)から取外してください。

◆ 取付け

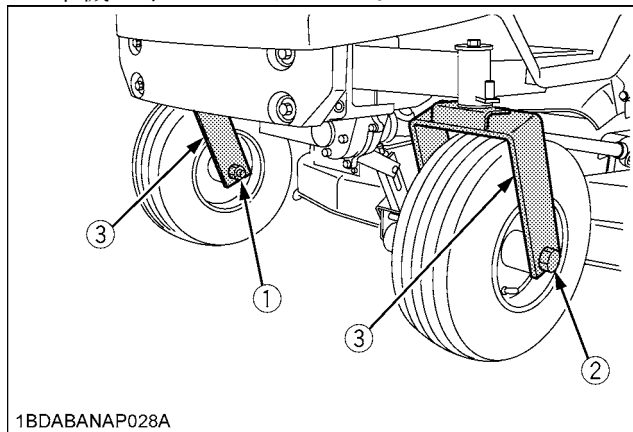
1. 前輪を取付けます。
2. 前輪ボルト (B) を差込み,回り止めナット (A) を取付けてください。
3. ナットはあまりきつく締付けないでください。

重　要

＊ 前輪ボルトはブラケットの外側から差込んでください。
＊ ナットは前輪ベアリングの遊びがなくなり，前輪が手で回せる程度まで徐々に締付けてください。

参照

締付トルク	20 ～ 25 N・m (2 ～ 2.5 kgf・m)

4. 本機を下ろしてください。

(1) 回り止めナット (A)
(2) 前輪ボルト (B)
(3) ブラケット (C)

ゼロ旋回モーアの簡単な手入れと処置

注意

＊ 給油及び点検整備するときは
　(1) 本機を平たんな広い場所に置き
　(2) 作業機を降ろし
　(3) 駐車ブレーキをかけ
　(4) エンジンを止め,
　(5) キーを抜き，安全を確認してから行ってください。
　そうしないと傷害事故を引起こすおそれがあります。

廃棄物の処理について

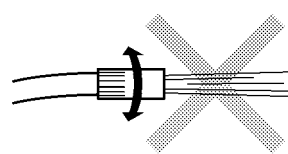
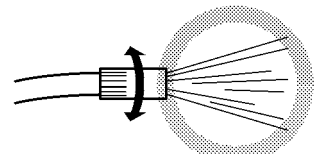
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

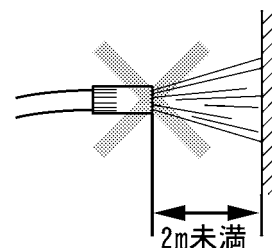
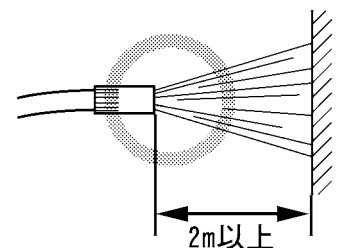
高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
　例）(1) シール・ラベルの剥がれ
　　(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
　　(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
　　(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁

直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁

1AGACBRAP068A

日常点検箇所一覧表

毎日作業前には，次の点検項目に従って，日常点検を行なってください。

	No.	点検項目	参照ページ
本機の周りを回って	1	タイヤの空気圧及び劣化，損傷	26,39
	2	油漏れ及び冷却水漏れ	-
	3	エンジンオイルの量	37
	4	トランスミッションオイルの量	40
	5	冷却水の量	41
	6	車体各部の損傷及びボルトナットのゆるみ	-
	7	ラジエータネットの目詰まり	38
	8	パネルスクリーンの目詰まり	38
	9	ブレーキの遊び	50
	10	注油／グリース	44,45
	11	燃料の量	38
	12	エアクリーナエレメント	43
モーア	1	オイル漏れ	44
	2	刈刃取付けボルトのゆるみ	58
	3	刈刃の摩耗，損傷	58
	4	モーアハウジングの損傷	-
	5	すべてのピンのはまり具合	-
	6	モーアデッキ内の清掃	25
	7	グリースアップ ・ユニバーサルジョイント ・推進軸	41
集草バッグ	1	ボルトナットのゆるみ	-
	2	集草バッグの損傷	-
	3	集草バッグの目詰まり	-
シートに座って	1	速度調整レバーの作動	-
	2	駐車ブレーキの作動	-
キースイッチを入れて	1	イージーチェッカの点灯	11
エンジンを始動して	1	排気ガスの色	-
	2	異常音と異常振動	-

定期点検箇所一覧表

（専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。）
次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目		50時間ごと	アワメータ表示時間									参照ページ	
				50	100	150	200	300	400	450	500	以降		
1	エンジンオイル	交換		○	○		○	○	○		○	100ごと	48	
2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	交換		○			○		○			200ごと	51	
3	トランスミッション及び後車軸ギヤケース（左右）オイル	交換					○		○			200ごと	52	
4	トランスミッションオイルフィルタカートリッジ	交換					○		○			200ごと	54	
5	トランスミッションオイルストレーナ	清掃					○		○			200ごと	52	
6	フロントPTOケースオイル	交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	44	
7	前車軸の旋回軸	調整			○		○		○			200ごと	55	*2
8	安全装置	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	42	
9	注油	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	45	
10	グリースアップ（モーアを除く）	−	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	44	
11	モーアギヤボックスオイル	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	44	
		交換				○		○		○		150ごと	51	
12	エアクリーナエレメント	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	43	*1
		交換										1年ごと	56	
13	バッテリ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50ごと	47	
14	ファンベルトの張り具合	調整			○		○	○	○		○	100ごと	50	
15	駐車ブレーキ	調整			○		○	○	○		○	100ごと	50	*2
16	燃料フィルタ	点検			○		○	○	○		○	100ごと	49	
		交換							○			400ごと	56	*2

No.	点検項目		50時間ごと	アワメータ表示時間									参照ページ	
				50	100	150	200	300	400	450	500	以降		
17	燃料ホース	点検					○		○			200ごと	49	
		交換										2年ごと	57	*2
18	ラジエータホースと締付けバンド	点検					○		○			200ごと	55	
		交換										2年ごと	57	*2
19	油圧ホース	点検					○		○			200ごと	55	
		交換										2年ごと	57	*2
20	冷却システム	清掃										1年ごと	56	
21	冷却水	交換										1年ごと	56	
22	モーアギヤボックスオイルシール	交換										2年ごと	57	*2
23	燃料系統	エア抜き										必要時	60	
24	ヒューズ	交換											57	
25	刈刃	交換											58	
26	モーアベルト	交換											59	

重　要

1* 定期点検は通常の状態よりもほこりの多い場所で使用した場合には早めに行なってください。
通常の状態で使用した場合には清掃は100時間ごとに行なってください。

2* 購入先にサービスを受けてもらってください。

* 補水が必要なバッテリを使用している場合は100時間ごとに電解液の点検を行なってください。
年間使用時間が100時間未満の場合は1年ごとに行なってください。
（**“必要に応じた点検・整備”**の章参照）

給油（水）一覧表

油圧系統に対する重大な損傷を防ぐためにクボタの純正又は同等のオイルのみ使用してください。

場所	容量	
燃料タンク	19 L	２号軽油 ３号軽油 (温度がー 10℃以下の場合)
ラジエータ	1.4 L	クーラント (LLC50%)
リザーブタンク	0.25 L	
エンジンクランクケース	2.1 L(最大) (オイルゲージ)	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) 15 ℃未満 : D10W-30 または D10W-40 (オールシーズン用) 15 ℃以上 : D30 または D10W-30 または D10W-40
トランスミッションケース 及び後車軸ギヤケース (左右)	10.0 L	クボタ純オイル スーパー UDT バイオスーパー UDT　又は バイオグリーングラス VG46
モーアギヤボックス	0.4 L	
フロント PTO ケース	0.13 L	

グリースアップ	グリースアップ箇所の数	容量	グリースの種類
速度調整レバーのボス	2	グリースがあふれるまで	万能グリース
キングピン	2		
センターピン	1		
前輪	2		
フロント PTO ドライブシャフト	2		
エンジンユニバーサルジョイント	1		
速度調整レバー	–	適度な量	オイル
モーアリンク			
シート調整部			
スロットルケーブル			
油圧昇降ペダル			
集草バッグリンク			
[モーア]		グリースがあふれるまで	万能グリース
ユニバーサルジョイント	3		
モーアスピンドル軸 (左右)	2		

補　足

＊ オイル量は油面がオイルゲージ上面にある状態です。
＊ クボタ純オイル（トランスミッションオイル）には下記のような特性があります。用途に応じてお選びください。
　＜クボタ純オイル　スーパーUDT＞
　トランスミッションの潤滑や油圧作動油等として最適な性能を発揮するマルチグレードトランスミッションオイルです。
　＜クボタ純オイル　バイオスーパーUDT＞
　オイルが土や水に流出する事故が万一生じても，自然界に生息するバクテリア等により短時間で分解し，元の環境状態に戻す性能をクボタスーパーUDTオイルに付加した環境保全型オイルです。
　＜クボタ純オイル　バイオグリーングラスVG46＞
　地面に漏れても芝などの植物を枯らさない特性を付加した生分解性の芝刈機専用トランスミッションオイルです。（一般のギアオイルとしては使用できません。）
＊ 違う種類の油やクーラントを一緒に混ぜないでください。
＊ 冷却水と油の容量は工場での参考値です。

推奨グリース一覧表

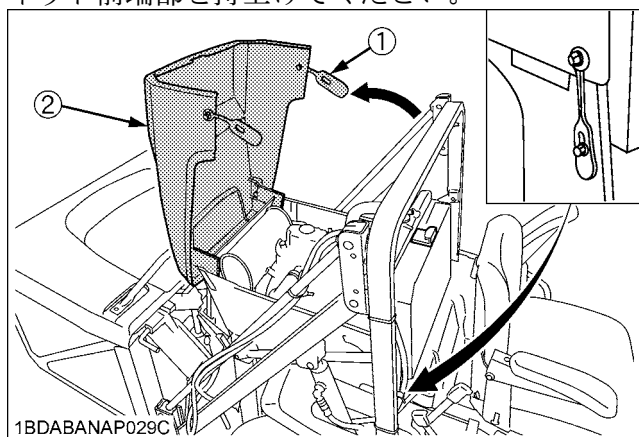
極圧（万能）グリース	クボタ純グリース No. 2 ※入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 • JX 日鉱日石エネルギー：エピノックグリース AP 2, リゾニックス EP 2 • コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックス No. 2 • 出光興産：ダフニーエポネックス SR 2 • 昭和シェル石油：アルバニヤ EP グリース 2 • モービル：モービラックス EP 2
ホーン接点用グリース	協同油脂　マルテンプ PS 2

ボンネットの開閉

注 意

＊ **ボンネットを開けるときは必ずエンジンを停止してください。**
＊ **マフラと排気パイプはエンジン停止後しばらくは触らないでください。ヤケドすることがあります。**

■ボンネット

ボンネットを開けるときにはバンドを外し，ボンネット前端部を持上げてください。

(1) バンド
(2) ボンネット

補 足

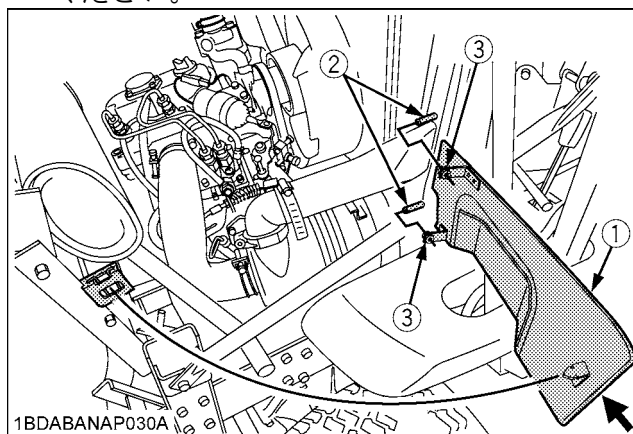
＊ ボンネットを閉めるときは，ロック金具が確実にロックされていることを確認してください。

■エンジンサイドカバー

◆ 取外し

1. カバーを外側に引張り，後側のフックを外してください。
2. カバーをガイドピンに沿って後方にずらし，ガイドピンから抜いてください。

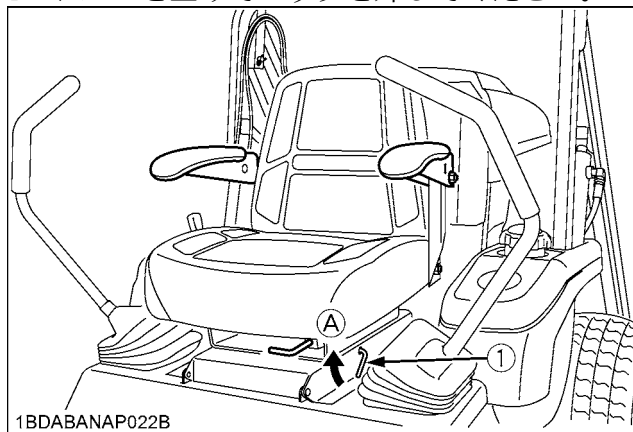
◆ 取付け

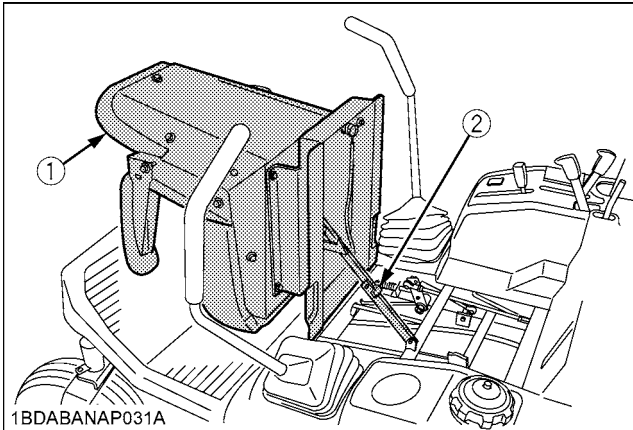
1. カバーのガイド穴をガイドピンに通し，奥まで差込んでください。
2. カバーを内側に押し，後側のフックをかけてください。

(1) エンジンサイドカバー
(2) ガイドピン
(3) ガイド穴

シートの開閉

◆ シートを起こす

＊ **シートを起こすときはロックするまで完全に起こしてください。**

1. レバーを上げてロックを外してください。

(1) レバー　　(A) 上げる

2. シートをロックする位置まで完全に起こしてください。

(1) シート
(2) シートサポートロッド

◆ シートを戻す

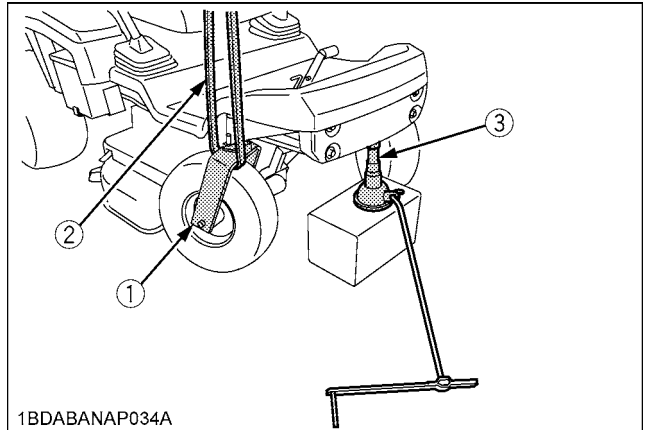
＊ シートを戻すとき手を離さないでください。
＊ シートの下に手を挟まないように注意してください。

1. シートサポートロッドを上に引き，ロックをはずしてください。
2. ゆっくりとシートを戻してください。

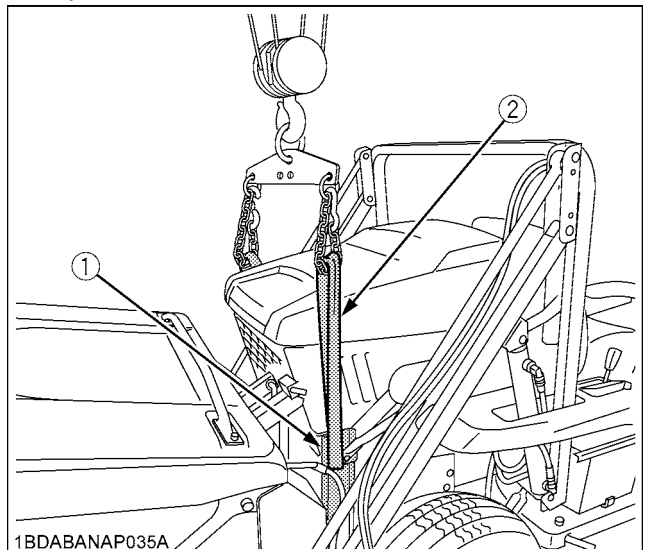
ゼロ旋回モーアのリフトアップ

＊ 確実にスタンドやブロックで固定されていないときには本機の下で作業しないでください。

■前方部

前輪ブラケットをナイロンスリングで吊上げるか，もしくはフロントウエイトをジャッキアップしてください。
モーアデッキはリフトアップしないでください。

(1) 前輪ブラケット
(2) ナイロンスリング
(3) ジャッキ

■後方部

後フレームをナイロンスリングで吊上げてください。

(1) 後フレーム
(2) ナイロンスリング

日常点検

注 意

＊ 火気厳禁
＊ 点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊ 燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊ 本機は常に清掃しておいてください。バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
＊ エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，しばらく時間をおいてから行なってください。

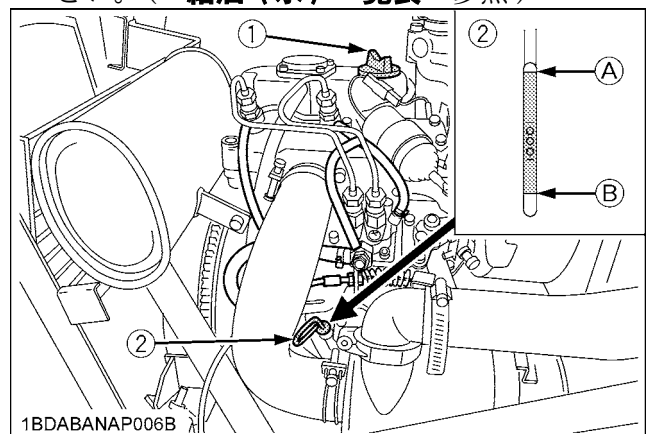
1．前日の異常箇所
前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。
2．本機の回りを歩いて
下記の項目を点検してください。
　(1) ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
　(2) 車体各部の変形や損傷
　(3) 油や水もれなど異常がないか。

■エンジンオイルの量および汚れ

＊ オイルを点検する前に必ずエンジンを止め，キーを抜いてください。

◆ 点検と給油

1．エンジンオイルの点検は，油面が安定するエンジン始動前か，またはエンジン停止後５分以降に行なってください。
2．オイルゲージ付近をきれいに拭いてください。
3．オイルゲージを抜いて，先端をきれいに拭いて差込み，再び抜いて，オイルの線が上下限の間にあるのが規定油面です。
4．不足の場合は給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。
5．今まで使用していたオイルと異なるメーカのものを使用する場合や，オイルの劣化がある場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください
6．エンジンオイルは気温により使い分けてください。（**“給油（水）一覧表”**参照）

(1) 給油口　(A) 上限
(2) オイルゲージ　(B) 下限

■燃料

◆ 点検と給油

注 意

＊ 燃料は注意して扱ってください。エンジンを停止してから給油してください。エンジンが熱い場合には燃料を加える前にエンジンを数分冷やしてください。また給油するときやエア抜きしているときには火気を近づけないでください。

1BDABARAP121A

始動前には必ず燃料の量を点検してください。不足の場合には補給してください。燃料タンクが空にならないように注意してください。

燃料タンク容量	19 L

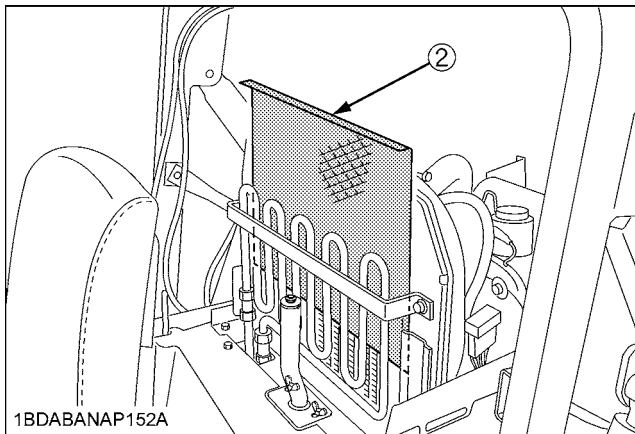
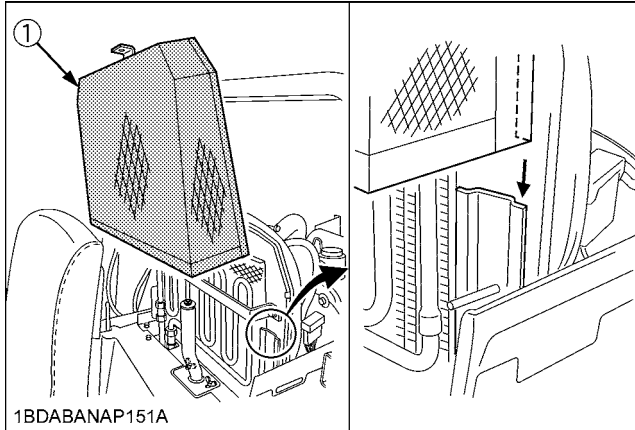
1. ２号軽油を使用してください。
2. 温度が -10℃以下の場合には３号軽油を使用してください。
3. 燃料を給油するときにはフィルタの目詰まりを防ぐために異物が混入しないよう注意してください。

■ラジエータネットおよびパネルスクリーンの点検と清掃

＊ 点検，清掃する前にエンジンを停止し，キーを抜いてください。

運転前及び数時間使用ごとにラジエータネット，パネルスクリーンやラジエータコアにゴミがたまっていないことを確認してください。ラジエータネットやラジエータコアにゴミやほこりが付着していると冷却性能が低下します。乾燥した草を刈る場合は頻繁に確認してください。

1. ラジエータネットとパネルスクリーンを外し，すべてのゴミを取除きます。
2. ラジエータのフィンとチューブの間からゴミを除去します。
3. ラジエータのチューブの中に，水アカがたまった場合は，クボタラジエータ洗浄剤で洗浄してください。
4. 作業中は，パネルスクリーンやラジエータネットに草が付着しやすいので時々点検し，手で取り除いてください。

5. ほこりや草屑がパネル内部にたまっていたら，パネルスクリーンの内部をきれいに掃除をしてください。
清掃後はラジエータネット，パネルスクリーンをきちんと元通りに取付けてください。

(1) パネルスクリーン
(2) ラジエータネット

補　足

＊ パネルスクリーンを取付けるときには確実に取付溝に沿って取付け，底部に隙間がないようにしてください。

■タイヤ

タイヤの空気圧の点検

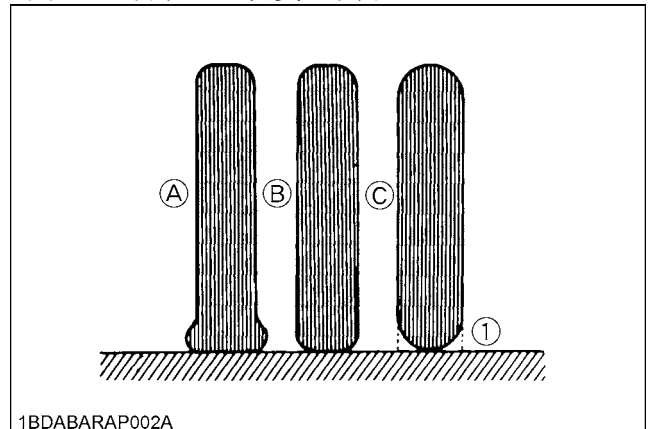
＊ タイヤの空気圧は，下記の標準圧力を必ず守ってください。
空気を入れすぎると，タイヤが破裂し死傷事故のおそれがあります。
＊ パンク修理などでタイヤ，チューブを脱着する作業には特別な技能と器具が必要です。
自分で行なおうとしないで，必ず購入先にご相談ください。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換・修理は必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

重　要

＊ 指定されたタイヤ以外は使用しないでください。

◆ タイヤの空気圧

空気圧は規定圧力に工場でセットしておりますが，時間とともにゆっくり落ちてきます。点検して，必要に応じて空気を入れてください。
外観から判断する目安は以下のとおりです。

(1) 地面

(A) 不足
(B) 正常
(C) 多い

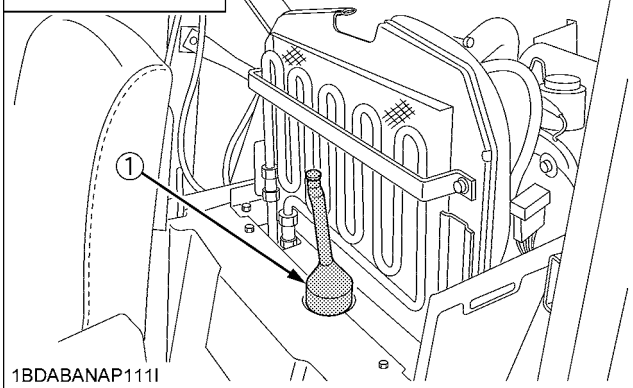
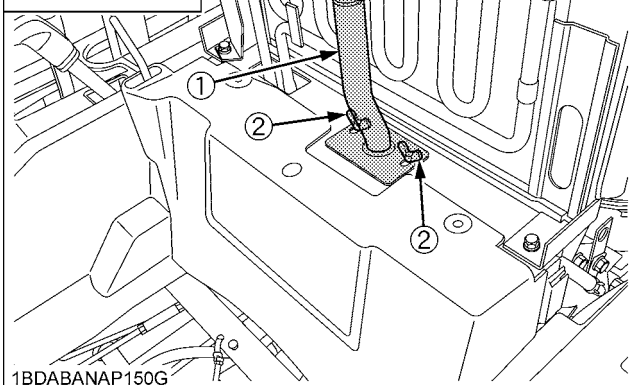
◆ 標準空気圧

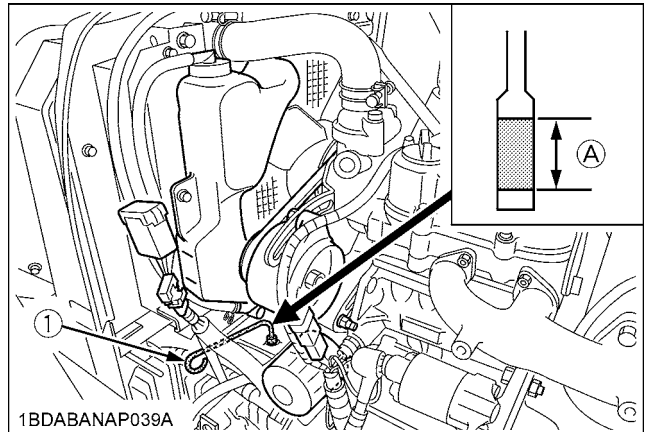
	タイヤ	
前輪	15 × 6.0 － 6	207 kPa (2.1 kgf/cm²)
後輪	20 × 10.00 － 8	140 kPa (1.4 kgf/cm²)

■トランスミッションオイルの量および汚れ

＊ **点検をするときには本機を水平な場所に駐車し，必ず作業機を降ろし，エンジンを停止させ，キーを抜いてください。**

◆ 点検と給油

1. ボンネットを開け，左のエンジンサイドカバーを取外してください。
2. オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭いて差込み，再び抜いてオイルの線が上下限の間にあるのが規定油面です。
3. 不足の場合は給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。（**“給油（水）一覧表”**参照）

(1) 給油口およびブレザキャップ

(1) 給油口およびブレザキャップ
(2) チョウボルト

(1) オイルゲージ **(A) 規定油面範囲**

重 要

＊ オイルの量が規定油面に達していないときはエンジンを始動しないでください。

■冷却水の点検

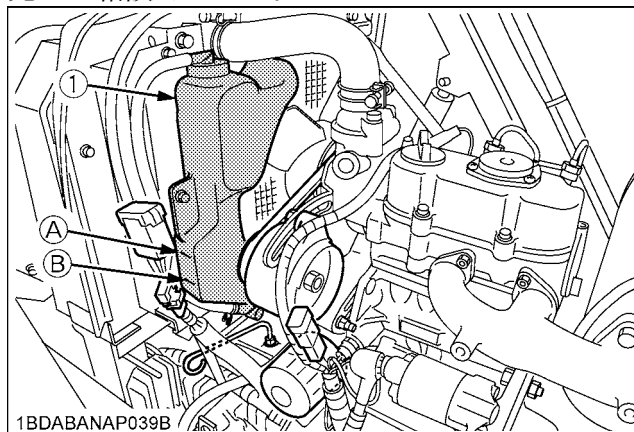
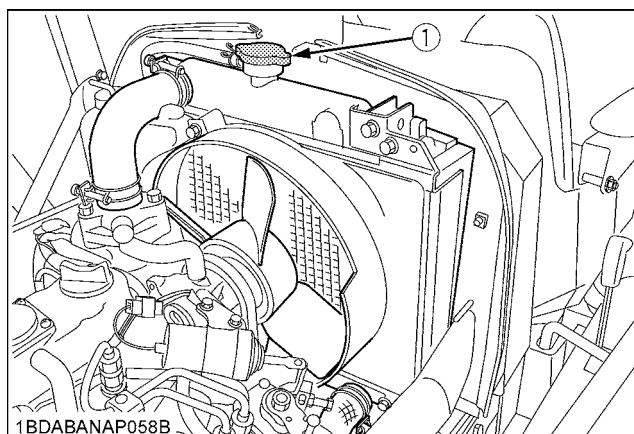
注 意

- **＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。**
- **＊ 開けるときにはキャップを完全に開ける前に超過圧力を解放するための止め金までわずかにキャップをゆるめてください。**

◆ 点検，補充

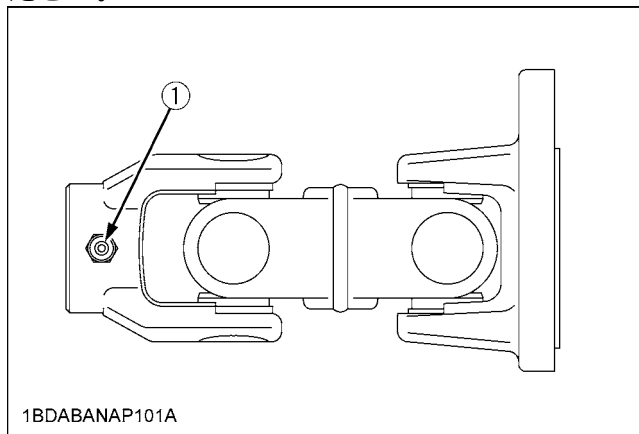
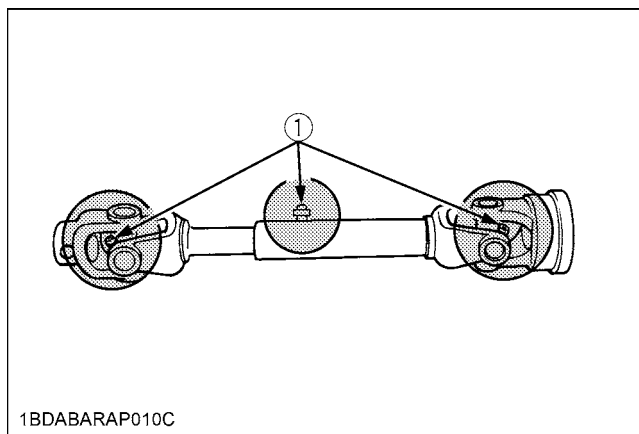
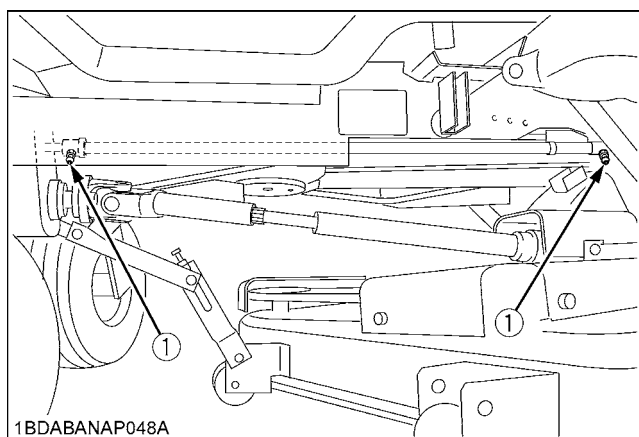
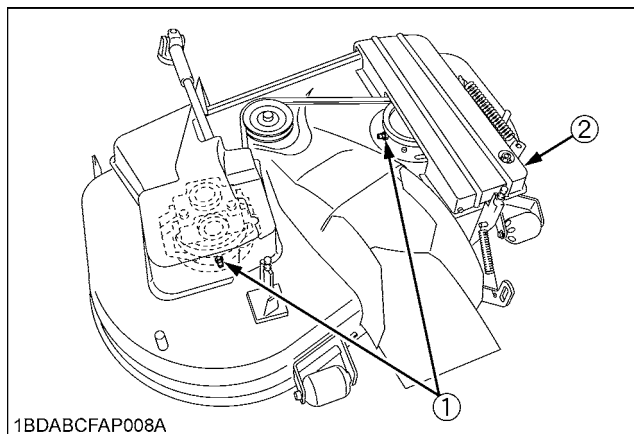
1. リザーブタンク内の冷却水の量は下限と上限の印の間になければなりません。もし液面が下限の印よりも下にある場合にはタンクキャップを取外し，クーラント（LLC50%）を補給してください。
2. 操作中にエンジンが過負荷により停止した場合には冷却水がリザーブタンクからラジエータに戻るために少しの間エンジンをアイドリング状態にしてください。
3. ラジエータキャップを取外し，冷却水が満水であることを点検してください。不足している場合には補給してください。蒸発によって減ったときには水のみを補給してください。漏れによって減少したときにははじめの比率どおりの水と不凍液の混合液を足してください。
4. ラジエータキャップがしっかり閉まっていることを確認してください。キャップがゆるんでいたり，きちんと閉じていない場合には水が漏れ，エンジンがオーバヒートすることがあります。
5. ラジエータは常に不凍液のメーカによって推奨されているように不凍液と蒸留水の割合で満たしてください。不凍液は防錆剤が含まれており，気温の高い季節において，ラジエータ内の温度がより高くなっても操作できます。
6. 不凍液とラジエータ洗浄剤を同時に使用しないでください。

◆ ラジエータから水漏れした場合

冷却液漏れが極端にひどくなった場合には購入先にご相談ください。

(1) リザーブタンク (A) 上限
(B) 下限

(1) ラジエータキャップ

■グリースアップ

- **＊ グリースを注入する前にエンジンを停止し，キーを抜いてください。**

次のグリースニップルにグリースを注入してください。

(1) エンジンユニバーサルジョイント

(1) モーアユニバーサルジョイント

(1) フロント PTO ドライブシャフト

(1) モーアスピンドルシャフト
(2) テンションアーム

50 時間ごとの点検・整備

■安全装置の点検

以下の手順で各安全装置の点検を行なってください。

- **＊ 点検中は本機に人を近づけないでください。**
- **＊ 以下のとおりに作動しない項目が一つでもある場合，本機を運転せず，購入先にご相談ください。**
- **＊ テスト 1 以外はシートに座ってテストを行なってください。**

テスト 1（無人始動防止装置）（シートには乗らないでください）

1. 駐車ブレーキをかけてください。
2. PTO レバーを **"切"** にしてください。
3. 速度調整レバーを **"中立固定"** の位置にしてください。
4. キースイッチを **"始動"** の位置に回してください。
5. エンジンは始動しません。

テスト 2（始動時走行防止装置）（以降のテストはシートに座ったまま行なってください）

1. 駐車ブレーキを解除してください。
2. PTO レバーを **"切"** にしてください。
3. 速度調整レバーを **"中立固定"** の位置にしてください。
4. キースイッチを **"始動"** の位置に回してください。
5. エンジンは始動しません。

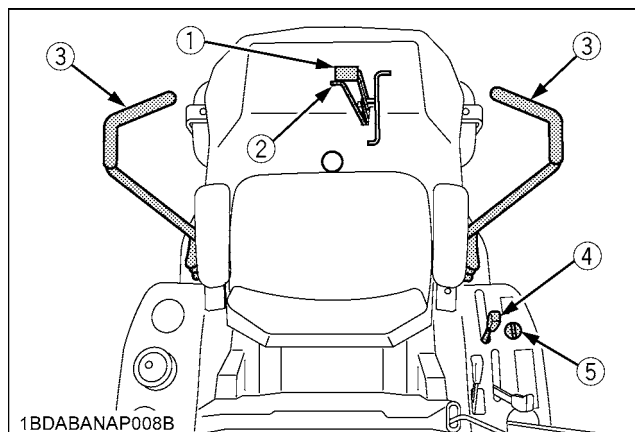
テスト 3（始動時走行防止装置）

1. 駐車ブレーキをかけてください。
2. PTO レバーを **“切”** にしてください。
3. 速度調整レバーを **“中立固定”** から **“中立”** の位置へ移動させてください。
4. キースイッチを **“始動”** の位置に回してください。
5. エンジンは始動しません。

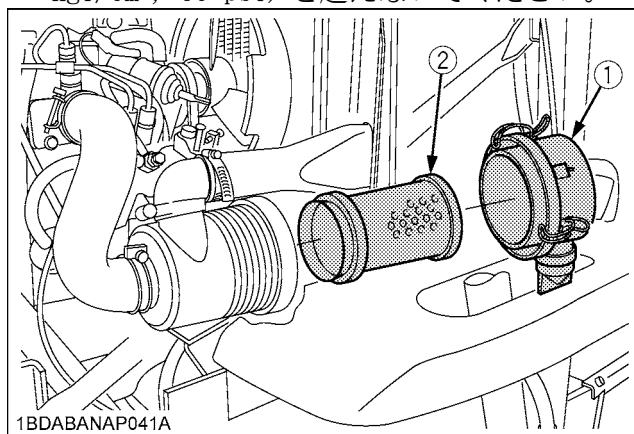
テスト 4（始動時モーア駆動防止装置）
1. 駐車ブレーキをかけてください。
2. PTO レバーを **“入”** にしてください。
3. 速度調整レバーを **“中立”** から **“中立固定”** の位置に戻してください。
4. キースイッチを **“始動”** の位置に回してください。
5. エンジンは始動しません。

テスト 5（無人走行防止装置 ）
1. エンジンを始動してください。
2. 駐車ブレーキを解除してください。
3. PTO レバーを **“切”** にしてください。
4. 速度調整レバーを **“中立固定”** から **“中立”** の位置へ移動させてください。
5. 立ち上がってください。（本機から降りないでください。）
6. エンジンは止まります。

テスト 6（無人モーア駆動防止装置）
1. エンジンを始動してください。
2. 駐車ブレーキを解除してください。
3. PTO レバーを **“入”** にしてください。
4. 立ち上がってください。（本機から降りないでください。）
5. エンジンは止まります。

テスト 7（集草バッグ検出装置）
1. エンジンを始動してください。
2. 集草バッグを上げてください。
3. PTO レバーを **“入”** にしてください。
4. エンジンは止まります。

(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキロックペダル
(3) 速度調整レバー
(4) PTO レバー
(5) キースイッチ

■エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナは乾式エレメントを使用しております。決してオイルを使用しないでください。
2. エレメントは清掃時以外にはさわらないでください。エレメントを清掃するときにはきれいで乾いた圧縮空気をエレメントの内側から吹付けてください。空気圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm², 30 psi）を超えないでください。

(1) エアクリーナカバー
(2) エアクリーナエレメント

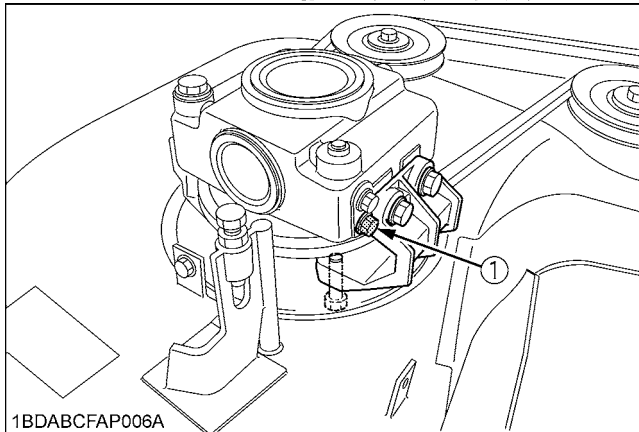
補　足

＊ ほこりの多い場所で使用する場合は頻繁に清掃が必要です。

■モーアギヤボックスオイルの量

＊ オイルを点検する前に必ずエンジンを止め，キーを抜いてください。

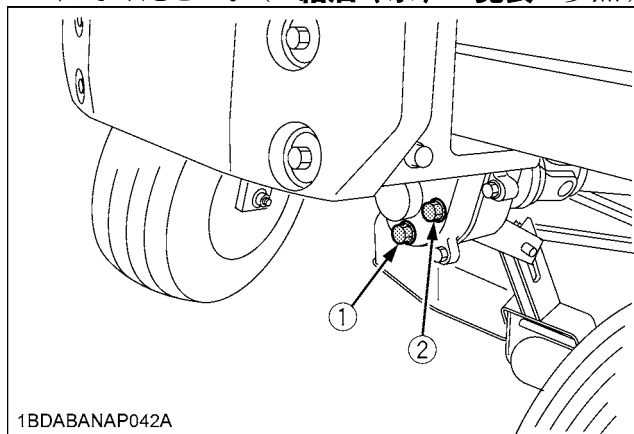
◆ 点検と給油

1. 本機を水平な場所に駐車し，モーアを地面に降ろしてください。
2. プラグをゆるめて外し，油面がプラグ口の下にあるのが規定油面です。
3. 不足の場合は新しいオイルを規定油面まで入れてください。（**"給油（水）一覧表"** 参照）

(1) プラグ

■フロント PTO ケースオイルの量

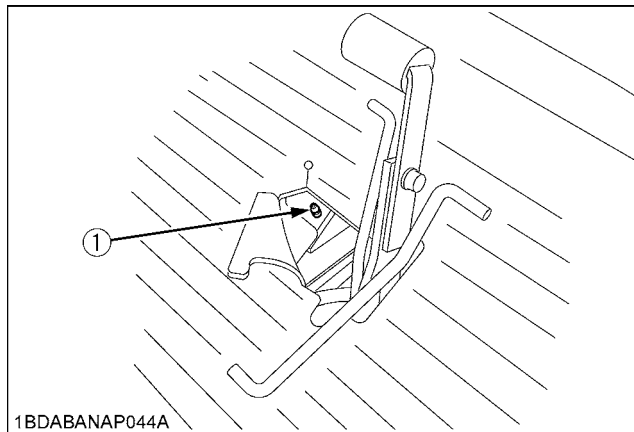
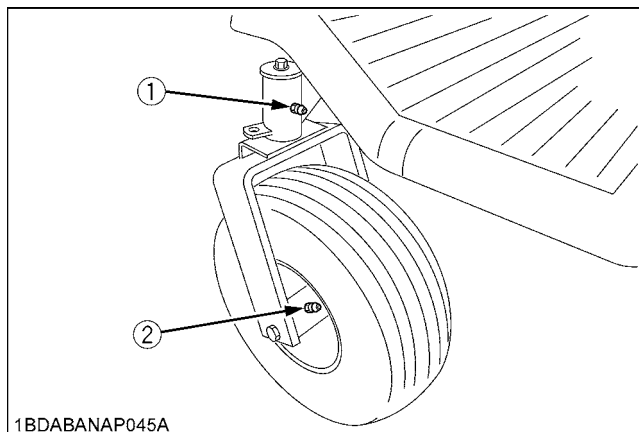
＊ オイルを点検する前に必ずエンジンを止め，キーを抜いてください。

◆ 点検と給油

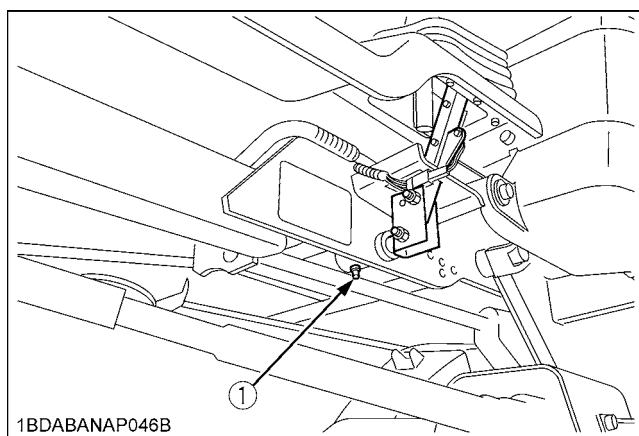
1. 本機を水平な場所に駐車し，モーアを地面に降ろしてください。
2. チェックプラグをゆるめて外し，油面がチェックプラグ口の下にあるのが規定油面です。
3. 不足の場合は新しいオイルを規定油面まで入れてください。（**"給油（水）一覧表"** 参照）

(1) ドレンプラグ
(2) チェックプラグ

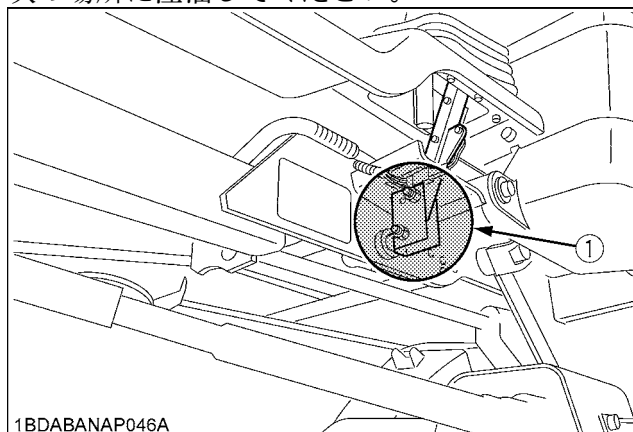
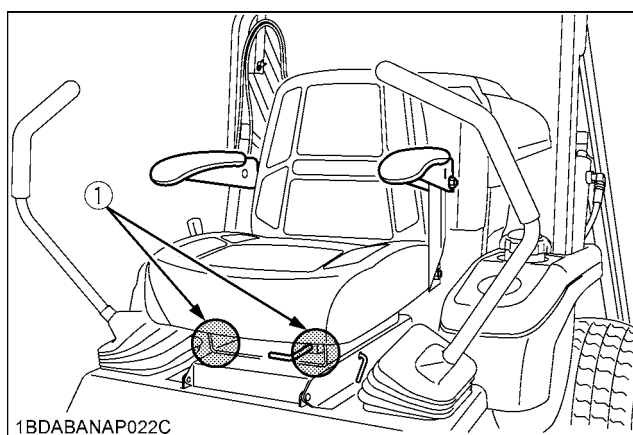
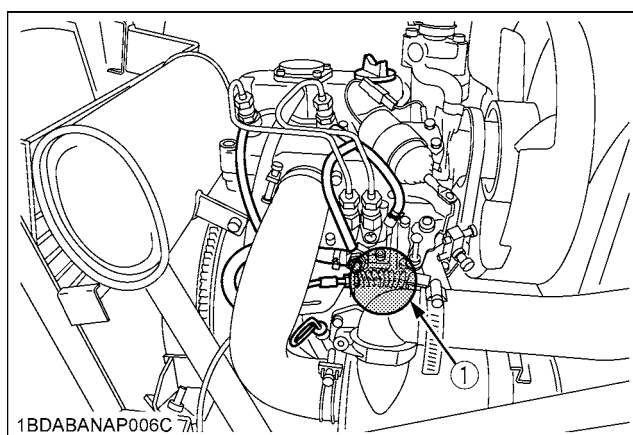
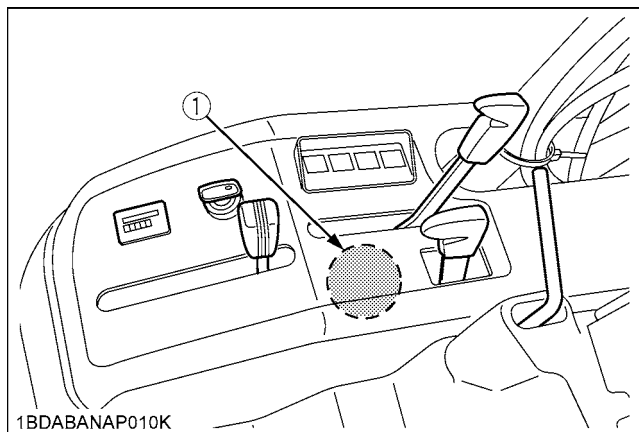
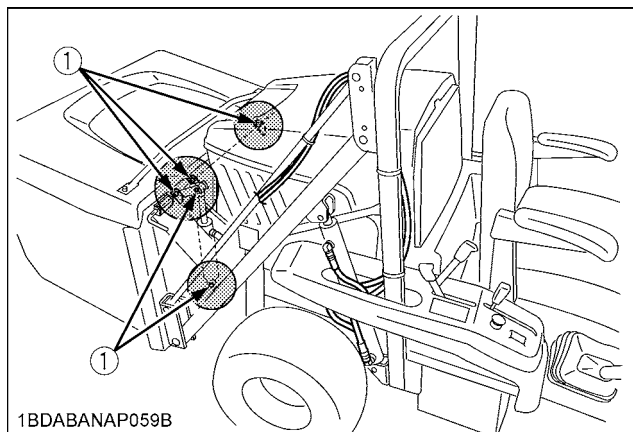
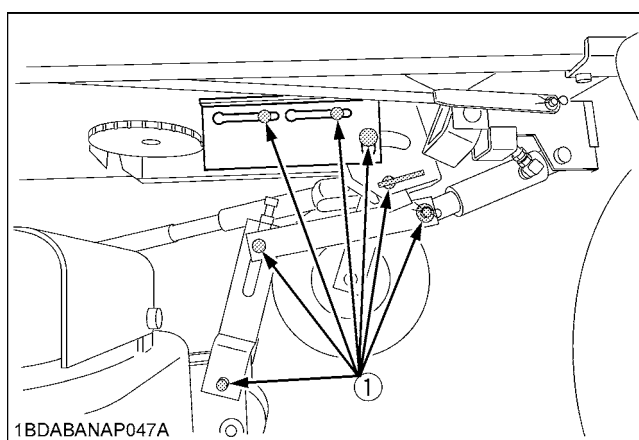
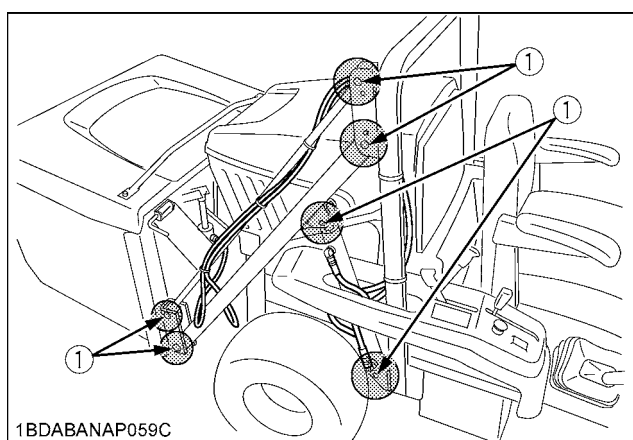
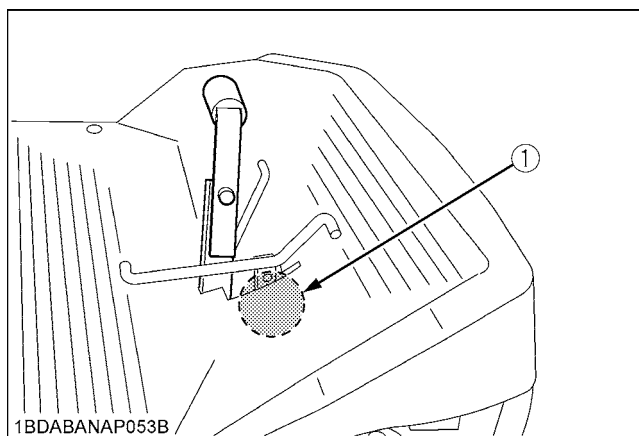
■グリースアップ

＊ グリースを注入する前にエンジンを停止し，キーを抜いてください。

次のグリースニップルにグリースを注入してください。

(1) センターピン

(1) キングピン（左右）
(2) 前輪（左右）

(3) 速度調整レバーボス（左右）

■注油

＊ 注油する前にエンジンを停止し，キーを抜いてください。

次の場所に注油してください。

(1) 速度調整レバー（左右）

(1) シート調整部

(1) スロットルケーブル

(1) スロットルケーブル

(1) モーアリンク

(1) モーア昇降ペダル

(1) 集草バッグリンク

(1) 集草バッグリンク（左右）

■バッテリ

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの2種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

- ＊ **バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。**
  LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
  すぐにUPPER LEVEL とLOWER LEVEL の間まで補水してください。

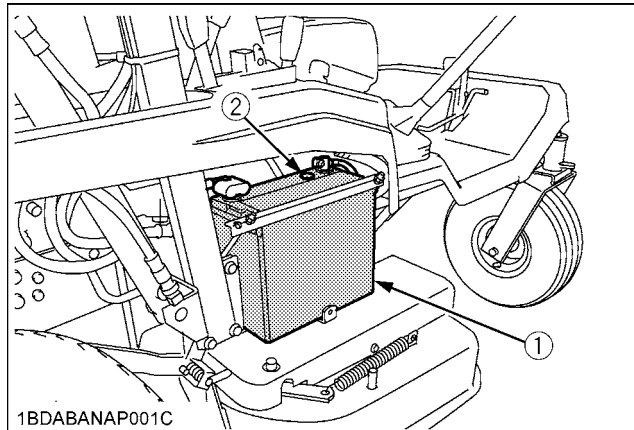
注　意

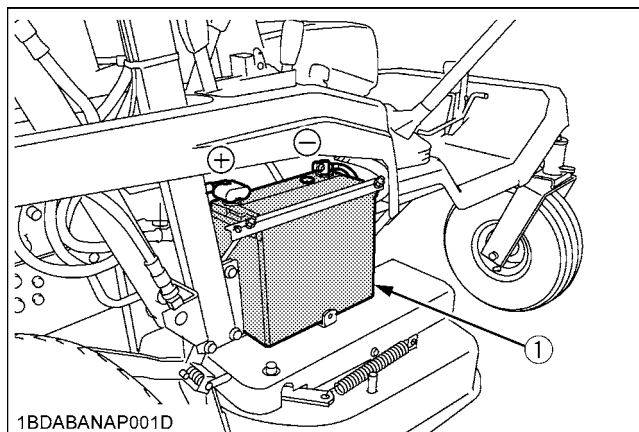
- ＊ **エンジンが始動しているときには決してベントキャップを外さないでください。電解液を目，手，衣服に付けないようにしてください。電解液が付着した場合はすぐに水で完全に洗い流して医師の診断を受けてください。**
- ＊ **バッテリ周りで作業するときには防護めがねとゴム手袋をしてください。**

バッテリは取扱いを誤ると寿命を短くして，つまらぬ出費をしなければなりません。正しい取扱い方法で充分に機能を発揮させてください。

本機は出荷時には補水不要タイプのバッテリを搭載しています。インジケータの表示が白くなったら充電せずに新しいバッテリと交換してください。
バッテリに蓄えられた電気量が減ってくると，エンジンが始動しにくくなります。

(1) バッテリ
(2) インジケータ

◆ バッテリの充電

- ＊ **バッテリ使用中はバッテリ内の水素ガスと酸素ガスが特に危険な状態となっております。バッテリに火花や炎を近づけないでください。特にバッテリを充電するときには注意してください。**

- ＊ **バッテリからコードを外すときには⊖端子から始めてください。**
  バッテリを接続するときには⊕の端子から始めてください。
- ＊ **バッテリ端子を短絡させてバッテリの充電を点検しないでください。電圧計か，液体比重計を用いてください。**

(1) バッテリ

1. バッテリの通常充電をするにはバッテリの⊕端子を充電器の⊕端子につなぎ，⊖端子を⊖端子につなぎ，通常のやり方で充電してください。
2. 急速充電は緊急のときのみです。これは短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。急速充電したときにはできるだけ早くバッテリを正しく補充電することが必要です。補充電しておかないと，バッテリの寿命は極端に短くなります。
3. インジケータの表示が黒から緑に変わったら充電はできています。
4. 古いバッテリを新しいバッテリに交換するときには必ず65D23Lのバッテリと交換してください。

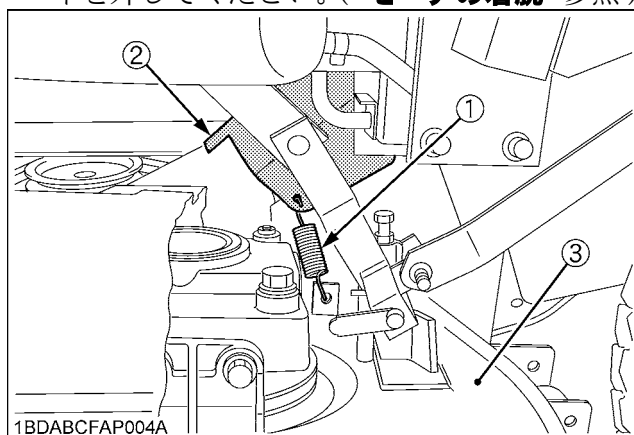
インジケータの表示	
緑	正常な状態
黒	充電必要
白	交換必要

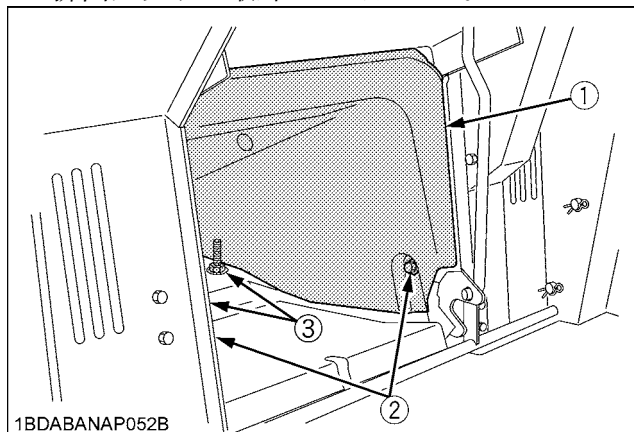
◆ **格納時の処置**
1. 本機を長期間使用しない場合はバッテリを本機から外し，充電し，補水タイプの場合バッテリ液を適量補充して乾燥した冷暗所に保管してください。
2. バッテリは保管している状態でも放電します。夏季は３ヶ月に１度，冬季は６ヶ月に１度充電してください。

100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換
(初回は50時間，２回目は100時間，３回以降は100時間ごと)

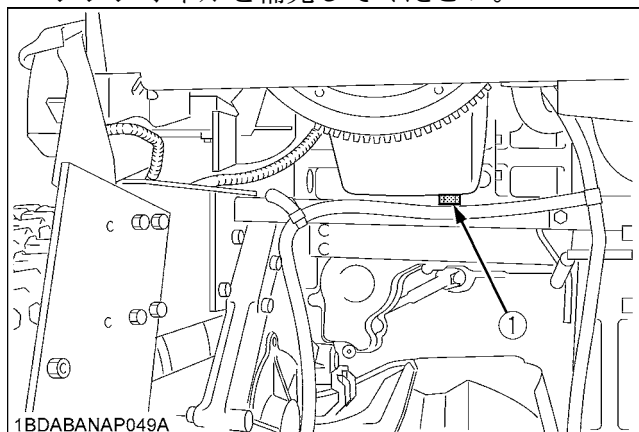
＊ オイルを交換する前に必ずエンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ エンジン停止直後はオイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。しばらく時間をおいてオイル交換してください。

1. 本機から集草バッグを取外してください。（“**集草バッグの着脱**”参照）
2. 排出ダクトとモーアデッキをつないでいるバネを外してください。(“**モーアの着脱**”参照)

(1) バネ
(2) 排出ダクト
(3) モーアデッキ

3. 排出ダクトを取外してください。

(1) 排出ダクト
(2) ボルト
(3) 規制ボルト（左右）

補　足

＊ 排出ダクトを取付ける際は，左右の端が規制ボルトの外側に来るようにしてください。

4. オイルを交換するにはエンジンの底にあるドレーンプラグを外し，オイルを完全に抜いてください。エンジンが少し暖かいうちに行なうと完全に排出できます。
5. ドレーンプラグをしっかりと締め，新しいエンジンオイルを補充してください。

(1) ドレーンプラグ

6. オイル量を点検してください。オイルゲージを抜いて，きれいにふき取り，再び入れて引抜いてください。上下限の間にオイル量があることを点検してください。

■燃料ホースと燃料フィルタの点検

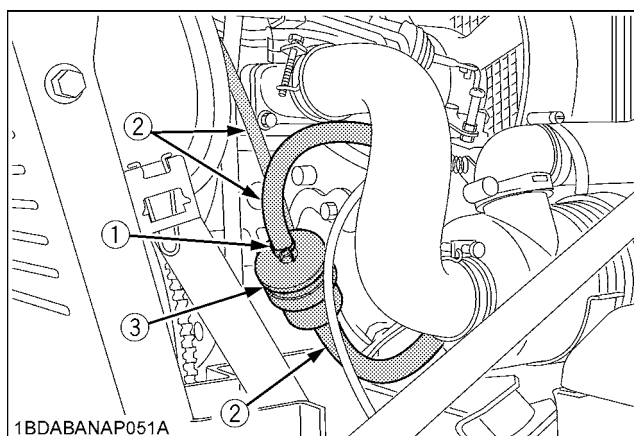
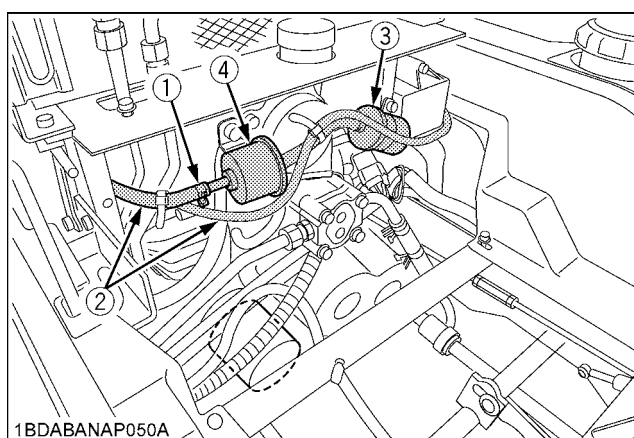
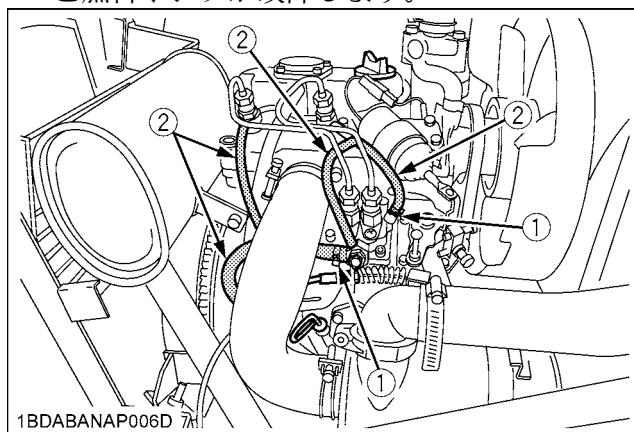
 注　意

＊ **次の点検と交換を行なうときにはエンジンを止め，キーを抜いてください。また火気を近づけないでください。**

＊ **必ず燃料経路の点検を定期的に行なってください。燃料ホースは摩耗，劣化します。エンジンを作動させているときに燃料がもれ，火事の原因となるおそれがあります。**

1. 燃料ホースはゴム製品で，使用時間に関係なく劣化します。
2. 燃料ホースや締付けバンドが損傷したり，きっちりおさまっていなかったりした場合にはそれらを取替えてください。燃料ホースの交換は購入先で行なってください。
3. 燃料フィルタを点検してください。ゴミやほこりにより詰まっている場合は早めに交換してください。燃料フィルタの交換は購入先で行なってください。

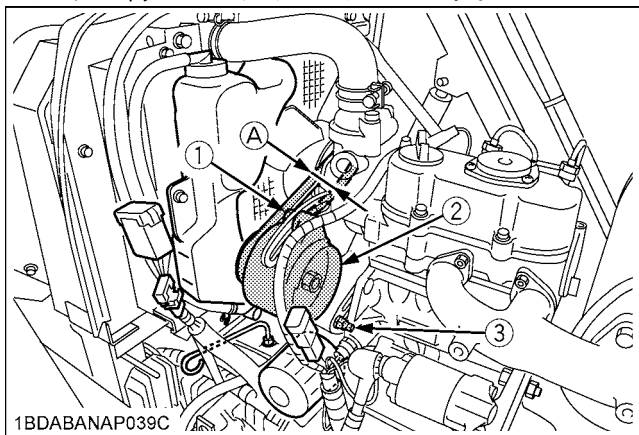
重　要

＊ 整備や修理のために燃料ホースを外す場合には燃料ホースの両端をきれいな布か紙でほこりや土が入らないようにふさいでください。また燃料ポンプにほこりや土が入らないように特に注意してください。ほこりや土が入ると燃料ポンプが故障します。

(1) パイプクランプ
(2) 燃料ホース
(3) 燃料フィルタ
(4) 燃料ポンプ

■ファンベルトの張り調整

＊ 必ず作業前にエンジンを止め，キーを抜いてください。

◆ 調整方法

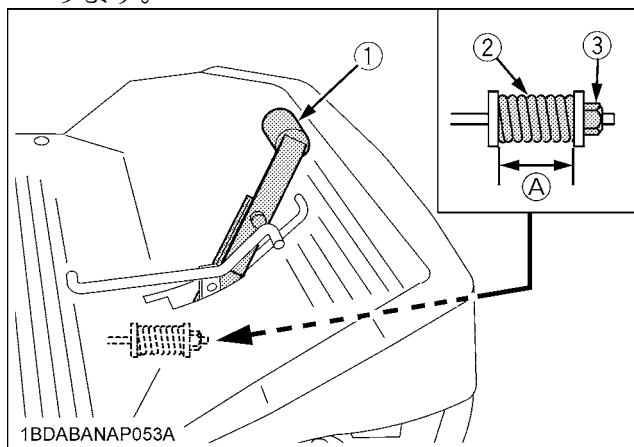
ファン駆動ベルトがゆるんでくると，エンジンがオーバヒートするおそれがあります。調整するにはボルトをゆるめ，発電機を引張ってベルトを張ってください。調整後，ボルトをしっかりと締付けてください。適切なベルトテンションはベルトの中央部を 98 N(10 kgf) の力で押したときにベルトが約 10 mm たわむくらいです。

(1) テンションボルト　(A) 10 mm
(2) 発電機
(3) 調整ボルト

■駐車ブレーキの点検

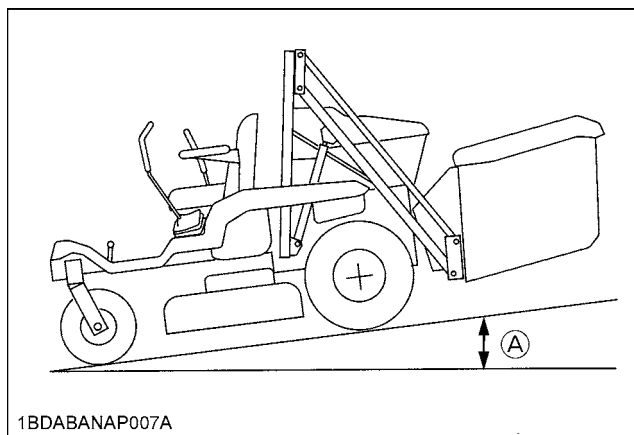
＊ 必ず点検，調整する前にエンジンを止め，タイヤを固定してください。
＊ 本機を固い平たんなところに止めてください。

駐車ブレーキをかけ，スプリングの長さ (A) を点検してください。
もし，正しくなければロックナットを回して適切な長さになるように調整してください。

重　要

＊ 間違った調整は本機に損傷を与える場合があります。

(1) ブレーキペダル　(A) 27 mm
(2) スプリング
(3) ロックナット

◆ 傾斜地での点検

1. 本機を17度以下の傾斜地へもっていってください。
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. 速度調節レバーを“**中立固定**”の状態にし，エンジンを止めてください。
4. 本機が動かないことを確認してください。

(A) 17 度以下

補　足

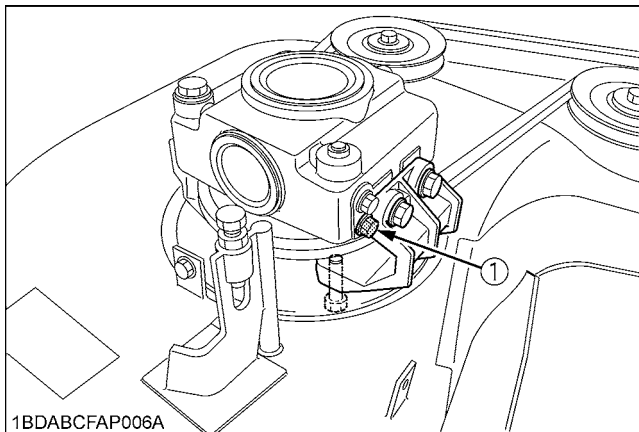
＊ 駐車ブレーキの点検目的のため，必ず 17 度以下の傾斜で行なってください。

150 時間ごとの点検・整備

■モーアギヤボックスオイルの交換

注 意

＊ オイルを交換する前に必ずエンジンを止め，キーを抜いてください。

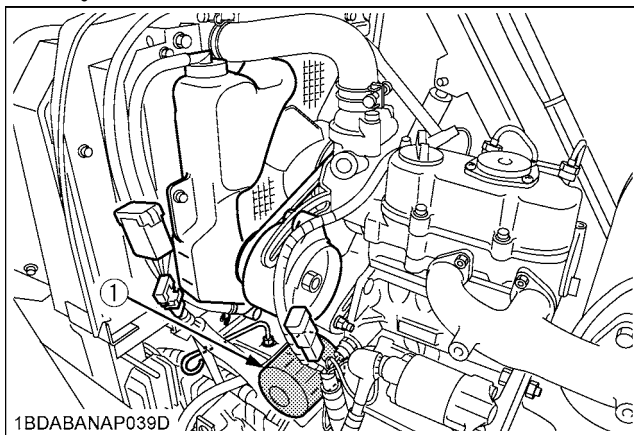
1. オイルを交換するにはギヤボックスのプラグを外し，モーアデッキを傾けてオイルを完全に抜いてください。
2. 規定量のオイルを入れてください。
（**“給油（水）一覧表”**参照）
3. オイルを入れ終わったらプラグを元に戻してください。

(1) オイルフィルタープラグ

200 時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

（初回は 50 時間，2 回目は 200 時間，3 回以降は 200 時間ごと）

＊ オイルフィルタカートリッジを交換する前に必ずエンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ 十分にエンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

1. 新しいカートリッジのゴムのパッキンにオイルを薄く塗布してください。
2. 新しいカートリッジを手でねじ込み，シール面にパッキンが接触してから手で十分に締付けてください。きつく締めすぎるとゴムのパッキンが変形するおそれがあります。
3. カートリッジを交換したときは，エンジンオイルが少なくなるのでしばらく運転し，シール面から油漏れがないのを確認したあと，オイルゲージでオイルの量を必ず確認し，規定位置までエンジンオイルを補給してください。

(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

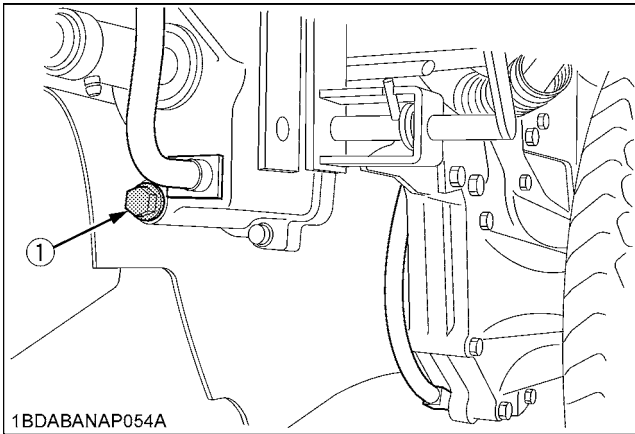
重 要

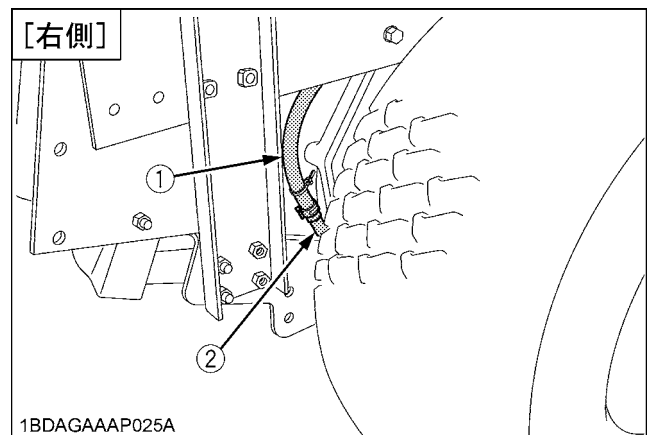
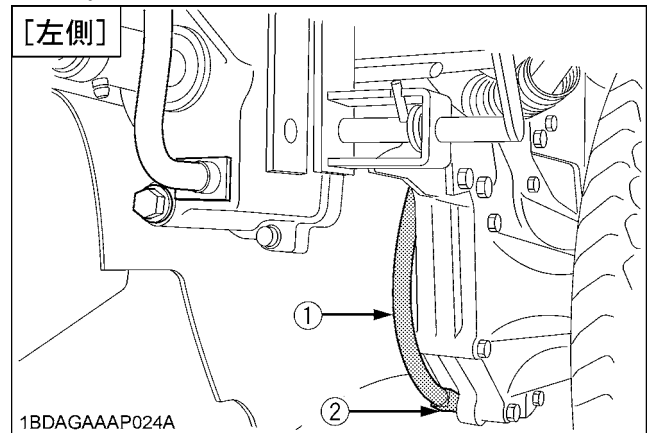
＊ エンジンの故障を防ぐため，交換用のフィルタカートリッジは，必ずクボタ純正フィルタを使用してください。

■トランスミッションおよび後車軸ギヤケースオイルの交換

注　意

＊ オイルを交換または点検する前に必ずエンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ エンジン停止直後はオイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。しばらく時間をおいて実施してください。

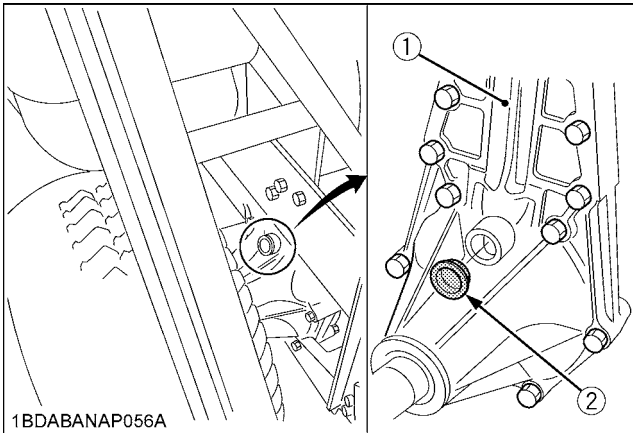
1. オイルパンをトランスミッションケースの下に置き，トランスミッションケースの底にあるドレーンプラグを取外し，トランスミッションオイルを抜いてください。

⑴ ドレーンプラグ

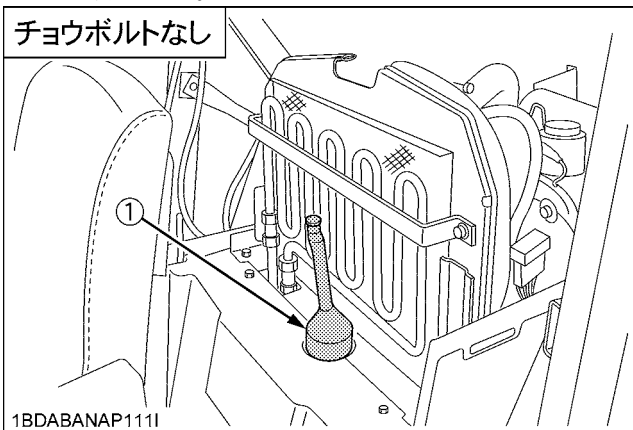
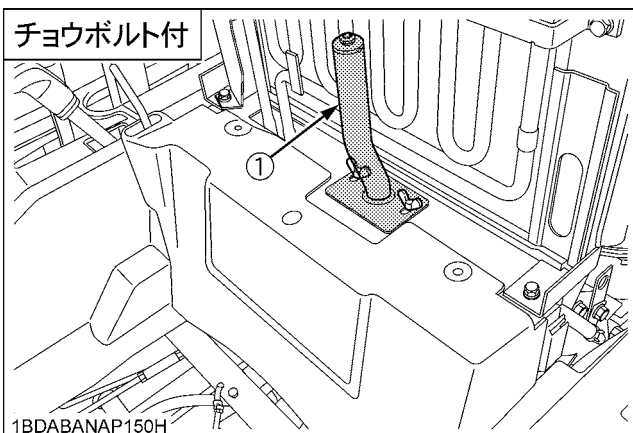
2. 後車軸ギヤケース（左右）の底にある L 型アダプタから締付けバンドとホースをはずし，後車軸ギヤケース内のオイルを抜いてください。

⑴ ホース
⑵ L 型アダプタ

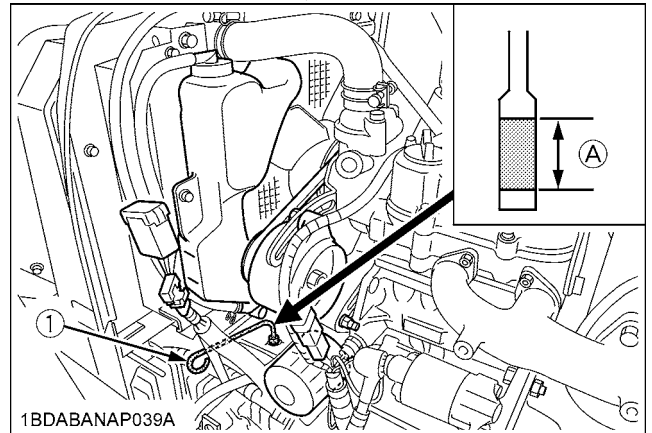
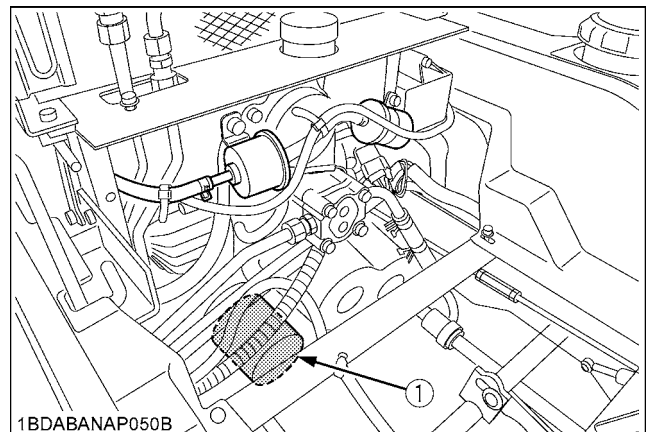
重　要

＊ L　型アダプタは外からは取外せませんので，引張らないでください。

3. 抜き終わった後，ストレーナを取外しきれいにし，オイルフィルタカートリッジを交換してください。組付けた後にクボタ純オイルスーパーUDT，バイオスーパーUDT，バイオグリーングラス VG46 を入れてください。

4. 後車軸ギヤケース両側のプラグを外し，プラグ口まで新しいオイルを入れてください。いっぱいになったらプラグを元の位置に戻してください。

(1) 後車軸ギヤケース
(2) プラグ

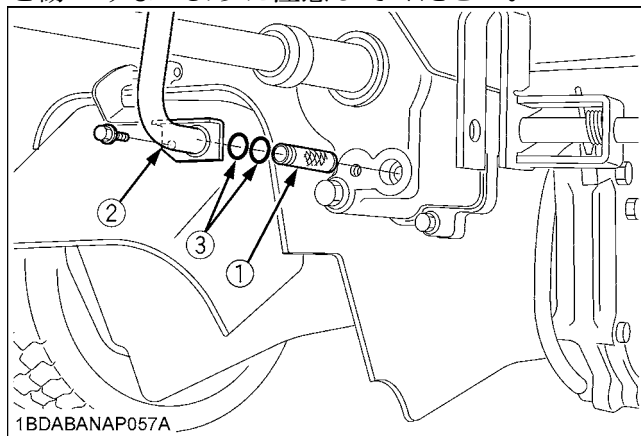
5. オイルプラグを取外し，新しいオイルを入れてください。

(1) オイルプラグとブレザキャップ

(1) オイルプラグとブレザキャップ

6. エンジンを始動し，前後進走行を数回行なった後，エンジンを止めてオイル量を再び点検し，規定の量までオイルを補給してください。（モーア“0”位置，集草バッグ下げ位置）

(1) オイルゲージ　(A) 規定油面範囲

(1) トランスミッションオイルフィルタ

重　要

＊ トランスミッションオイルとフィルタカートリッジを交換した直後は低い回転数でのみ操作してください。
すべての部分に適度な潤滑を与え，トランスミッションに損傷を与えないためにエンジンを数分間中速に保ってください。

◆ **トランスミッションオイルストレーナの清掃**

トランスミッションオイルを交換するときは同時にストレーナを取外し，詰まったゴミを不燃性の溶剤できれいに洗い流してください。O リングが堅くなったり，ひび割れているのを発見した場合は交換してください。組付けるときは各部品を傷つけないように注意してください。

(1) ストレーナ
(2) 吸入パイプ
(3) O リング

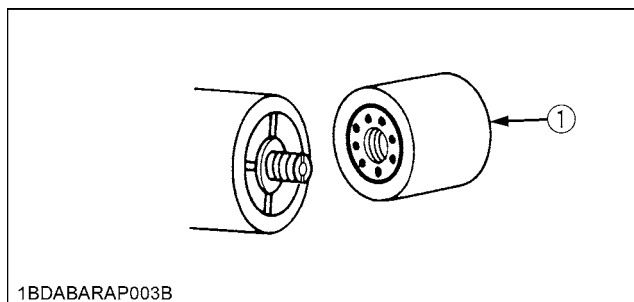
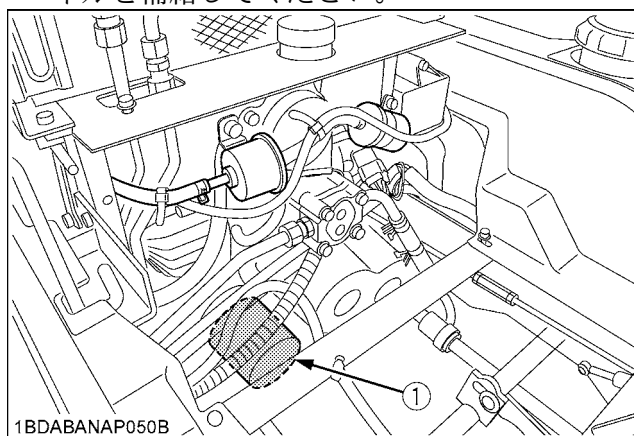
補　足

＊ オイルにゴミが混ざると油圧系統を損傷するおそれがあるため，吸入パイプの先にはストレーナが付いています。

■トランスミッションオイルフィルタカートリッジの交換

（初回は 50 時間，2 回目は 200 時間，3 回以降は 200 時間ごと）

＊ オイルフィルタカートリッジを交換する前に必ずエンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ 十分にエンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

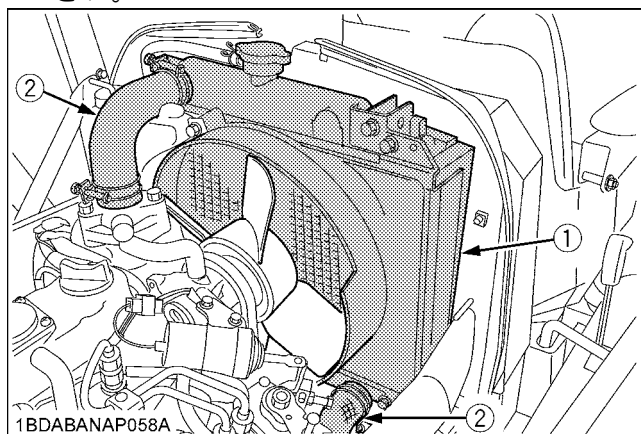
1. オイルフィルタカートリッジはフィルタレンチを使用して取外してください。
2. 新しいカートリッジのゴムのパッキンにオイルを薄く塗布してください。
3. 新しいカートリッジを手でねじ込み，シール面にパッキンが接触してから手で十分に締付けてください。きつく締めすぎるとゴムのパッキンが変形するおそれがあります。
4. カートリッジを交換したときは，トランスミッションオイルが少なくなるのでしばらく運転し，シール面から油漏れがないのを確認したあと，オイルゲージでオイルの量を必ず確認し，規定位置までトランスミッションオイルを補給してください。

(1) オイルフィルターカートリッジ

重 要

＊ 油圧系統の故障を防ぐために，取付けるフィルタは高効率の10 μmフィルタにしてください。クボタ純正フィルタまたは同等のもののみ使用してください。

■ラジエータホースと締付けバンドの点検

200時間使用ごとまたは6ヶ月ごとにラジエータホースがしっかりと固定されていることを点検してください。

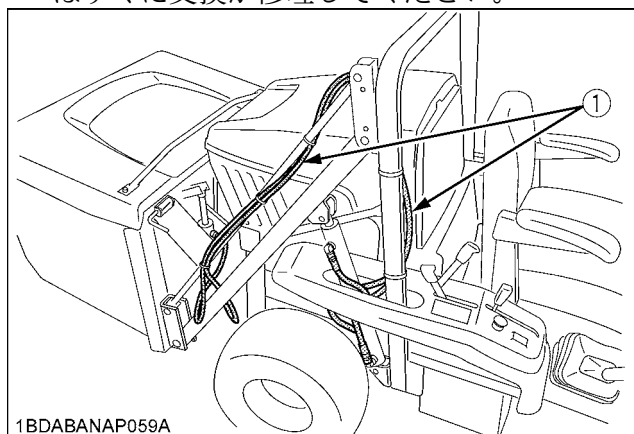
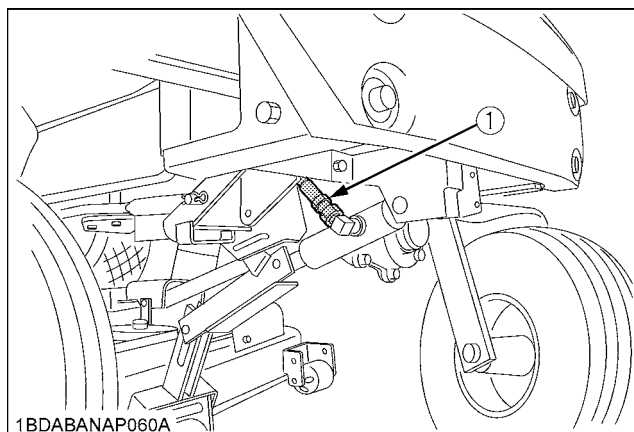
1. 締付けバンドがゆるんでいたり，水が漏れている場合にはバンドをきっちりと締めてください。
2. ラジエータホースが膨れていたり，堅くなったり，ひび割れしている場合にはホースを取替え，締付けバンドをきっちりと締めてください。

(1) ラジエータコア
(2) ラジエータホース

■油圧ホースの点検

注 意

＊ 油圧ホースを点検する前に必ずエンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ エンジン停止直後はオイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。しばらく時間をおいて実施してください。

200時間使用ごと油圧ホースがしっかりと固定されていることを点検してください。

1. すべてのホースと接手がきっちり締まっており，損傷がないことを点検してください。
2. ホースや接手に擦り切れや損傷がある場合にはすぐに交換か修理してください。

(1) 油圧ホース

(1) モーアリフトシリンダホース

■前車軸の旋回軸の調整

前車軸の旋回軸ピンが正しく調整されていないと、前輪が振動することがあります。振動が発生した場合は購入先に連絡し、前車軸を調整してもらってください。

400 時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタの交換

400時間ごとまたは燃料フィルタが詰まっているのを発見した場合は交換してください。燃料フィルタの交換は必ず購入先で行なってください。

1 年ごとの点検・交換

■エアクリーナエレメントの交換

１年ごとにエアクリーナエレメントを交換してください。

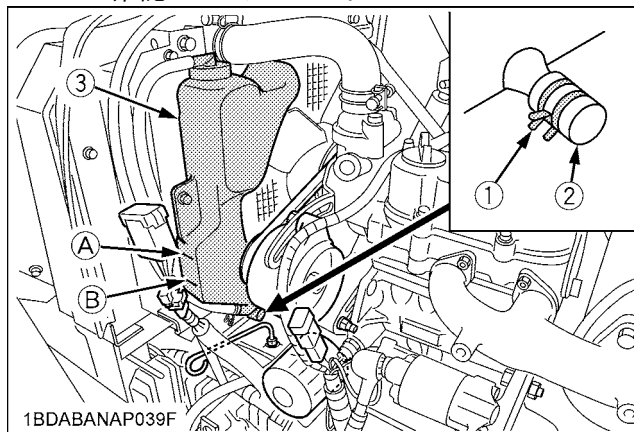
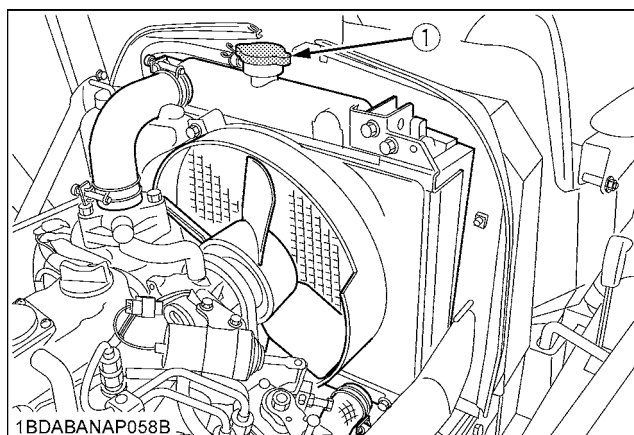
■ラジエータ内の清掃および冷却水の交換

◆ ラジエータ内の清掃

1. ラジエータ内は次の機会に清掃を行なってください。
   (A) １年ごと
   (B) 不凍対策を行なったとき
2. ラジエータを掃除するときには付着した水アカを効果的に取除くためにラジエータ洗浄剤の使用をお勧めします

◆ 冷却水の交換

＊ 運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
＊ 開けるときはキャップを完全に開ける前に超過圧力を解放するための止め金までわずかにキャップをゆるめてください。

1. エンジンを止め，十分に冷やしてください。
2. ラジエータのドレーンプラグを外し，ラジエータキャップを外して冷却水を抜いてください。ラジエータキャップは完全に冷却水をラジエータから抜き取るために外します。
3. ドレーンプラグを元に戻します。
4. 新しい冷却水を補充してください。リザーブタンクの冷却水位が上限と下限の間にあることを確認してください。

(1) クランプ
(2) ドレーンプラグ
(3) リザーブタンク
(A) 上限
(B) 下限

(1) ラジエータキャップ

重　要

＊ 冷却水の無い状態でエンジンを始動しないでください。
＊ ラジエータとリザーブタンクにはクーラント(LLC50％）を入れてください。
＊ ラジエータキャップとタンクキャップをきっちりと締めてください。

2年ごとの点検・整備

■油圧ホースの交換

２年ごとまたはホースが膨れていたり，堅くなったり，ひび割れているのを発見した場合にはホースと接手を交換してください。

■燃料ホースの交換

２年ごとまたは燃料ホースが損傷しているのを発見した場合は交換してください。燃料ホースの交換は必ず購入先で行なってください。

■ラジエータホースと締付けバンドの交換

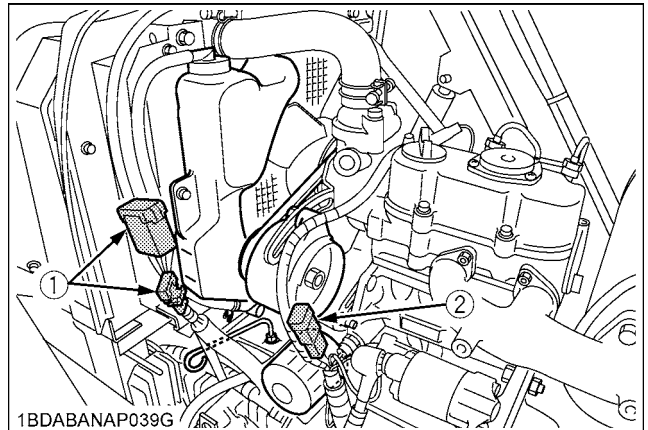
２年ごとまたは点検してラジエータホースが膨れていたり，堅くなったり，ひび割れているのを発見した場合にはホースと締付けバンドを交換してください。

■モーアギヤボックスオイルシールの交換

モーアギヤボックスオイルシールの交換は必ず購入先で行なってください。

必要に応じた点検・整備

■ヒューズの交換

1. ボンネットを開けてください。
2. 切れたヒューズを取外してください。
3. 正しい位置に新しい同じ容量のヒューズを入れてください。

(1) ヒューズ位置
(2) スローブローヒューズ

重　要

＊ 新しいヒューズがすぐに切れてしまう場合には購入先に連絡をとり，点検または修理してもらってください。決して針金や銀紙などでヒューズを短絡しないでください。

保護されている回路

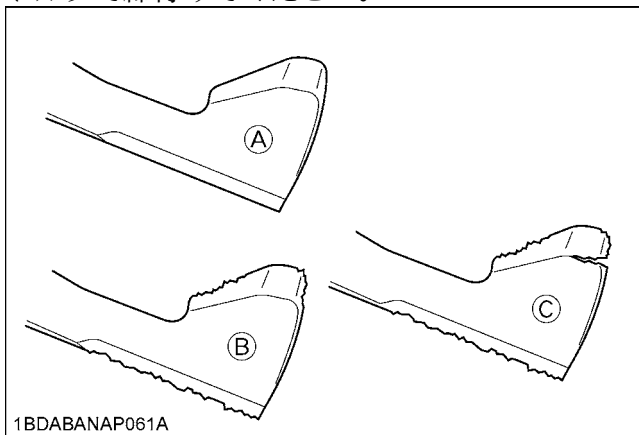
ヒューズNo.	容量（A）	保護回路
(1)	20	エンジンストップ
	15	充電システム
	15	外部取出し用
	15	メインシステム
	10	制御システム
(2)	スローブローヒューズ 30	バッテリ接続不良に対する点検回路

■刈刃の点検

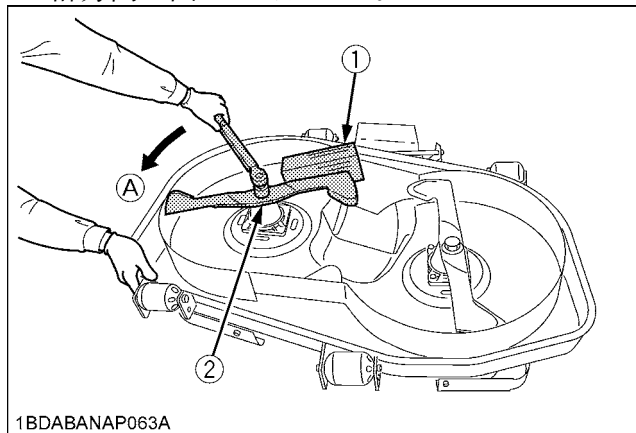
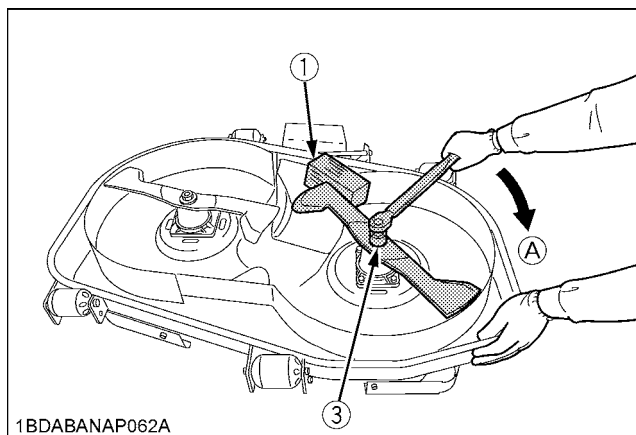
注 意

＊ エンジンを止めて，キーを抜いてください。
＊ 刈刃は鋭くなっています。刈刃に触るときには革手袋をするか，刈刃の端を布で覆ってください。

◆ 点検

刈刃の刃先は常に鋭くしておく必要があります。刈刃が(B)の様になっている場合には刃を研磨してください。(C)の様になっている場合には刈刃を交換してください。また，刈刃の取付けボルトのゆるみを点検し，ゆるんでいる場合には規定のトルクで締付けてください。

(A) 新しい刈刃
(B) 摩耗した刈刃
(C) 破損した刈刃

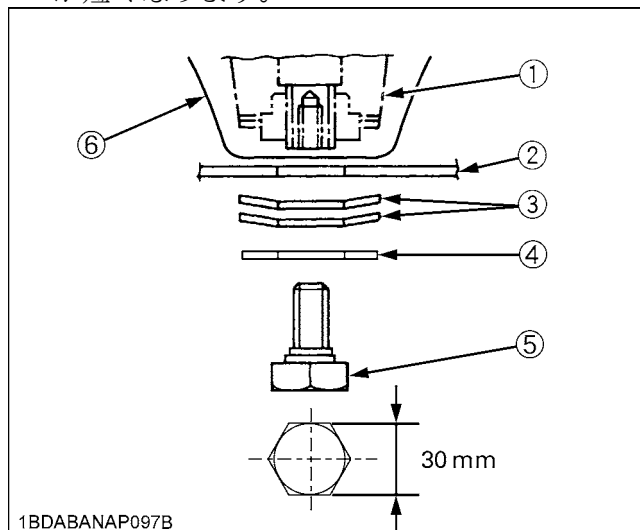
◆ 交換

1. モーアデッキを本機から外し，刈刃が見えるように仰向けにしてください。
2. 木片を図のように刈刃とモーアデッキの間に入れて固定してください。
3. 刈刃 (2) のボルトは右ネジです。ゆるめるときには反時計方向に回してください。刈刃 (3) のボルトは左ネジです。ゆるめるときには時計方向に回してください。

(1) 木片
(2) ボルト
(3) ボルト
(A) ゆるむ

補 足

＊ 刈刃取付けボルトの着脱は適切なソケットレンチまたはメガネレンチを使用してください。

4. 刈刃を研磨するときは刈刃をバイスに確実に固定してください。大きな研磨機を用いて，元の角度に沿って鋭くなるまで研磨してください。
5. 刈刃のバランスを点検するには中央の穴に細い棒を通してください。刈刃のバランスがとれていない場合には刈刃の重い側をバランスがとれるまで削ってください。
6. 刈刃を取付けるには刈刃とボルトの間に皿バネを確実に入れてください。

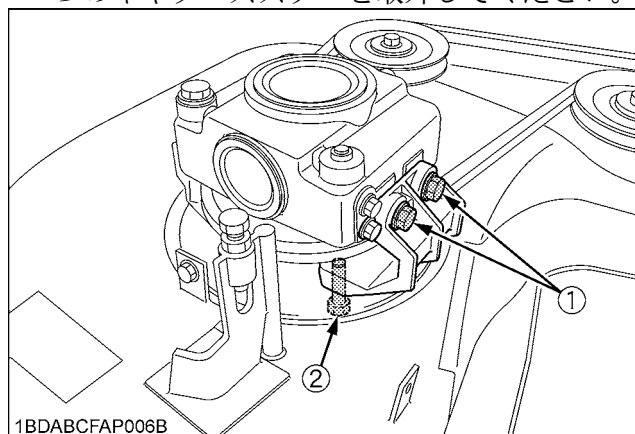
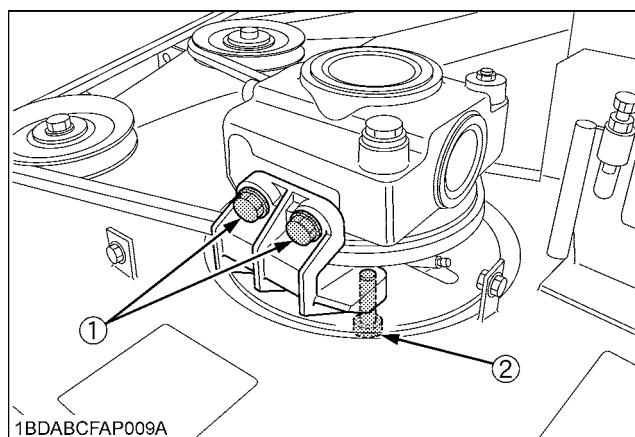
7. 刈刃を点検，交換する前にモーアの上と内部の草を拭取り，土を落としてください。特にベルトカバーの内部をきれいにしてください。きれいにしておかないと，ベルトの寿命が短くなります。

(1) 主軸ホルダ
(2) 刈刃
(3) 皿バネ
(4) カラー
(5) ボルト
(6) カバー

重　要

＊ 刈刃のボルトは98～117.6 N·m(10～12 kgf·m) のトルクで締めてください。

■モーアベルトの交換

“モーアの組付け” の指示に従ってモーアデッキを本機から外してください。

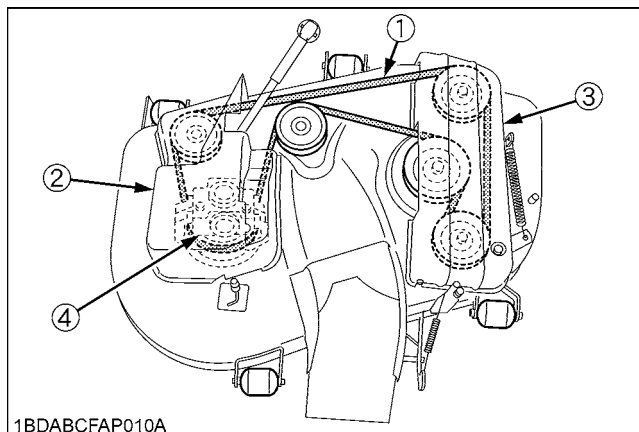
1. モーアデッキからベルトカバーを外してください。
2. 左前のプーリからベルトを外してください。プーリを回しながら外してください。
3. プーリまわりをきれいにしてください。
4. ギヤボックスをモーアデッキに止めている2つのギヤケースステーを取外してください。

(1) リーマボルト
(2) リーマボルト，ナット

(1) ボルト
(2) ボルトナット

重　要

＊ ステーを取付ける時はリーマボルトから締めてください。

補　足

＊ ギヤケースステーのボルトの締付けは下記のトルクで行なってください。

リーマボルト(1)とボルト(1) (ギヤケースとの取付け)	77.6～90.2 N・m (8.0～9.2 kgf・m)
リーマボルト(2)とボルト(2) (モーアデッキとの取付け)	48.1～55.9 N・m (4.9～5.7 kgf・m)

(1) ベルト
(2) ベルトカバー（左）
(3) ベルトカバー（右）
(4) ギヤボックス

■燃料の空気抜き

次の場合，燃料系統に空気が入りますので，空気抜きを行なってください。

1. 燃料フィルタ，燃料ホースを交換したとき
2. 燃料タンクが完全に空になったとき
3. 本機を長期間使用していないとき

◆ 空気抜き

次の要領で行なってください。

1. 燃料タンクに燃料を入れる。
2. エンジンを始動し，約 30 秒後，エンジンを停止する。

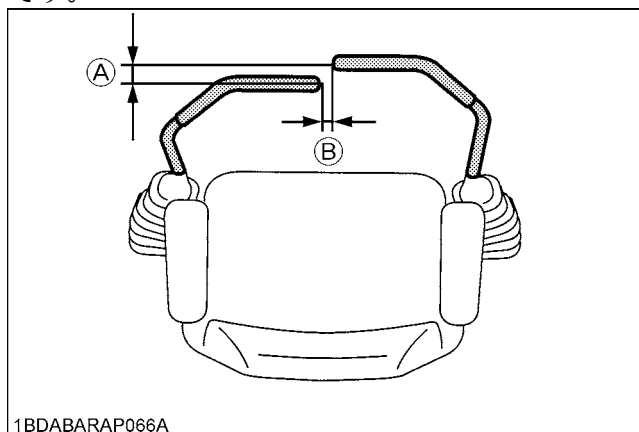
速度調整レバーの調整

■速度調整レバーの左右バランス調整

◆ 左右バランスの確認

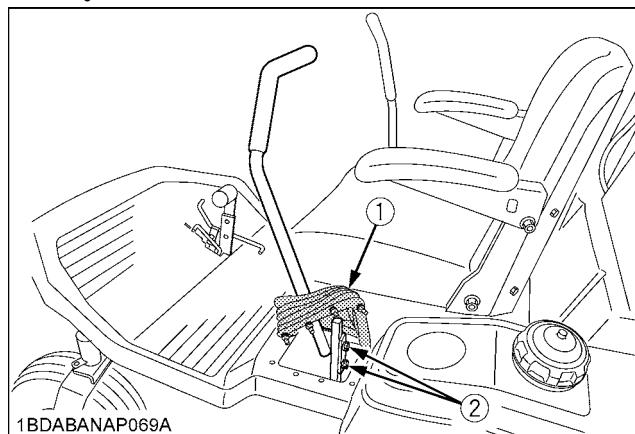
前進方向の最高速度の位置での左右のレバーの間隙と間隔を確認してください。

推奨	(A)：0～5 mm (B)：10～20 mm

レバーの位置が同じでない場合には調整が必要です。

◆ レバーのバランス調整

1. エンジンを停止させ駐車ブレーキを掛けてください。
2. ナットをゆるめてゴムカバーを外してください。

レバー位置（高低）

3. ボルトをはずし速度調整レバーの位置を高低どちらか選択してください。
4. ボルトを締め，ゴムカバーを装着してください。

(1) ゴムカバー
(2) ボルト

左右バランスの調整

5. ボルトをゆるめてください。
6. 左右両方のレバーを前後にずらし，すきまが十分小さくなるように調整してください。
7. ボルトを締めてください。

ゴムカバーの取外し

注 意

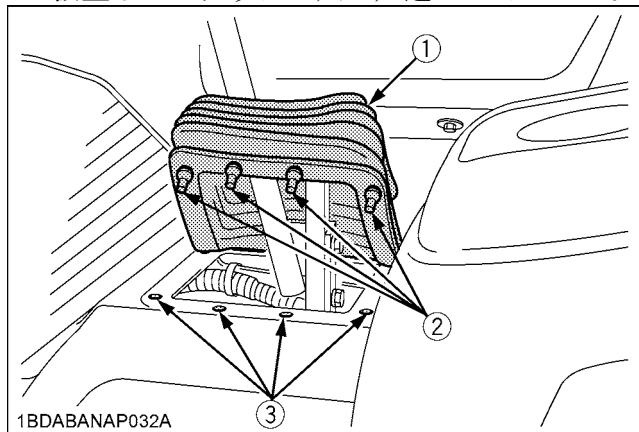
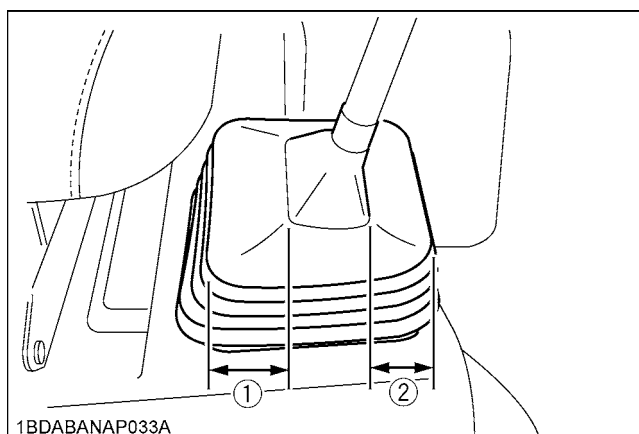
＊ 本機を平たんな場所に駐車してください。
＊ エンジンを停止してキーを抜き，駐車ブレーキをかけてください。

1. 抜止めをステップの穴から抜いてください。
2. ゴムカバーを引上げてください。

ゴムカバーの取付

1. 幅の広い方が内側にくるようにセットしてください。
2. 抜止めをステップの穴に差込んでください。

(1) ゴムカバー
(2) 抜止め
(3) 穴

(1) 幅広
(2) 幅狭

モーアデッキ高さの調整

■モーアデッキの調節（左右）

＊ 本機は水平な場所に駐車してください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。
＊ PTO を“切”にしてください。
＊ モーアデッキ高さの点検，調整中にはエンジンを停止させ，キーを抜き，モーアのユニバーサルジョイントを外してください。

重 要

＊ タイヤの空気圧を点検し規定圧力にセットしてください。
　タイヤの空気圧が規定値から外れていると，正確な刈高さに調整できません。
　（**“タイヤ及び車輪”**の章を参照してください。）

◆ 高さの確認（左右）

補 足

＊ モーアデッキの補助輪は地面と接しないようにしてください。

1. モーアデッキを移動する際の高さに上昇させてください。（または最も高い位置）
2. 刈高さ調整ダイヤルを回し，80 mm（3インチ）に合わせてください。
3. モーアデッキを下降させてください。
4. 後車軸と平行になるように右刈刃を回してください。
5. 右刈刃の外側の先端から地面までの高さを定規で測ってください。

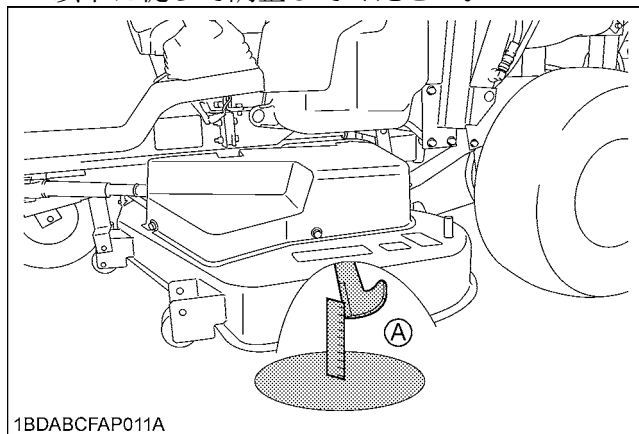
参照

コンクリートの地面での刈刃の高さ	80 mm（3インチ）

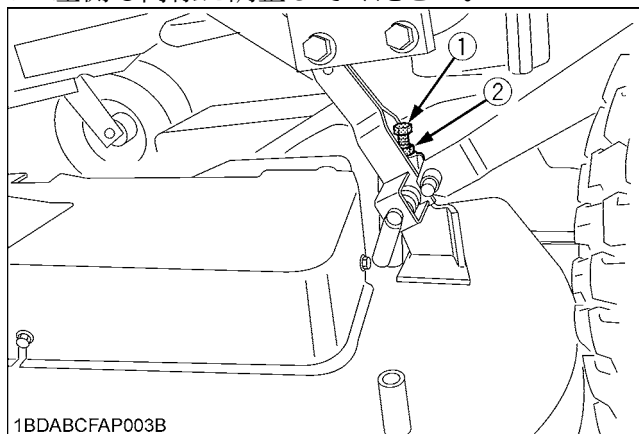
補 足

＊ コンクリートの地面と土の地面では刈刃の高さが異なります。

6. 右刈刃と同じように，左刈刃の外側の先端から地面までの高さを測ってください。左右の刈刃の高さの差は3 mm（0.1 インチ）以下でなければなりません。

7. 左右の測定値の差がこれ以上である場合には以下に従って調整してください。

(A) “左右方向”

◆ **高さの調整（左右）**

1. モーアデッキを移動する際の高さに上昇させてください。（または最も高い位置）
2. 刈高さ調整ダイヤルを回し，80 mm（3インチ）に合わせてください。
3. 51 mm（2インチ）の木片をモーアデッキの両側の下に敷いてください。このとき補助輪が木片にのらないように注意してください。
4. モーアデッキを下降させてください。
5. 右刈刃を後車軸と平行にしてください。
6. 本機右側のロックナットをゆるめてください。
7. モーア高さ調整ボルトを回して刈刃の高さが80 mm（3インチ）になるように調整してください。
8. ロックナットを締めてください。
9. 左側も同様に調整してください。

(1) 刈高さ調整ボルト
(2) ロックナット

10. 地面までの左右の刈刃の高さを測定してください。そして，左右の測定値の差が3 mm以下であることを確認してください。
その差が3 mm以上の場合は，再度，調整が必要です。

■モーアデッキの調節（前後）

注 意

* **本機は平たんな場所に駐車してください。**
* **駐車ブレーキを掛けてください。**
* **PTO を“切”にしてください。**
* **モーアデッキ高さの点検，調整中にはエンジンを停止させキーを抜き，モーアのユニバーサルジョイントを外してください。**

重 要

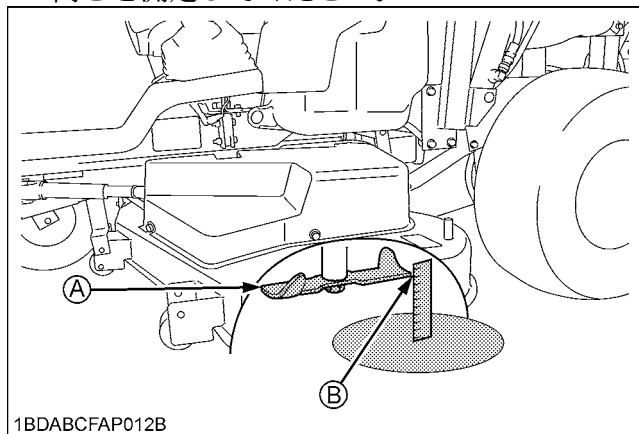
＊ タイヤの空気圧を点検し規定圧力になるまで空気を入れてください。
（**“タイヤ及び車輪”**の章を参照してください）

◆ **高さの確認（前後）**

補 足

＊ モーアデッキの補助輪は地面と接しないようにしてください。

1. モーアデッキを移動する際の高さに上昇させてください。（または最も高い位置）
2. 刈高さ調整ダイヤルを回し，80 mm（3インチ）に合わせてください。
3. モーアデッキを下降させてください。
4. 後車軸と直角になるように右刈刃を回してください。
5. 右刈刃の前側の先端（A 点）から地面までの高さを定規で測ってください。
6. 右刈刃の前側と同じように後側の先端（B 点）から地面までの高さを測ってください。
7. 右刈刃の前側の高さと，後側の高さの差は6 mm以下であり，かつ前側は後側より低くならなければなりません。
そのようになっていない場合，調整が必要です。

8. 右刈刃と同じように，左刈刃の前端と後端の高さを測定してください。

(A) 前
(B) 後

◆ 高さの調整（前後）

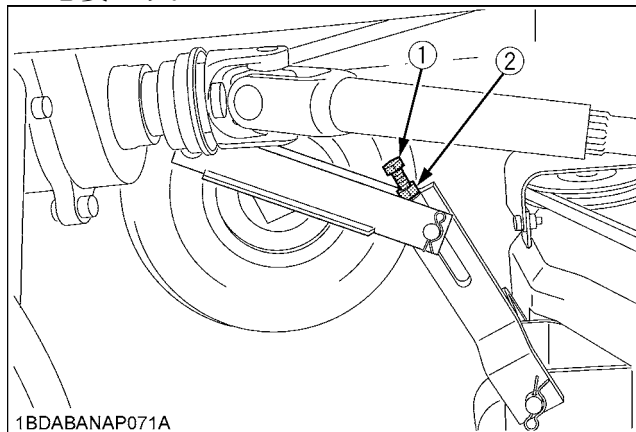
1. モーアデッキを移動する際の高さに上昇させてください。(または最も高い位置)
2. 刈高さ調整ダイヤルを回し，80　mm（3インチ）に合わせてください。
3. 51 mm（2インチ）の木片をモーアデッキの両側の下に敷いてください。このとき補助輪が木片にのらないように注意してください。
4. モーアデッキを下降させてください。
5. 本機前側のロックナットをゆるめてください。
6. モーア刈高さ調整ボルトを回して刈刃の高さが 80 mm（3インチ）になるように調整してください。
7. ロックナットを締めてください。

重 要

＊ 前後の測定値の差は6 mm (0.24インチ) 以下でなおかつ前側は後側よりも低くなければなりません。

8. 刈刃の前側の高さと，後側の高さの差が6 mm以下であり，かつ前側は後側より低くなっていることを確認してください。
そのようになっていない場合，再度，調整が必要です。

(1) 刈高さ調整ボルト
(2) ロックナット

格納

人身事故を避けるために
＊ 火災を起こさないようにマフラやエンジンの冷却状態を確認してから車体を格納してください。
＊ 有害な排気ガス中毒の危険を避けるために適切な換気装置のない屋内でエンジンをかけないでください。
＊ エンジンが回っている状態で本機の清掃を行わないでください。
＊ 火災を起こさないようにモーアや集草バッグに付いている草や枯れ葉を取除いてください。
＊ 格納するときには他の人が操作できないようにキースイッチからキーを抜いておいてください。

本機を長期間使用しない場合は,以下の要領で整備してから格納しましょう。

1. 不具合箇所は整備してください。
2. 必要に応じてボルトとナットのゆるみを点検してください。
3. さびやすい部分にはグリースかオイルを塗っておいてください。
4. モーアを外すか地面に降ろした状態にしてください。
5. 駐車ブレーキをかけてください。
6. バッテリを本機から外し，充電し，バッテリ液を適量補充し，乾燥した冷暗所に保管してください。
   バッテリは保管している状態でも放電をします。夏季は３ヶ月に１度，冬季は６ヶ月に一度充電してください。
7. 本機は雨よけのある乾いた場所に格納してください。
8. 刈り草に含まれる水分によりモーアや集草バッグは傷みます。格納前に適切に清掃してください。

◆ 格納後の処置

1. タイヤの空気圧を点検し適切な圧力に調整してください。
2. バッテリを取付けてください。バッテリの取付け前に再充電し，十分に充電されていることを確認してください。
3. 日常点検を行なってください。（**“日常点検”**の項を参照)
4. オイル量(エンジンオイル,トランスミッションオイル）を点検してください。
5. 一度エンジンを始動し，停止した後で本機の周囲にオイル等の漏れ，飛散がないかを点検してください。
6. 駐車ブレーキを外し，ブレーキの遊びが適切かを確認してください。
7. 負荷をかける前にエンジンを２，３分運転してください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	1. 燃料が流れない。	● 燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を取り除く。 ● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	2. 燃料送油系に，空気や水が混入している。	● ホース，プラグ，袋ナットおよび締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換または補修しておく。
	3. 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	● 気温によりオイルの使い分けをする。
	4. バッテリがあがり気味。	● バッテリを充電する。
出力不足の場合	1. エアクリーナエレメントが詰まっている。	● エレメントを清掃する。
	2. 燃料不足。	● 燃料を補給する。 ● 燃料系統を調べる。（特に空気混入に注意）
	3. 燃料の流れ不足。	● 燃料フィルタの清掃をする。
突然停止した場合	1. 燃料不足。	● 燃料を補給する。
	2. 燃料が流れない。	● 燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	1. 燃料が悪い。	● 良質の燃料に交換する。
マフラから黒煙が出て，出力が低下した場合	1. エアクリーナエレメントが詰まっている。	● エレメントを清掃する。
マフラから青白色煙が出た場合	1. エンジンオイルの入り過ぎ。	● 正規のオイル量にする。
イージーチェッカの水温計が点灯した場合	1. 冷却水の量が不足している。	● 正規の冷却水量にする。
	2. ファンベルトの張りがゆるんでいる。	● ファンベルトの張りを適正に調整する。
	3. 冷却水路が腐食している。	● 冷却水路を洗浄し冷却水を交換する。
	4. ラジエータネットまたはパネルスクリーンにゴミやほこりが付着している。	● 清掃する。
オーバーヒートした場合	1. 冷却水の量が不足している。	● 正規の冷却水量にする。
	2. ファンベルトの張りがゆるんでいる。	● ファンベルトの張りを適正に調整する。
	3. 冷却水路が腐食している。	● 冷却水路を洗浄し冷却水を交換する。

わからない場合は購入先にご相談ください。

バッテリの不調と処置

バッテリの取扱いには，バッテリに関する項目の注意事項をよく読んで十分注意してください。

現　象	原　因	処　置
スタータが作動しない場合	1. バッテリが充電されていない。	● 十分にバッテリを充電する。
	2. バッテリ端子の接触不良	● 端子をきれいにして締付ボルト，ナットを締め直す。（スタータ，フレーム側とも）
	3. バッテリの寿命	● バッテリを交換する。
	4. ワイヤハーネスやスイッチの不良	● 購入先に補修を依頼する。
スタータが作動しかけて止まったり，ランプがみるみるうちに暗くなる場合	1. バッテリの充電が不十分	● 十分にバッテリを充電する。
給水プラグをあけて電極を見ると白っぽく見える場合（キャップ式）	1. バッテリ液が不足したままで使っていた。	● 蒸留水を適量追加して，充電する。
	2. 充電せずにバッテリを使用した。	● 十分にバッテリを充電する。
充電をしても充電ができない場合	1. バッテリの寿命	● バッテリを交換する。
端子の腐食がひどく，端子が熱くなる場合	1. 端子の締付不足	● 端子をきれいにして締付ボルト，ナットを締め直す。
バッテリ液が急に少なくなった場合	1. バッテリにひび割れや小さな穴がある。	● バッテリを交換する。
	2. 充電電圧が高過ぎた。	● 充電器を点検する。

わからない場合は購入先にご相談ください。

本機の不調と処置

現　象	原　因	処　置
スムーズに走行しない場合	1. トランスミッションオイルが不足している。	● トランスミッションオイルを適量追加する。
トラクタが動かない（エンジンは回転している）場合	1. 駐車ブレーキがかかっている。	● 駐車ブレーキを解除する。
	2. トランスミッションオイルが不足している。	● トランスミッションオイルを適量追加する。
速度調整レバーが **“中立固定”** でも本機が動く（エンジンは回転している）場合	1. HST変速リンクの中立調整が適切でない。	● 購入先に調整を依頼する。

わからない場合は購入先にご相談ください。

モーアの草刈り性能の不調と処置

現　象	原　因	処　置
刈草がうまく排出されない場合	1. 芝が湿っている。	● 芝が乾燥してから作業する。
	2. 芝が長い。	● 刈高さを高くして，２度刈りをする。
	3. 刈高さが低い。	● 刈高さを高くする。
	4. エンジン回転が低い。	● エンジン回転を高くする。
	5. 作業速度が速い。	● 作業速度をおとす。
	6. ダクトが詰まっている。	● ダクト内の草を除去する。
刈残しが出る場合	1. 作業速度が速い。	● 作業速度をおとす。
	2. エンジン回転が低い。	● 最高回転にする。 ● エンジン回転数をチェックする。
	3. 芝が長い。	● ２度刈りをする。
	4. 刈刃の磨耗，破損。	● 新しい刈刃と交換する。
	5. モーアデッキ内面への草の堆積。	● モーアデッキ内面を清掃する。
均平に刈れない場合	1. モーアデッキが水平でない。（傾いている。）	● モーアデッキを水平にする。
	2. 作業速度が速い。	● 作業速度をおとす。
	3. 刈刃の切味が悪い。	● 刈刃を研ぐ。
	4. 刈刃の磨耗。	● 新しい刈刃と交換する。
	5. タイヤの空気圧が低い。	● 正しい空気圧となるように空気を入れる。
芝削り（土削り）を発生する場合	1. 刈高さが低い。	● 刈高さを高くする。
	2. 旋回速度が速い。	● 旋回時の速度をおとす。
	3. 地形にうねりがある。	● 芝刈作業のパターン（刈取方向など）を変える。
	4. 刈刃の曲がり。	● 新しい刈刃と交換する。
	5. タイヤの空気圧が低い。	● 正しい空気圧となるように空気を入れる。
ベルトがスリップする場合	1. モーアデッキ内に草が詰まっている。	● モーアデッキ内を清掃する。
	2. プーリへの草の堆積。	● プーリをきれいに掃除する。
	3. ベルトの磨耗。	● 新しいベルトと交換する。

現　象	原　因	処　置
振動が大きい場合	1. モーアデッキ上及びプーリに草が堆積している。	● モーアデッキ及びプーリを掃除する。
	2. ベルトの破損。	● 新しいベルトと交換する。
	3. ベルトのねじれ。	● ベルトのねじれを直す。
	4. プーリの破損。	● 新しいプーリと交換する。
	5. プーリのアライメント（芯合わせ）がずれている。	● 購入先に相談する。
	6. 刈刃のバランスが悪い。	● 新しい刈刃と交換するか，刈刃のバランスをとる。
モーアの作業負荷が大きい場合	1. エンジン回転が低い。	● 最高回転にする。
	2. 作業速度が速い。	● 作業速度をおとす。
	3. モーアの回転軸回りに草が堆積あるいは巻きついている。	● モーアを清掃する。
芝の先端がぎざぎざで灰色がかった茶色になる場合	1. 刈刃の切味が悪い。	● 刈刃を研ぐ。
	2. 刈刃の磨耗。	● 新しい刈刃と交換する。
	3. モーアデッキが水平でない。（傾いている。）	● モーアデッキを水平にする。

わからない場合は購入先にご相談ください。

集草バッグの不調と処置

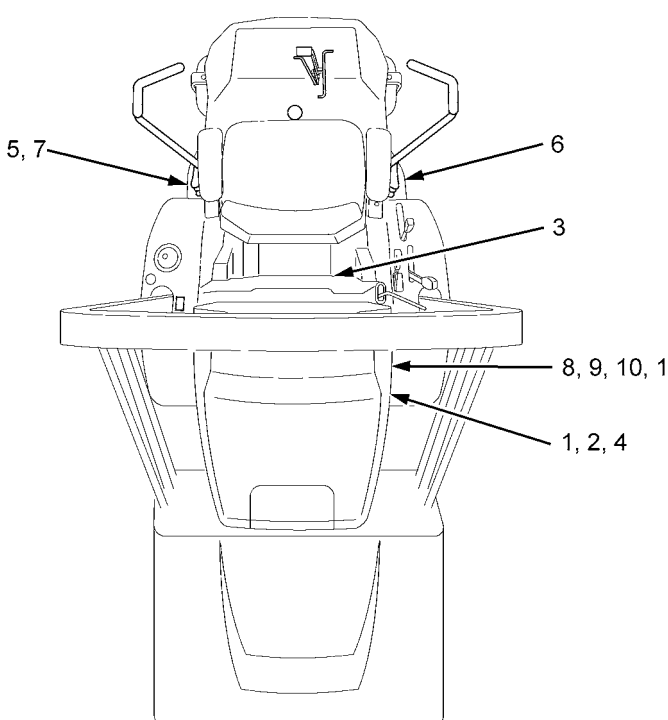
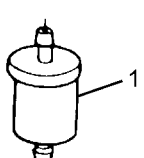
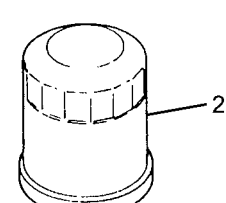
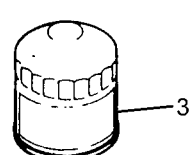
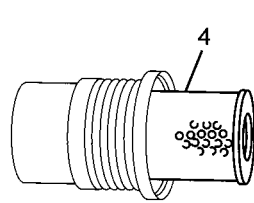
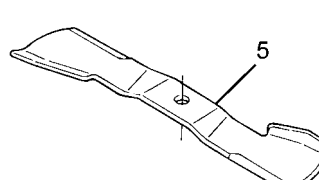
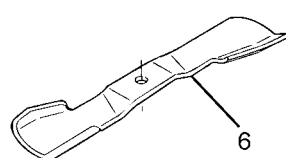
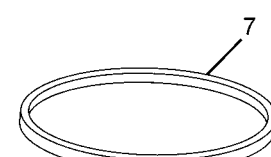
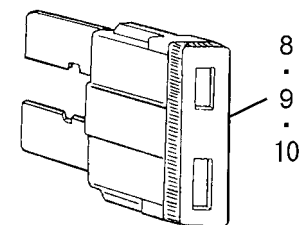
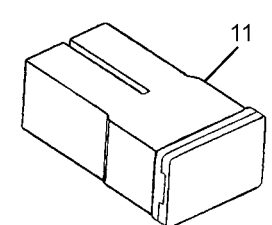
現　象	原　因	処　置
排出ダクトが詰まる場合	1. 芝が湿っている。	● 芝が乾燥してから作業する。
	2. 芝が長い。	● 刈高さを高くして，2度刈りをする。
	3. 刈高さが低い。	● 刈高さを高くする。
	4. エンジン回転が低い。	● エンジン回転を高くする。
	5. 作業速度が速い。	● 作業速度をおとす。
	6. 集草バッグが一杯である。	● 刈草を排出する。
	7. 集草バッグのネットが詰まっている。	● ネットを清掃する。
刈り草が集草されず刈り後に草が落ちている場合	1. ダクトが詰まっている。	● ダクト内の草を除去する。
	2. モーアデッキが詰まっている。	● モーアデッキ内を清掃する。
	3. 集草バッグのネットが詰まっている。	● ネットを清掃する。
	4. 集草バッグが一杯である。	● 草を排出する。
	5. クイッククリーンレバーが戻り切っていない。	● 確実にもとに戻す。

わからない場合は購入先にご相談ください。

付表

ゼロ旋回モーアの主要諸元

<table>
<tr><td colspan="3">型式名</td><td>GZD15-II HD</td></tr>
<tr><td rowspan="11">エンジン</td><td colspan="2">機関型式</td><td>Z602</td></tr>
<tr><td colspan="2">形式</td><td>水冷４サイクル２気筒立形ディーゼル</td></tr>
<tr><td colspan="2">総排気量 cm³(cc)</td><td>599(599)</td></tr>
<tr><td colspan="2">シリンダ内径×行程 (mm)</td><td>72 × 73.6</td></tr>
<tr><td colspan="2">最大出力（グロス）(kW/PS)</td><td>11.2/15</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用燃料</td><td>２号軽油（－ 10℃以上）３号軽油（－ 10℃以下）</td></tr>
<tr><td colspan="2">始動方式</td><td>セルモータ式</td></tr>
<tr><td colspan="2">潤滑方式</td><td>強制潤滑</td></tr>
<tr><td colspan="2">冷却方式</td><td>水冷ラジエータ式</td></tr>
<tr><td colspan="2">バッテリ容量</td><td>12V 52Ah</td></tr>
<tr><td rowspan="4">容量</td><td colspan="2">燃料タンク (L)</td><td>19</td></tr>
<tr><td colspan="2">エンジンオイル (L)</td><td>2.1</td></tr>
<tr><td colspan="2">ラジエータクーラント (L)</td><td>1.4</td></tr>
<tr><td colspan="2">ミッションオイル (L)</td><td>10</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">タイヤ</td><td>前輪</td><td>15 × 6.0 － 6（ ４ PR）</td></tr>
<tr><td>後輪</td><td>20 × 10.0 － 8（ ４ PR）</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">走行速度</td><td>前進 (km/h)</td><td>0 ～ 13.5</td></tr>
<tr><td>後進 (km/h)</td><td>0 ～ 10.0</td></tr>
<tr><td rowspan="7">車両寸法</td><td colspan="2">全長(集草バッグ含む)（mm）</td><td>2785</td></tr>
<tr><td colspan="2">全幅（モーア付） (mm)</td><td>1210</td></tr>
<tr><td colspan="2">全高 (mm)</td><td>1345</td></tr>
<tr><td colspan="2">軸距 (mm)</td><td>1285</td></tr>
<tr><td colspan="2">最低地上高 (mm)</td><td>109</td></tr>
<tr><td rowspan="2">輪距</td><td>前輪 (mm)</td><td>815</td></tr>
<tr><td>後輪 (mm)</td><td>850</td></tr>
<tr><td colspan="3">質量(モーア,集草機付) (kg)</td><td>554</td></tr>
<tr><td colspan="3">ＰＴＯクラッチ方式</td><td>油圧湿式多板クラッチ</td></tr>
<tr><td colspan="3">変速方式</td><td>油圧無段変速（HST）</td></tr>
<tr><td colspan="3">制動方式</td><td>湿式多板ブレーキ</td></tr>
</table>

注：この諸元は予告なく変更することがあります。

モーアの主要諸元

型式名	RC42GZD-II
装着方式	平行リンク装着
刈高さ調整方式	ダイヤル式
刈幅 (mm)	1067
刈高さ (mm)	25 ～ 102（ピッチ 6.4 mm），102 ～ 127（ピッチ 12.7 mm）
質量 (kg)	66
刈刃枚数 (枚)	2
全長 (mm)	985
全幅 (mm)	1125
全高 (mm)	255
刈草放出方向	後方

集草バッグの主要諸元

型式名	GC400HZ
集草容量 (L)	400
質量 (kg)	34
排出高さ (mm)	1800

主な消耗部品一覧表

フューエルフィルタ，アッシ
1
1BDAGAAAP012A
5, 7
6
3
8, 9, 10, 11
1, 2, 4
1BDAGAAAP011A
オイルフィルタ（エンジン）
2
1BDAGAAAP013A
オイルフィルタ
（トランスミッション）
3
1BDAGAAAP014A
エアクリーナエレメント
4
1BDAGAAAP015A
ブレード，ヒダリ
5
1BDAGAAAP016A
ブレード，ミギ
6
1BDAGAAAP017A
ベルト（モーア，120）
7
1BDAGAAAP018A
ヒューズ
8
・
9
・
10
1BDAGAAAP019A
スローブローヒューズ
11
1BDAGAAAP020A

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	フューエルフィルタ，アッシ	12581-4301-0	7	ベルト（モーア，120）	K5243-7142-0
2	オイルフィルタ（エンジン）	15853-3243-0	8	ヒューズ 20A	48100-5589-0
3	オイルフィルタ（トランスミッション）	K2561-3699-0	9	ヒューズ 15A	52200-4162-0
4	エアクリーナエレメント	6A100-8263-0	10	ヒューズ 10A	48100-5588-0
5	ブレード（42，ヒダリ）	K5243-7183-0	11	スローブローヒューズ（30A）	1G111-6572-1
6	ブレード（42，ミギ）	K5243-7193-0			

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は　まず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，該当する項目に記入されると便利です

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">購入先名

担当

電話番号（　　　）　　－</td><td>型式名</td></tr>
<tr><td>区分</td></tr>
<tr><td>車台番号（製造番号）</td></tr>
<tr><td>エンジン型式

エンジン番号</td></tr>
<tr><td>ご購入日</td><td>キーナンバー</td><td rowspan="2">その他装着型式

機械番号</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

※ご記入の際には、サービスと保証のページをご参照ください。
　なお、型式により該当しない記入項目もあります。

ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタアグリサービス株式会社

事務所	電話	郵便番号	住所
秋田事務所	電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台事務所	電(022)384-5162	〒981-1221	宮城県名取市田高字原182-１
東京事務所	電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５－２－36
新潟事務所	電(025)285-1261	〒950-0992	新潟市中央区上所上１－14-15
金沢事務所	電(076)275-1121	〒924-0038	石川県白山市下柏野町956-１
名古屋事務所	電(0586)24-5111	〒491-0031	愛知県一宮市観音町１－１
大阪事務所	電(06)6470-5850	〒661-8567	兵庫県尼崎市浜１－１－１
岡山事務所	電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市東区宍甘275
米子事務所	電(0859)39-3181	〒689-3547	鳥取県米子市流通町430-12
福岡事務所	電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１－７－３
熊本事務所	電(096)357-6181	〒861-4147	熊本市南区富合町廻江846-１
株式会社北海道クボタ本社	電(011)661-2491	〒063-0061	北海道札幌市西区西町北16-１－１
株式会社四国クボタ本社	電(087)874-8500	〒769-0102	香川県高松市国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタ

部署	電話	郵便番号	住所
国内農機カスタマーセンター	電(072)241-1375	〒590-0823	大阪府堺市堺区石津北町64

GZD15-Ⅱ HD
AT．G．5-5．1．AK

Kubota

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

品番　K2019-7121-4

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号